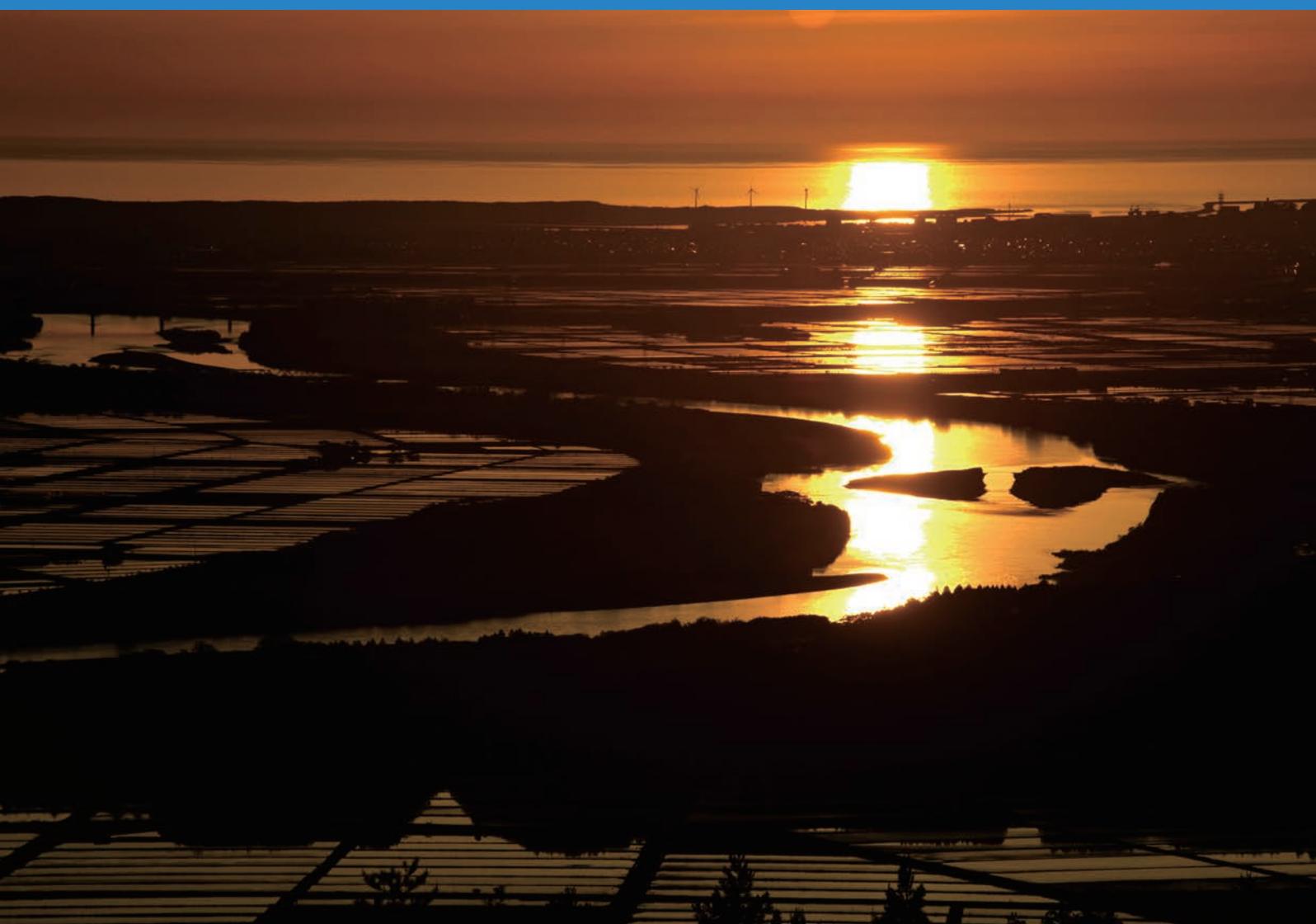


県病薬やまがた 広報誌

No. **34**
2023

Yamagata Hospital Pharmacist meeting

- 巻頭言
 - 会長就任あいさつ
 - 受賞にあたって
 - 施設紹介
 - 新人紹介
 - 活動報告
 - 会員報告
 - 総会報告・委員会報告
 - 会員名簿
 - 賛助会員名簿
 - 定 款
- 副会長 松田圭一郎
会 長 山口 浩明





『県病薬やまがた広報誌』No.34 発刊によせて

一般社団法人 山形県病院薬剤師会
副会長 松田圭一郎

2023年度の大きな話題の一つは、新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類感染症へ引き下げられたことではないでしょうか。それまでの医療体制としては、入院措置等の強い行政の関与があり、限られた医療機関による特別な対応が求められていましたが、今後は幅広い医療機関による自律的な通常の対応を求められるようになりました。感染対策も個人・事業者の判断が基本となり、世間的にはコロナ禍以前と変わらない雰囲気になってきています。この原稿を書いているお盆の時期は人の移動も活発で、8月の末にはどのような感染状況になっているか少し心配です。そんな中でも病院内ではゼロコロナ対応を継続している施設が多いと思いますが、入院患者そして職員の陽性者増加が目立ってきており、各施設の先生方もご苦労されていると思います。何とか乗り切りたいものですね。

山形県病院薬剤師会の大きな話題としては、今年度より山形大学医学部附属病院の山口浩明先生が会長に就任し、事務局も同薬剤部へ移行したことです。そして山口新会長ご指導の下、県病薬の組織改変が行われました。病院薬剤師を取り巻く環境が刻々と変化している現状に合わせて各委員会の再編を実施し、新たに病院薬剤師確保特別委員会、DX推進特別委員会を設置しています。更に、これまで地域によって4つのブロックを定めておりましたが、各地域の意見・課題等を吸い上げ易くする目的で5つのエリア(庄内、最上、村山、山形、置賜)へ細分化しエリアマネージャーを配置しています。病院薬剤師偏在指標をご覧になった先生方も多いと思いますが、山形県は全国の下から3番目である「0.60」というものでした。この数字は山形県全体の数字ですので県内でもさらに偏在があると思われると思います。今後、各エリアでの現状把握なども実施されると思いますので皆様の声を届け

ていただければと思います。そして、今年度は山形県病院薬剤師会55周年という年でもあります。11月25日には55周年記念式典を開催し、記念誌の発行も予定されております。是非、皆様のご協力をお願い致します。

また、2024年度から始まる「第8次医療計画」に向けて、厚生労働省からの基本方針等に基づいて各都道府県では今年度中に医療計画を作成し、来年度から実行することになります。その中のトピックとして薬剤師の確保があげられます。特に病院薬剤師の不足が喫緊の課題となっており、地域の実情に応じた薬剤師の確保策を可能な限り医療計画に記載するよう要請されています。そして、確保策の検討・実施にあたっては、都道府県(薬務主管課、医務主管課)、都道府県薬剤師会・病院薬剤師会等の関係団体が連携して取り組むこととされています。山形県病院薬剤師会としても積極的に行政と協力して取り組む方針としており、7月31日に県庁にて病院薬剤師確保特別委員会のメンバーが意見交換を実施しております。山形県では既に「山形県病院薬剤師奨学金返還支援事業」が立ち上がっていますので、これらの上手な活用方法や別の方策についても議論していきたいと考えています。

最後に、来年度から適用される「医師に対する時間外・休日労働の上限規制」についても病院薬剤師の業務に影響があると考えられ、タスク・シフト/シェアも今以上に求められてくるでしょう。病院薬剤師確保に関連した支援事業や処遇改善、医療DXへの対応など、病院薬剤師にとって頑張りどころの年です。会員皆様の力を集結して取り組まなければなりません。この広報誌では各施設紹介から新人紹介、各委員会の活動報告、DI情報など多くの情報が掲載されています。是非ご活用いただき皆様の情報共有の一助になることを祈念いたします。



会長就任あいさつ

一般社団法人 山形県病院薬剤師会

会長 山口 浩明

このたび、2023年5月20日に開催されました一般社団法人山形県病院薬剤師会理事会において、羽太光範前会長の後任として新会長に就任しました山口浩明でございます。会員の一人ひとりの考え方、思いを受け止め一般社団法人山形県病院薬剤師会の発展に汗を流していきたいと考えております。

長期化した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も2023年5月に感染症法上の位置付けが5類に移行され、社会経済活動も活発になってきましたが、各医療機関におかれましては、継続した感染症対策を実施しながら、日常業務にとどまらず医療の質向上に向けた新たな業務の確立等に忙しい毎日を過ごされていることと思います。

さて、一般社団法人山形県病院薬剤師会では、会員がより活発に活動できるよう、また組織運営に積極的に関わっていけるよう各委員会、認定・専門部会について検討し、新たな体制を構築しました。病院薬剤師に求められることが拡大していくなかで、タスク・シフト/シェアについて検討・推進し、潜在的な職能の可能性を探究するための薬剤業務委員会を立ち上げるとともに、新人研修会の開催をはじめとする、卒後教育・研修を含めた薬剤師の資質向上を支援する制度の構築および研修事業を実施する生涯研修委員会を設置しました。また、外来・病棟業務推進のための事業展開、中小病院におけるチーム医療・病棟業務、診療所における先進的な取り組みに関する実例と成果の収集と活用について検討する中小病院・療養病床・診療所委員会を設置しております。認定・専門部会について、がん・緩和領域をそれぞれ独立する部会に再編成しました。常設委員会以外に、昨今の我々を取り巻く大きな環境変化に対応するため、従来からのU-40特別委員会(常設委員会から特別委員会へ変更)に加え、病院薬剤師確保特別委員会、DX推進特別委員会を設置しました。各委員会、認定・専門部会に担当副会長を置き、委員会間の連携を図ることができるようにしました。さらに、これまでのブロック長

をエリアマネージャーへと名称変更し、庄内・最上・村山・山形・置賜各エリアにおける現状把握、病院薬剤師業務における諸問題への解決策策定と周知・実行をお願いしております。

先述のとおり、病院薬剤師確保特別委員会を設置しましたが、病院薬剤師不足は喫緊の課題となっております。厚生労働省より公表された薬剤師偏在指標において、山形県の病院薬剤師偏在指標は0.6と目標値である1を大幅に下回っています。2024年から開始される第8次医療計画に、薬剤師確保、特に病院薬剤師の確保策の検討について記載いただくよう山形県にお願いしているところでございます。なお山形県では、全国に先駆けて病院薬剤師奨学金返還支援事業を開始していただきました。病院薬剤師確保策の一つを早期に具現化していただき、感謝の念に堪えません。山形県との連携は、一般社団法人山形県病院薬剤師会にとって生命線であり、今後とも手を取り合って薬剤師確保に努めてまいります。中長期的に安定的な薬剤師確保に向けては、病院薬剤師確保特別委員会が中心となり、山形県内における薬学部の設立について公の場で要望しました。今後多くの議論が交わされることと思いますが、県民の総意としての前向きな結論が近い将来導かれることを祈念しております。

最後になりますが、薬剤師は多くの職種から評価され、今後益々の業務拡大が期待されています。マンパワー不足で苦しい実情ではございますが、現在の業務を見直して効率化する、あるいは機器の導入や非薬剤師を活用することにより、病棟業務をはじめとして外来患者やタスク・シフト/シェアへの対応などの業務展開を常に検討しながら、専門性を発揮し職能拡大できるように、会員が同じベクトルを向くことが大事だと考えます。情報連携を密にし、会員同士の絆がこれまで以上に強くなることを祈念いたします。今後とも一般社団法人山形県病院薬剤師会の活動へのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和4年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰 受賞にあたって



山形済生病院

薬局長 **羽太 光範**

この度、令和4年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰を賜り、関係各位の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、平成30年度から白石会長よりバトンを引き継ぎ、令和5年度の通常総会まで本会会長の任に当たり、とても濃厚な経験をさせていただきましたこと、非常に感慨深く思っております。

振り返れば、令和元年度に『県病薬やまがた広報誌』全面リニューアル、令和2年度には『ホームページ』全面リニューアル、令和3年度には念願の『一般社団法人化』の実現、令和4年度には『日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会』山形地元開催など、色々と大変な面はありましたが多くの薬剤師の先生方と一緒に仕事をさせていただきましたこと、今でも熱い思いが過ります。

これからも後進の成長と活躍を見守りながら、社会の一員として私なりに人生を歩んでまいりたいと思う次第です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度薬事功労者山形県知事感謝状 受賞にあたって



庄内余目病院

薬局長 **大川 賢明**

作秋、山形県庁におきまして薬事功労者山形県知事感謝状の授与に預かりました。御推薦を頂きました羽太前会長をはじめ、山形県病院薬剤師会という場において多くの研鑽の場を与えていただいた理事の先生方には心より深く御礼を申し上げます。

私が前職から病院という臨床の場に飛び込んだ当時はまだ分業の創成期で、設備や機器にも乏しい時代でしたが、当院の方針「いつでもどこでも誰でも断らない」という環境で、試行錯誤しながら夜昼なく仕事に明け暮れてきたことが、知らない間に自身の鍛錬になったと感じています。また県病薬の役員を努めさせていただき内外において様々なことにも関わらせて頂く中、長く中小病院の連携委員を担当する中で県内や東北の同じ思いを持った先生達と意見を交換する機会に恵まれたことは大きな喜びでもあり、私自身の支えでもありました。歳月は流れ後進を育てる立場にはなりましたが、まだ見ていない何かを一緒に探してまた歩く、そんな気持ちを持ち続けてこれからも精進していきます。

令和5年度永年会員表彰を受賞して



天童温泉篠田病院

鈴木 純一

この度は永年会員表彰をいただき誠にありがとうございます。
多くの方に助けていただきなんとかここまでやってきたという感
じで、本当にご指導頂いた諸先輩先生方に深く感謝申し上げます。

病院を4年勤務後、大学病院前の調剤薬局勤務を20年、そして
現在の病院勤務が5年目と正直いろいろな環境で業務し、現在に
至ります。

振り返ると薬剤師業務は大きく変化したと感じます。院外処方
発行の広まりなどで業務形態・業務内容それぞれの幅が広がりま
した。そして多くの現場における薬剤師の活躍で「顔の見えない
薬剤師」から「顔の見える薬剤師」に変わり、業務に対する責任感
も変化してきたと感じます。そのような中で、自分は何をしてき
た？何が出来た？と今になり反省するところです。

これからは、反省点を踏まえつつ自分に出来ることを考え、そ
して具体的に行動できるように努めていきたいと思えます。

令和5年度永年会員表彰を受賞して



山形県立河北病院

結城 正幸

この度は永年表彰を頂くことができ、誠に光栄に思います。ご指導いただいた諸先輩方やお世話になった皆様に、深く感謝申し上げます。

県職員として入職したのが、ついこないだのような気がします。働き始めた頃、最初の壁が手書き処方せんを読むこと。先輩から「読むんじゃない、解説するんだ」と言われ、驚いたことを思い出します。

病院のみ26年間、思い返すと様々な業務を行ってきました。院外処方せんを発行するようになり病棟業務が始まり、抗がん剤調製、DMATとしての災害医療、日赤救護班等、働き始めた頃には考えもしなかったことがたくさんありました。ここまでこれたのは、一緒に働いた仲間のおかげだと、感謝しております。

県職員は3月で退職しましたが、現在も同じ職場で働きながら、新しい生活の準備を行っています。今後も薬剤師として地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

令和5年度永年会員表彰を受賞して



山形市立病院済生館

延川 正雄

この度は、永年会員表彰をいただき、誠にありがとうございます。多くの頼れる先輩方や病院スタッフ、頼もしい後輩たちはもちろん、多くの病院薬剤師会のみなさんに支えられて、これまで勤めることができました。衷心より感謝申し上げます。

幼いころ父親と一緒に近所の薬店にリポビタンDを買いに行くと、よくおまけに風船や水鉄砲などをくれるものですから、お店屋さんごっこ感覚で憧れて、小学校の卒業アルバムの将来の夢に「薬剤師になりたい」と書いた思い出があります。就職したての頃は、毎日院内処方調剤と予製にあけていましたが、院外処方すすみ、病棟業務がはじまり、抗がん剤の調製の中央化、外来化学療法室での指導と、これまで多くの患者さんに関わり、医療人として成長させていただきました。また、プライベートでは、病院が七日町という立地条件から、ドリンクテーリングを始め、様々な大人の社交場に連行された記憶があります。

マイペースなおうし座B型のため、意欲を持って何かに取り組むという向上心が弱く、学会発表や認定資格の取得などは、当時の薬局長や先輩方にケツを叩かれて何とかこなすことが出来ました。また、労働組合の活動も職場の理解と協力を得て、書記長から委員長まで病院薬剤師の地位の向上に取り組ませていただきました。その知識と経験が今の病院薬剤師確保委員会に生きています。今後も精進して参りますので、ご指導のほど、よろしく申し上げます。

令和5年度永年会員表彰を受賞して



鶴岡市立荘内病院

田中 庸

このたびは永年会員表彰をいただき誠にありがとうございます。入職から現在に至るまで、いつも温かく見守ってくれる先輩方、同僚、後輩、たくさんの方々に支えていただき、勤務を続けることができました。深く感謝するとともにこの場をお借りして御礼申し上げます。

入職当時は薬剤師業務の変革期ともいえ、院外処方箋が全科で運用され、山のような院内処方薬を調剤していた時代から病棟業務が推進された時期でもありました。病棟で活躍する先輩方の業務に憧れの眼差しをむけていた記憶もございます。あれから25年間、携わることができた様々な業務の中で、失敗や困難もありましたが、医療スタッフ、患者様やご家族、たくさんの方々に出会い、多くのことを学び、助けていただきました。

医療状況が日々変化していく中、病院薬剤師として求められる医療に貢献できるよう精進してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

令和5年度永年会員表彰を受賞して



鶴岡市立荘内病院

富樫 敦子

この度は、永年勤続の表彰を頂きまして、誠にありがとうございます。
います。

4年次の夏休みに病院実習を当院で行いました。元々病院薬剤師志望でしたが、諸先輩方の業務スピードに感動し、ひと時の気の緩みも許されないような忙しさの中、時折「笑い」があって、地元には帰らないつもりが、まんまと入職してしまいました。当時は全てが手書き、アナログでしたが、あれから25年、調剤支援システム機器も進み、今は調剤ロボットや、AI技術など、(予算さえあれば)対薬物業務は大部分を機械で賄え、薬剤師は対人対患者中心に、チーム医療、医療安全により時間を確保し、職能を発揮する時代となりました。

能力不足な自分に悩む毎日ですが、上司や先輩、同期や後輩の皆さん、そして院内の他部門や、院外のお付き合いの方々、たくさんの方から仕事や人生において、多くの事を教わり、助けて頂きました。

この絆を大切に、これからも仕事に邁進していく所存です。今後とも皆様、宜しく願い申し上げます。

第2回山形県病院薬剤師会学術大会 最優秀発表賞



日本海総合病院

加賀 真樹

この度は、最優秀発表賞をいただき誠にありがとうございます。
指導してくださった先生や先輩、そして同僚の方々の支えあつて
のことです。心より感謝申し上げます。

今回の発表を通し、日常の患者指導で遭遇する出来事から薬学
的課題を見だし解決に向け取り組むことの重要性を改めて感じ
ました。

医学・薬学の進歩と高度化する医療において薬剤師の社会的
ニーズが変化しています。薬剤師の新たな役割や業務範囲の拡大
で多様化する業務に悩むこともあります。一つ一つのことに丁
寧に向き合っていきたいと思います。

日々働いている中で、病院薬剤師は知識と経験に加え、チーム
医療においてコミュニケーションスキルが必須であると痛感する
ことが多くあります。まだまだ未熟ですが、求められる薬剤師像
に近づけるように、より一層自己研鑽に励んでいこうと思います。
今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

令和4年度優秀論文賞 最優秀賞

山形市立病院済生館

佐東 未咲

この度、山形県病院薬剤師会優秀論文賞最優秀賞を受賞しましたこと光栄に思っております。

今回の受賞は私個人の力では無く、研究を手伝ってくださった皆様、相談に乗って頂き、論文を何度も添削してくださった薬局長を初めとする先輩方のお陰であります。また、論文執筆のきっかけをくださった前薬局長、前副薬局長にも感謝申し上げます。

無菌設備は無菌室とクリーンベンチの併用が一般的ですが、スペースや費用の面で設置が困難な場合があります。これらの問題をオープンクリーンベンチは解決できる可能性があります。

近年、薬剤師業務は多様化しております。薬剤師が地域包括ケアシステムの一員として在宅医療へ主体的に取り組むことが求められているなかで、少しでも皆様の無菌的製剤業務の参考になればと思っております。

これからも薬剤師として日々精進して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

令和4年度優秀論文賞 最優秀賞



千歳篠田病院

小林 聖子

この度は令和4年度最優秀論文賞を授与いただき、誠にありがとうございます。本研究を遂行するにあたり多大なるご指導ご鞭撻を賜りました谷藤弘淳先生はじめ南東北精神科薬剤師研究会の先生方、鍋島俊隆先生、千歳篠田病院の皆様方に厚く御礼申し上げます。

「一度やったことがある」ということは、あらゆる状況において強みになると考え、私は常にチャレンジ精神を持つようにしています。今回は初めての多施設共同研究に挑戦しました。途中、研究の方向性を見失いかける場面もありました。また、研究責任者として、これほどプレッシャーを感じたのは初めてでした。そのような困難な状況下で、私は共同研究者からの貴重なアドバイスやエールを受け、論文にすることができました。得られた達成感大きく、自信につながる良い経験ができたと思います。

私は今期、県病薬の精神科部門委員会の委員長を拝命いたしました。リーダー経験の浅い私ですが、精神科部門の持続的な発展に貢献できるよう、委員や会員の皆様とともに挑戦していきたいと思っております。皆様今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度優秀論文賞 優秀賞



山形大学医学部附属病院

畠山 史朗

この度、令和4年度山形県病院薬剤師会優秀論文賞において、栄誉ある優秀賞を賜り、誠にありがとうございます。ご審査いただきました学術委員会の先生方をはじめ、山形県病院薬剤師会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

本論文「The safety of pranlukast and montelukast during the first trimester of pregnancy: a prospective, two-centered cohort study in Japan」は、国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センター、および虎の門病院の妊娠と薬相談外来の内容を解析し、妊娠初期のロイコトリエン受容体拮抗薬曝露は先天異常の発生に有意な影響が無いことを明らかにしたものです。特に、プラフルカスト妊娠中曝露の安全性については、これまで比較研究が行われていなかったため、非常に重要なエビデンスとして発出することができました。

末筆となりますが、本研究についてご指導を賜りました妊娠と薬情報センターセンター長の村島温子先生、山形大学医学部附属病院薬剤部長の山口浩明先生をはじめ、共同研究者の先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

最上町立最上病院

所属長より



当院ではウエルネスタウン構想のもと医療を提供とするセンターとしての重責を担っています。この中で薬局としてどのように貢献できるかを念頭に活動しております。最近続けていることでは年に数回ですが、町の広報誌にコラムを掲載させて頂いております。一般的なことばかりですが、薬の情報から町民の健康に繋がればとの思いです。

主任 結城 智博

薬剤部門概要

- 薬剤師数 1名(男1名)
- 補助員数 1名(男1名)

[2023年8月実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来：54.9枚 入院16枚(内・外)/注射箋27枚
- 院外処方箋発行率 96%
- 併設施設調剤業務
- 取得認定 日病薬病院薬学認定薬剤師



薬剤部門の業務紹介

主な仕事として入院や施設患者の調剤業務や、電子カルテへの薬剤関連マスタ登録・整備など行っております。

近年は医薬品の出荷調整や欠品など増えており、当院でも少なからず影響が出ております。そのため、これらの医薬品の状況や対応についての医薬品情報などを作成しタイムリーに発信しています。又、月に1回はDIニュースとしてまとめ院内の情報共有に努めております。他にも感染対策委員会、医療安全委員会などに参加し、チーム医療の一員として活動しています。



施設基本情報

住 所 最上郡最上町大字向町64-3

診療科目 内科、外科、整形外科、眼科、婦人科

病床数 60床

関連施設 介護老人保健施設やすらぎ、特別養護老人ホーム紅梅荘

施設の特色 高齢化社会の対応として医療だけでは限界があり、保健、医療、福祉が一体となって取り組むべきであるとして、昭和63年に第2次最上町総合計画に地域包括医療を推進する、健康な体、健康な心、健康な社会生活を理念とした「ウエルネスタウン構想」が盛り込まれ、健康管理センターも併設されております。



IMSグループ医療法人財団明理会
山形ロイヤル病院

所属長より



慢性期医療は実態として、高齢者を主体とする医療といっても過言ではありません。複数疾患の存在や身体機能の低下の程度など、個別性が高く、実は薬剤師としても総合力が求められる領域だと私は考えております。まだまだ対人業務を増やしていく必要はありますが、“臨床を主体とした業務展開ができる慢性期病院薬剤部になる”というビジョンを実現するために日々前進していきます。

薬剤部長 柴田 竜希

薬剤部門概要

● 薬剤師数 10名(男性4名、女性6名) ※パート薬剤師含みます

● 補助員数 4名

[2022年度実績]

● 1日平均処方箋枚数 外来：5枚 入院：275枚

● 院外処方箋発行率 46.2%(2022年4月～2023年3月)

● 1ヶ月平均薬剤管理指導件数 10件

● 病棟薬剤業務実施状況 未実施



薬剤部門の業務紹介

業務内容：調剤、監査、薬剤管理指導、薬剤サマリーの作成・送付、DI業務、チーム医療(褥瘡回診、皮膚科ラウンド、緩和ケアラウンド)、公開講座など

高齢の患者様が多く、終末期の患者様への緩和ケアや、在宅復帰を目指す患者様への薬剤管理指導等を通じた薬剤管理支援、かかりつけ調剤薬局への薬剤サマリーの送付などを通して、“患者QOLの向上”や“切れ目のない医療実現”のために日々邁進しています。

日々のラウンドやカンファレンスの他、QC活動を通して多職種と横断的に関われる機会も多くあり、部署間の垣根が低く、コミュニケーションがとりやすい職場だと感じています。



施設基本情報

住 所 山形県東根市大森2丁目3-6

診療科目 内科、リハビリテーション科

病床数 322床

施設の特色 「患者さんに愛され、地域に信頼される慢性期病院」を理念とする、県内最大の療養型病院です。北村山地区のみならず、幅広い地域から療養患者さんを受け入れています。ほとんどの患者様が高齢で、脳血管障害、認知症、心不全、腎不全、難病疾患等を持っており、胃瘻や経管栄養、気管切開や中心静脈管理、酸素療法や感染症治療などが必要な医療要件の高い方が多くいらっしゃいます。最近では、がんのリハビリテーションの施設基準を取ったことから、がん末期の方の入院も増加しており、緩和医療にも積極的に取り組んでおります。令和5年が当院の開設30周年目であることから、記念式典やイベントを通して、職員や地域との交流をより強固にしつつ、これからの山形ロイヤル病院について職員皆で考えているところです。



南さがえ病院

所属長より



当院はH28年に新築移転した精神科領域の病院です。薬局においても今年度より新人薬剤師が加入し、体制が整ったところです。精神科では、近年効果のある副作用の少ない様々な薬が出てくる中、アドヒアランス向上のため、薬局としても努めていきたいと考えています。

薬局長 中澤 芳文

薬剤部門概要

- 薬剤師数 3名(男性2名、女性1名(パート))
- 薬局助手 1名

[2022年度実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来 40枚、入院 26枚
- 院外処方箋発行率 100%
- 退院時薬剤情報管理指導 20件/月
- 病棟薬剤業務実施状況 未実施



薬剤部門の業務紹介

当院薬局では入院時の持参薬の確認と管理により、継続指示ならば可能な限り持参薬を使用し、一包化して入院調剤を行っています。また、注射剤も処方件数は少ないのですが個人払い出しをしています。その他、DI業務として薬局ニュースを発行しています。入院中の服薬指導と退院



時服薬指導も行っています。医療安全委員会、感染対策委員会、褥瘡対策委員会など各種委員会に参加し、チーム医療の一員として活動しています。

今後は、これまでにできなかった事にも目を向けて患者さんのためになるようにしていきたいと思っています。

施設基本情報

住 所 山形県寒河江市大字島字島東87番地2

診療科目 精神科、心療内科、内科

病床数 130床(1病棟(閉鎖病棟)70床・2病棟(開放病棟)60床)

施設の特徴 当院は平成28年7月に寒河江市の島地区に移転し、寒河江市、西村山郡を中心とする精神科地域医療の拠点としてオープンした病院です。

当院は、明るくゆったりとした療養環境のもと、患者さんとそのご家族様に安心して治療を受けていただけるように、最新の医療知識とこれまでの経験を生かし、全スタッフが連携しチーム医療を発展し、他の医療機関、行政、地域社会などと共に協力しながら、質の高い医療を提供していきたいと考えております。

また、病院全体で退院支援にも力を入れており、作業療法、デイケア、訪問看護、相談業務、カウンセリング等充実した環境で、外来、入院そして退院まで精神科の専門医療機関として地域に根差した病院を目指しております。



山形大学医学部附属病院

所属長より



当院では『日本一楽しい薬剤部』を目指し、薬剤業務・研究・教育に薬剤師が一丸となって取り組んでいます。最新の調剤機器を導入により薬剤業務の効率化をはかるとともに、病棟薬剤業務および薬剤管理指導業務を積極的に実施しています。より一層の薬剤業務の「見える化」を進め、風通しが良く、雰囲気の良い職場環境となるよう、さらに患者さんへ安心かつ安全な医療を提供できるように「薬剤師力」の底上げを図っていきたいと考えています。

教授・薬剤部長 山口 浩明

薬剤部門概要

- 薬剤師数 41人(男23、女18)
- 補助員数 7人

[2022年実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来448/20=22.4枚、入院9,430(+定数1,622)/30=314.3枚(+定数54.1枚) 院外12,901/20=645.1枚
- 院外処方箋発行率 96.6%
- 病棟薬剤業務実施状況 実施している



薬剤部門の業務紹介

当院では、病棟業務に力を入れており、薬剤師が常駐して病棟業務を行っています。また、薬剤師の対人業務強化のため、新入職員は早期から病棟業務に関する研修を行うことも当院の特徴です。研究マインドをもって主体的に臨床に携わることで、様々な問題に対する臨床能力を向上させるとともに、臨床研究にも取り組んでおります。

セントラル業務においては、抗がん剤自動調製ロボット(ChemoRo)や薬剤自動調整棚(PANDRA、Mille-Shelf)等の最新機器を導入など、対物業務の機械化を積極的に進めるとともに、薬剤補助員へのタスク・シフトも行うことで、既存業務の効率化を図り、薬剤師業務の「対物業務から対人業務への構造転換」に取り組んでおります。DI業務では、情報共有のICT化を進めております。また、DI業務では、院内への医薬品情報の周知や周辺薬局との情報共有を電子化する等のICT化を進めております。また、データ収集を積極的に行い、データに基づいた業務展開にも取り組んでおります。



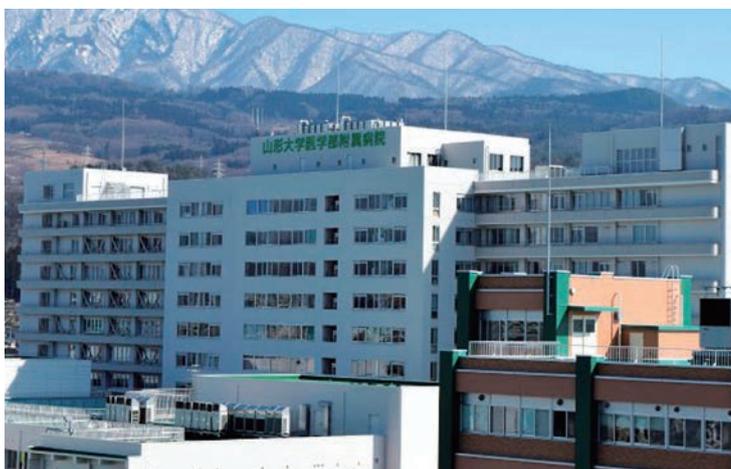
施設基本情報

住 所 山形市飯田西 2 - 2 - 2

診療科目 25診療科(標榜診療科)

病床数 637床

施設の特徴 薬剤部員みんなで人材育成を行う組織風土作りに取り組んでおり、新入職員の早期からの「学生から社会人への適応」を目指すとともに、「主体性」を持った人材の育成を心がけております。その取り組みの1つとしてメンター制度を導入しております。病院薬剤師の業務では様々な問題に直面するため、問題解決能力が重要な能力の1つになると考えております。メンターがメンティの課題解決の援助を行うことでメンター、メンティ双方の能力開発を目指しております。



独立行政法人

国立病院機構山形病院

所属長より



病院の理念「患者さんに優しく、信頼される医療で社会に貢献します」の基に良質な医療を提供するため知識・技術と人間性を養い、自己研鑽に努めています。また北海道・東北地区や他地区の病院、厚労省、PMDA、AMEDへの人事交流や国立病院機構主催のHIV、CRC研修などがあり様々な経験とスキルが得られます。

薬剤科長 佐々木聖一

薬剤部門概要

- 薬剤師数 5名(男3名、女2名)
- 補助員数 2名

[2022年度実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来：40.3枚、入院：90.8枚
- 院外処方箋発行率 78.7%
- 1ヶ月平均薬剤管理指導件数 95件
- 病棟薬剤業務実施状況 未実施



薬剤部門の業務紹介

簡易懸濁法の全病棟導入、全病床が病棟薬剤業務算定不可ですが入院時の持参薬鑑別と処方提案を始めとした入院中から退院まで薬剤管理指導を通じた処方支援などを展開しています。疼痛緩和ケア、認知症ケア、NST・褥瘡ケア、ICTなどのチームに参画しています。

施設基本情報

住 所 山形県山形市行才126番地2

診療科目 内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科

病床数 一般300床(うち結核モデル病床6床)

施設の特徴 県内の他病院にはない専門的医療を展開しており神経難病にあつては、山形県神経難病センターとして病気の診断から慢性期治療までを一貫して行っています。リハビリテーションは、急性期病院からの紹介を得て在宅に返すべく回復期のリハビリテーションを行うのみならず、山形県よりの委託事業として高次脳機能障がい者支援センターにて障害者の社会復帰の支援を行っております。てんかんは、てんかんセンターとして東北各地から外来患者の紹介があります。また全国的なネットワークを利用して当院の臨床研究部では神経難病の病態解明、治療法の開発及び療養環境に関する研究を進めており、積極的に多施設共同研究や大規模臨床研究に参加しております。治療薬の開発が活発なてんかん領域では、全国規模の薬剤治験にも数多く参加しております。

矢吹病院

所属長より



部署のビジョン：矢吹病院薬剤科は人員が今年度より1名増となりました。近年は医師や他のスタッフからのタスクシフトに伴う業務拡大で、薬剤師としての責任がますます大きくなってきていると感じます。当院の理念「可能性を信じる医療」の提供を念頭に、「患者さんにとって安全な薬物治療の提案」「薬物治療の効率化と質の向上」を目標として、患者さんにとって最良の薬物治療の提供を目指していきます。

薬剤科長 有川 宗平

薬剤部門概要

- 薬剤師数 3名(男性1名、女性2名)

[2022年度実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来75.7枚、入院23.6枚
- 院外処方箋発行率 93.3%
- 1ヶ月平均薬剤管理指導件数 40.1件
- 病棟薬剤業務 未取得



薬剤部門の業務紹介

調剤室では主に入院患者さんの内服薬、外用薬、注射薬の調剤、透析薬剤の調剤や各部門への薬品払い出し等を行っています。病棟業務として、薬剤管理指導業務、持参薬鑑別業務、定期薬のカートセットを行っています。現在は特に薬剤管理指導業務に力を入れており、入院時薬剤管理指導、退院時薬剤情報管理指導の実施件数増加を目標に日々努力しています。今年度より退院後の患者さんの地域における継続的な薬物療法の支援のために、退院時薬剤情報連携加算の算定



を開始し、保険薬局との連携を強化しています。患者さんへの薬剤情報提供の一環として、外来待合室や透析室、HP上で公開する薬剤に関する動画を定期的に作成しています。

施設基本情報

住 所 山形県山形市嶋北四丁目5番5号

診療科目 内科、消化器内科、腎臓内科、心療内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科

病床数 40床

施設の特色 当院は「可能性を信じる医療」を理念に、人工透析に特化した専門施設であると同時に地域に深く根差した医療を提供しています。バスキュラーアクセスセンターを併設し、山形県内外の患者のバスキュラーアクセストラブルに対応しています。栄養指導にも力を入れており、1階に設置したカフェレストランマルマーレでは、健康食の提供を行っているほか患者と家族を対象とした栄養教室や料理教室を定期的に開催しています。



米沢市立病院

所属長より



当院薬剤部では「薬物療法の担い手としてチーム医療に積極的に参画し、院内業務を充実させるとともに地域医療の向上に貢献するため、学問・技術の研鑽に励み高い専門性を習得することに努める」を使命とし、日々業務を遂行しています。

当院は2023年の11月1日から全国初の公立病院と民間病院による「地域医療連携推進法人よねざわヘルスケアネット」を設立し、開院します。米沢市立病院(急性期)と三友堂病院(回復期)が病院機能を分化した形で新たな門出を迎えるにあたり、全国に先駆けた地域医療の規範となるべくこれからは精進していく所存であります。

薬剤部長 渡邊 茂

薬剤部門概要

- 薬剤師数 12名(男性8名、女性4名)
- 薬剤助手 5名

[2023年3月実績]

- 1日平均処方箋枚数 外来 252枚 入院 74枚
- 院外処方箋発行率 93.7%
- 薬剤管理指導件数 772件
- 退院時薬剤情報管理指導件数 317件



薬剤部門の業務紹介

薬剤部は、現在12名の薬剤師と5名の薬剤助手の計17名で構成され、調剤、製剤、薬品管理、医薬品情報管理、入院患者への薬剤管理指導を中心に日々の業務を行っています。当院の場合、全面的に院外処方を発行していることから、必然的に入院患者を対象とした対人業務が中心となり、医師、看護師、多職種とのカンファレンス、回診を通して情報共有しながら病棟活動を推進しています。病院の規模的にもスタッフ間の距離が近いことから連携がとりやすく、昨年は海外留学の経験のある医師にお願いして、薬剤師と実習生を交えた英語論文の抄読会も開催しました。また、チーム医療においても、感染管理(AST・ICT)、がん化学療法、精神科リエゾン、糖尿病、褥瘡管理、緩和ケア、栄養管理(NST)、災害医療(日赤救護班)の領域で薬剤師が参加し、その専門性を発揮しています。

新病院では病棟に薬剤師が滞在し、業務を行うスペース(病棟薬局)を確保しましたので、薬剤師の増員を図り、早期の病棟薬剤業務の実現に向け邁進していきたいと考えています。



施設基本情報

住 所 山形県米沢市相生町6-36

診療科目 内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓・膠原病内科、リウマチ科、緩和ケア内科、小児科、皮膚科、放射線科、外科、消化器外科、内視鏡外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科、歯科口腔外科

病床数 263床

施設の特徴 米沢市立病院は昭和33年(1958年)に開設され、以来約60年の歴史を持っています。米沢は上杉米沢藩の名君上杉鷹山が医学校“好生堂”を建て、医学振興を図ったことから、多くの藩医等の子弟が遠く長崎などで最新の西洋医学を学び、地元に戻り、地域医療や医学の発展に貢献しました。そのため“東北の長崎”と評価されました。このような輝かしい伝統のある地域の医療を更に発展させるため、職員一同力を合わせて当院の医療理念である「地域医療への貢献、安心できる医療、良質で公正な医療の提供」の実践に取り組んでいます。(当院HP「事業管理者のあいさつ」より引用)。

新病院が2023年11月に開院します。新病院では救急医療体制が一層充実され、24時間365日の救急受入体制となり、また平日夜間・休日診療所の機能が集約されます。これにより救急医療を担う医師や高度医療機器などの必要な資源を集約し、将来にわたって提供できる診療体制を構築していきます。更に、新病院では敷地内に調剤薬局も併設され、救急で処方された医薬品が年中無休で夜間22時まで院外処方による対応が可能となります。



※2023年7月末日までに入会された方で原稿を提出していただいた方を掲載しています。

新人紹介

- ①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年
- ②出身高校
- ③趣味
- ④抱負

庄内エリア

本間病院



渋谷 幸悦

- ①城西国際大学
2020年卒業
- ②酒田南高等学校
- ③音楽を聴くこと、
歌うこと
- ④患者さんに笑顔に

なっていたけような薬剤師を目指して
頑張ります！

本間病院



庄司 紫音

- ①青森大学
2023年卒業
- ②宮城県東陵高等学校
- ③テニス
- ④新社会人として元

気よく健康に気を
使いながらも、いち早く業務になれて一連
の業務を滞りなくこなせるようになりたい
です。

最上エリア

山形県立新庄病院



高梨 野乃

- ①東北医科薬科大学
2023年卒業
- ②山形東高等学校
- ③読書、スポーツ観戦
- ④先輩方に学びなが

ら、地域医療に貢
献できる薬剤師になれるよう努めてまいり
ます。

村山エリア

山形県立河北病院



奥山 俊介

- ①東京薬科大学
2005年卒業
- ②山形南高等学校
- ③車、読書
- ④患者さんに寄り添

い、身近で相談し
やすい薬剤師として地元山形の医療に貢献
していきたい。



新人紹介

山形エリア

- ①出身大学と卒業年および出身大学院と卒業年
- ②出身高校 ③趣味 ④抱負

山形大学医学部附属病院



木村 恵子

- ①岩手医科大学
2023年卒業
- ②山形北高等学校
- ③旅行
- ④積極的に色々な業務に携わっていき

たいです。よろしくお願いします。

山形大学医学部附属病院



齋藤 舜

- ①東北医科薬科大学
2023年卒業
- ②山形南高等学校
- ③野球、ソフトボール
- ④患者様だけでなく、多職種の方々からも

頼っていただけるような薬剤師を目指したいと思っています。先輩の薬剤師の姿を参考に、自分の目指す薬剤師像に少しでも近づけるよう、頑張ります。

山形県立中央病院



櫻井はるか

- ①武蔵野大学
2023年卒業
- ②山形西高等学校
- ③読書
- ④積極的に仕事に取り組み、様々なこと

を吸収していき日々研鑽を積んでいく所存です。

山形県立中央病院

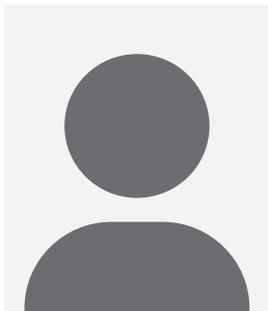


阿部 咲織

- ①奥羽大学
2021年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③サッカー観戦
- ④県の薬剤師として県民の皆様

に貢献できる薬剤師を目指し、日々努力致します。

国立病院機構 山形病院



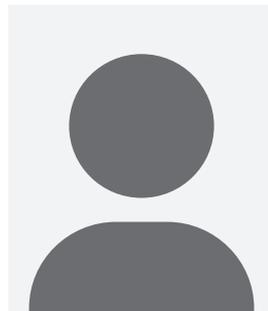
佐藤 和洋

- ①東北薬科大学薬学部
1991年卒業
東北薬科大学大学院
薬学研究科
1993年修了
- ②仙台第二高等学校
- ③読書、DIY、スキー、

スノーボーなど

- ④私は以前も山形病院で勤務していて山形での勤務は久しぶりです。どうぞよろしくお願いします。

国立病院機構 山形病院



伊藤 宥加

- ①東北医科薬科大学
2021年卒業
- ②鶴岡北高等学校
- ③山登り、デイキャンプ
- ④未熟者ですが、山

形県の患者様のより良い治療に貢献できるよう、精進して参ります。

新人紹介

山形エリア

山形済生病院



那須 結衣

- ①明治薬科大学
2023年卒業
- ②山形東高等学校
- ③音楽、ライブ鑑賞
- ④患者さんの気持ちに寄り添える薬剤師

師を目指し、日々成長できるように頑張ります。

東北中央病院



横川 玲雄

- ①新潟薬科大学
2022年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③スキー、ジョギング
- ④様々な知識を身につけ、患者様の悩み

みや不安を取り除ける薬剤師になりたいです。

篠田総合病院



鎌田 真生

- ①岩手医科大学
2023年卒業
- ②秋田県私立ノースアジア大学明桜高等学校
- ③スポーツ観戦、旅行
- ④人として薬剤師として成長できるように頑張ります。

して成長できるように頑張ります。

至誠堂総合病院



杉本莉利子

- ①東北医科薬科大学
2015年卒業
- ②日本大学山形高等学校
- ③読書
- ④患者さんの気持ちに寄り添い、信頼

される薬剤師になれるようにがんばります。

矢吹病院



石垣みどり

- ①東北薬科大学
2004年卒業
- ②山形東高等学校
- ③ゲーム、ガーデニング
- ④以前は調剤薬局に

おりました。病院薬剤師として早く戦力になれるよう頑張ります。

置賜エリア

アイン薬局南陽店



鈴木 孝典

- ①東邦大学
2009年卒業
- ②専修大学松戸高等学校
- ③読書
- ④病院薬剤師としての知識も学ばせて

いただければと思います。

活動報告

『山形県における病院薬剤師不足問題を語るシンポジウム』を開催

病院薬剤師確保特別委員会委員長 羽太 光範

去る令和5年10月17日、山形市の山形グランドホテルにて催し、県内の病院勤務薬剤師ら84人が参加した。本シンポジウムでは、まず山口氏より、県内における病院薬剤師不足の解消が喫緊の課題であり、処遇改善を含めた様々な取り組みの必要性が語られた。池田氏からは奨学金返還支援制度の概要の解説を行い、羽太より令和5年9月4日の理事会において『県内に国公立大学の薬学部を設置することを要望』旨を全会一致で承認したことを受けて、その要望に関わる経緯と内容について話をした。

限られた時間ではあったが、病院薬剤師不足に関わる『これまでのこと』『今のこと』『これからのこと』という視点でシンポジウムを開催できたことは大変有意義であった。参加された方々の真剣な眼差しが特に印象深く感じられた。

山形県における病院薬剤師不足問題を語るシンポジウム

日時：2023年10月17日（火）19:00～20:00
会場：山形グランドホテル 8F アドリア・エーグ
参加費：無料 申し込み：不要
どなたでも参加可能です

開会のあいさつ

発表1 『山形における病院薬剤師の現状』
一般社団法人山形県病院薬剤師会会長 山口 浩明 氏

発表2 『山形県病院薬剤師奨学金返還支援事業』
山形県健康福祉部健康福祉企画課
調整専門員 池田 里恵 氏

発表3 『山形県内に大学薬学部設立を要望！』
一般社団法人山形県病院薬剤師会理事 羽太 光範 氏

《意見交換》

閉会のあいさつ

主催：一般社団法人山形県病院薬剤師会



活動報告

新人研修会を終えて

生涯研修委員会 委員長 國井 健
副委員長 板垣 有紀
高橋 和枝・須藤 将裕
黒田 晋平・竹屋 里恵

今年度から一般社団法人山形県病院薬剤師会として新たに生涯研修委員会が発足し、「日病薬の生涯研修制度」や「日病薬病院薬学認定薬剤師の資格取得」等の啓蒙を目的とした『新人研修会』を企画する事となりました。

内容についても新人薬剤師にとってどんな研修会が必要なのかを生涯研修委員6名で協議し、「病院薬剤師の生涯研修について」「専門・認定薬剤師について」新人の病院薬剤師には必要な「輸液について」の3部構成としました。また新型コロナの影響でここ数年間は懇親会などが皆無だったことも考慮し、横の繋がりも深めて貰うために情報交換会も企画しました。

今回は25名の新人薬剤師が参加し、朝から夕方までびっしりのプログラムをこなしてもらいましたので、ヘトヘトだったと思います。

研修会終了後にはアンケートにより新人達がどのように感じたかの調査もしました。結果は「継続が大変だが必要なもの」「目指す分野を考えるきっかけになった」「自分にとってかなり有り難かった」等の意見があり、概ね好評だったと感じています。

情報交換会も新人・講師陣合わせて27名が参加し、非常に盛り上がり私もついつい飲み過ぎてしまいました。

来年度の新人研修会もこのアンケート結果を参考に企画して参りますので、皆様のご協力よろしくお願ひします。

令和5年度山形県病院薬剤師会 新人研修会 プログラム
(受講対象者:入籍1~2年目、その他所属長の推薦あり5名)

日 期: 令和5年8月30日(土)10:00~
会 場: 山形ホテル 3階 会議室
研修会参加費: 山形県病院薬剤師会 会員・準会員 無料
山形県病院薬剤師会 非会員800円(単位取得可能)

総会司会 生涯研修委員会 委員長 須藤 将裕

10:00~10:05 開会の挨拶 生涯研修委員会 委員長 國井 健
10:05~10:10 会長の挨拶 山形県病院薬剤師会 会長 山口 浩明
10:10~11:10(60分) 座長 生涯研修委員会 委員長 國井 健
特別講演【病院薬剤師の生涯研修について】
日本病院薬剤師会 生涯研修委員会 委員長 山口 浩明

11:10~12:10 【専門・認定制度について①】(15分/人)
・がん領域 山形市立病院 生野 延川 正雄
・緩和領域 山形県立新庄病院 小林 由佳
・産産期領域 山形大学医学部附属病院 轟山 史朗
・周術期領域 山形済生病院 中村 雄太郎

12:20~13:20 ランチセミナー 【輸液の基礎編】
群馬県工業(株) 営業本部 学術部 部長 中尾 安和

13:20~14:05 【専門・認定制度について②】(15分/人)
・感染制御領域 山形県立病院 石山 浩平
・腫瘍領域 鶴岡市立花内病院 藤田 敬志
・精神科領域 千歳強田病院 小林 聖子

14:15~15:15(60分) 【専門・認定制度について 気軽になんでも聞いてみよう!】
生涯研修委員会 副委員長 板垣 有紀

15:25~16:25(60分) 【輸液を分類してみよう! 実践編】
生涯研修委員会 委員長 國井 健
生涯研修委員会 委員 高橋 和枝

16:30~ 閉会の挨拶 生涯研修委員会 委員長 國井 健

16:40~ 研修会終了後アンケート記入・研修シール配布・情報交換会の案内

※新人が参加される施設の所属長などお泊り(一泊立場で真夏ご参加下さい)
※日本薬剤師研修センター認定対象集会所研修会申請予定(非会員の方でも単位取得可能です)
※日本病院薬学認定薬剤師研修会申請予定(非会員の方でも単位取得可能です)
※山形県病院薬剤師会生涯教育認定制度(1万単位)
※非会員の方で単位を必要としない場合は、参加費無料です。

共催: 山形県病院薬剤師会・扶桑薬品工業株式会社

~~~~~研修会終了後、情報交換会場に移動! 会場にて募金【参加費:4800円】~~~~~  
**★今週は病院薬師会員の新人職員には参加費として1000円を削減しますのでぜひ参加しましょう★**

17:30~ 情報交換会 【会場:イタリア料理レストランチヨウウジ】  
司会 生涯研修委員会 委員 黒田 晋平



### 山形県における安全・安心な周産期薬物療法の提供を目指して

畠山史朗、植村奈緒瑠、遠藤清香、小幡 瞳、唐沢美砂、百瀬里穂  
山形県病院薬剤師会 認定・専門部会（周産期領域）

山形県病院薬剤師会会員の先生方におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、令和5年度より山形県病院薬剤師会が新体制でスタートいたしました。認定・専門部会（周産期領域）においても6名の委員で活動を開始しております。

周産期の薬物療法では、医薬品は治療を受ける母体だけではなく、胎児・乳児といった次世代にも影響を与える可能性があるため、その安全性には最大限の配慮が必要となります。しかし、医薬品添付文書に記載されている胎児・乳児への安全性に関する情報は、投与可否を判断するにあたって十分ではないことが多いため、安全な周産期薬物療法を提供するためにはより専門的な知識と情報収集・評価のスキルが必要とされます。さらに、評価情報を母体や家族に伝え、適切に医薬品を使用してもらうためには、高いコミュニケーション能力が求められます。

当部会は、山形県病院薬剤師会 前会長の羽太光範先生の御意向により、前身である「研修企画委員会 専門領域部会 周産期部門」として発足いたしました。今年度からは現会長の山口浩明先生のもと、「認定・専門部会（周産期領域）」と名称新たに活動をしております。「山形県の薬剤師へ妊婦・授乳婦への薬物療法を普及・啓発する」を活動目標に掲げており、今年度の活動内容として、①妊婦授乳婦専門薬剤師の養成のための研修会の企画、②周産期における薬物療法に関する学術活動、③周産期薬物療法啓発のための広報を行っております。

- ① 研修会の企画については、周産期薬物療法を理解し、実践できるようなプログラムの作成を検討しております。周産期領域で必要とされる知識は、妊婦、授乳婦、および新生児の生理的特徴、周産期合併症とその治療、周産期における医薬品の安全性と有益性、周産期における薬剤師業務、妊婦・授乳婦とのリスクコミュニケーションなど、多岐に渡りますが、年間を通して広く学べるような充実したプログラムを整備いたします。
- ② 学術活動について、周産期領域における薬剤師業務に対する診療報酬は制定されておらず、個々の医療機関で独自に対応している現状にあります。そこで、病院薬剤師の妊婦、授乳婦へ対する医薬品情報提供および服薬に関連したカウンセリングへの関与状況を明らかにする目的で、山形県内の医療機関を対象としたアンケート調査を実施しております。調査にご協力いただいた先生方には心より御礼を申し上げます。調査結果は、学術論文や学会発表、および本広報誌を活用して今後報告いたします。
- ③ 周産期薬物療法啓発のための広報活動について、研修会開催の他に、本広報誌へ周産期における薬剤師業務のポイントなどについての記事投稿を検討しております。今後、積極的な情報発信を行う予定です。

上記活動を通して、山形県における安全・安心な周産期薬物療法の提供実現を目指しております。会員の先生方で、妊婦・授乳婦への医薬品の使用について疑問や不安などありましたら、当部会の委員へご相談下さい。

## DI実例報告

日本海総合病院  
TEL 0234(26)2001

**Q：潰瘍性大腸炎の患者に**

ペンタサ錠500mg 4錠 1日1回朝

ペンタサ錠500mg 4錠（粉砕）1日1回夕  
という処方が出た。

**夕のみ粉砕の理由はあるのか？**

A：メサラジン（商品名ペンタサなど）は血液の全身循環に乗って効果を示すが、患部に直接接触れることでも効果を発現する。

ペンタサ錠は水に不溶なエチルセルロースの多孔性皮膜でコーティングされた時間依存型の徐放製剤であり、服用後、有効成分の溶出は胃内で始まるが、主な溶出部位は小腸・大腸で、適応は潰瘍性大腸炎・クローン病となっている。

胃内で溶出するとはいえ、その溶出量は少ないため、上部消化管に病変が広がったケースでは、上部消化管での溶出性を高めるためにあえてペンタサ錠を粉砕して処方することがある。

今回の患者は下部消化管病変もあるため、錠剤のままの処方と併用するということだった。粉砕したペンタサは、高温・高湿度下では2週間で変色し、4週間で効果が低下するため、保存には注意が必要である。

なお、顆粒のメサラジンについては徐放性製剤となっており、今回の目的において錠剤の粉砕の代わりに処方することは適切ではない。

参考：日経メディカル DI Online  
日経ドラッグインフォメーション  
(2015年8月号)

**Q：急性骨髄性白血病で加療中の患者（成人）への肺炎球菌ワクチンの接種について  
プレベナー 13を接種したが、追加投与としてニューモバックスNPの接種は可能か？**

A：日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会・日本感染症学会ワクチン委員会・日本ワクチン

学会の合同委員会によるガイドラインよりがん患者・固形臓器移植後にはプレベナー 13とニューモバックスNPの連続接種が推奨される。この場合、接種間隔は少なくとも8週間あける。

ニューモバックスNPをすでに接種している場合は、ニューモバックスNP接種1年以降にプレベナー 13を接種する。

参考：「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」  
(2021年3月17日)

**Q：ニューモバックスNPの投与間隔について  
前回接種からあと2週間後ほどで5年が経過する患者に接種してよいか？**

A：メーカー回答

5年以内の接種は禁忌には該当しない。ただ、5年以内の接種は、5年以上経過した患者に比べ接種部位の炎症や疼痛が起りやすいとの報告がある。

添付文書「8. 重要な基本的注意」より8.4 過去5年以内に、多価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを接種されたことのある者では、本剤の接種により注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強く発現すると報告されている。本剤の再接種を行う場合には、再接種の必要性を慎重に考慮した上で、前回接種から十分な間隔を確保して行うこと。

問い合わせ先：MSD

**Q：バクトラミン注を5管投与するが、添付文書の記載通りだと希釈液が多くなってしまふ。なるべく水分量を入れたくないが、濃度を上**

**げることは可能か？**

A：添付文書「14. 適応上の注意」より

14.1.1 本剤の投与に際しては日局5%ブドウ糖注射液又は日局生理食塩液を使用し、本剤1アンプルあたり輸液125mLの割合で十分に混合して用いること。なお、溶液の注入量に制限がある患者には本剤1アンプルあたり日局5%ブドウ糖注射液又は日局生理食塩液75mLに混合すること。

14.1.2 溶解後は結晶析出が認められるため、なるべく速やかに使用すること。なお、保存する必要がある場合には、本剤1アンプルあたり日局5%ブドウ糖注射液又は日局生理食塩液75mLに混合した場合は2時間以内、125mLに混合した場合は6時間以内に使用を終了すること。

と記載あり。

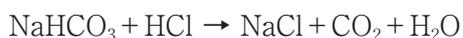
鹿児島県病院薬剤師会のDI実例集より、中外製薬DIから回答された内容を参照すると、5%ブドウ糖液であれば1アンプルあたり50mLまで濃度を上げて、希釈後2時間までは結晶析出が認められなかったとのこと。太陽ファルマへ問い合わせ、生理食塩液に関しては50mLで結晶析出が生じるとのことであり、生理食塩液で希釈する際は添付文書の通り行うことが推奨される。

参考：鹿児島県病院薬剤師会  
DI実例 第19号  
(2015年1月)

問い合わせ先：太陽ファルマ

**Q：炭酸水素ナトリウムを他剤と一緒に簡易懸濁したところ、泡立ち、シリンジのブランジャーが吹き飛んだと報告あり。原因は？**

A：炭酸水素ナトリウム水溶液はpH8.3程度の弱塩基性。塩酸と反応して塩化ナトリウム・二酸化炭素・水に分解する。



また、加熱により炭酸ナトリウム・二酸化炭素・水に分解する。



水溶液では65℃を超えたくらいから徐々に分解する。

**《実験》**

- ・炭酸水素ナトリウム 1 gをお湯で溶かすと若干エアが増えた
- ・炭酸水素ナトリウム2.5gをお湯で溶かすとエアが約4 mL増えた

→酢酸を吸い上げたところ、急激に泡立った

今回、多種類の薬剤を混ぜたことによって酸性に傾いたこと、また、お湯で溶かしたことで発泡したと考えられる。

炭酸水素ナトリウムを簡易懸濁する場合、水で単独投与し、前後しっかりフラッシュした方が良いと考えられる。

上記のように行ったところ、発泡なく、問題なく投与できた。

参考：インターネットサイト  
「Chemist Eyes」など

**Q：初発の悪性神経膠腫に対し、テモゾロミド＋放射線療法中、好中球減少あり休薬・中止した後の再開基準は？**

A：メーカー回答

テモゾロミド中止後の再開基準として明確なものはないため、検査値をみて医師と相談の上再開する。再開する際は減量せず、同じ投与量で再開する。

放射線治療が終了した時点でテモゾロミド内服も中止する。

放射線治療の中断・再開により放射線治療期間が延長した場合、テモゾロミドは最大Day49まで内服できる。

テモゾロミド休薬中にG-CSF製剤を使用してはいけないという決まりはない。CTCAEのガイドラインで、Grade4の好中球減少があった場合はG-CSF製剤を使用することが推奨されている。

問い合わせ先：MSD

## DI実例報告

鶴岡市立荘内病院  
TEL 0235(26)5111

**Q：ネキシウム懸濁用顆粒10mg 1回2包を懸濁する水の量は？調剤時に、水15mLで懸濁する旨、薬袋表示されていた。1回量が2包の場合でも1回量が1包の時と同じ15mLの水でよいのか？**

A：

- ・1回10mg 2包を投与する想定をしていず、細かい規定を設けていない。
- ・10mg 1包、20mg 1包を夫々±50%の水の量で懸濁した場合、均一に分散する。
- ・1回10mg 2包を投与する場合の水の量は、各施設での判断となる。
- ・製品の内容量は、10mg、20mgとも1包あたり3g。(社内情報)

以上より、1回10mg 2包を使用する場合も、均一に分散すると推測されるため、“15mLの水で懸濁”の薬袋表示で調剤。

※但し、粘稠度は変化する可能性が考えられる。

参考：アストラゼネカメディカルインフォメーションセンター

**Q：サワシリン錠250mgの分割調剤は可能か(服薬困難例に錠剤を分割投与したい)**

A：粉碎、分割時の体内動態試験を実施していません。推奨できません。

一包化もすすめていない。

- ・錠剤は、吸湿性のため防湿包装している。
- 添付文書、適用上の注意、薬剤交付時の注意：  
＜錠＞吸湿性のため、服用直前に錠剤を取り出すよう注意のこと。

●別紙参照：SAW-T250mg無包装安定性試験結果。社内資料

| 条件   | 40℃<br>(遮光、気密容器) | 30℃ 75%RH<br>(遮光、開放) | 光<br>(60万lux・h)r |
|------|------------------|----------------------|------------------|
| 保存期間 | 3ヶ月              | 3ヶ月                  | 25日              |
| 外観   | 不変               | 1ヶ月で黄変               | 不変               |
| 含量   | 不変               | 不変                   | 不変               |
| 硬度   | 不変               | 1ヶ月で<br>20→14kPaへ低下  | 不変               |
| 溶出試験 | 不変               | 不変                   | 不変               |

**Q：ネオーラル内用液10% 開封後の使用期限は？(川崎病、IVIG不応予測スコア高値の患児に処方された。医療機関や調剤薬局によっては、1瓶単位で調剤している。瓶開封後の期限設定はあるのか?)**

A：

ノバルティスダイレクトより確認 (TEL 0120-003-293)

- ・開封後の期限設定はおこなっていない。
- ・インタビューフォーム情報を参考し、各施設で判断を。

〈インタビューフォーム〉

製剤の各種条件下における安定性

◆ネオーラル内用液10%開封後の安定性

- ・物理化学的検討開封8週間において、外観、におい、シクロスポリン含量等に大きな変化は認められなかった。
- ・微生物学的検討細菌 (E.coli、P.aeruginosa、S.aureus) 及び真菌 (C.albicans、A.niger) を接種し、生菌数を検討した。2時間後には殆ど生菌が認められず、6週間においても生菌の増殖は認められなかった。

※微生物学的検討は、それ以降の試験は実施していない。

●その他：

専用ピペット（5 mL、1 mL）、専用瓶あり。  
使用期限あり。

1 mLピペットは1本～50本まで請求可能。

※今回のケースでは、開封後1年以内、瓶の使用期限内であり、開封済み瓶で調剤した。

参考：ノバルティスダイレクト

**Q：イベニティ皮下注105mgシリンジの投与を休薬した場合、投与期間は延長できるか**

A：添付文書より12ヵ月間の投与で検討されている。もし中断しても投与開始より12ヵ月目で終了となり休薬した期間を延長することは出来ない。

以下添付文書より

6. 用法及び用量

通常、成人にはロモソズマブ（遺伝子組換え）として210mgを1ヵ月に1回、12ヵ月皮下投与する。

7. 用法及び用量に関連する注意

7.1 本剤の骨折抑制効果は12ヵ月の投与で検証されており、12ヵ月を超えた投与では検討されていない。また、本剤投与終了後に原則として適切な骨粗鬆症薬による治療を継続すること。[8.4、17.1.1、17.1.2参照]

参考：添付文書、インタビューフォーム、担当MR

**Q：局所麻酔薬中毒に脂肪乳剤？使い方は？**

A：局所麻酔薬は、侵害受容刺激を遮断する目的で、痛みを遮断したい部位や範囲に応じて、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下腔麻酔、末梢神経ブロック、局所浸潤麻酔、皮下麻酔などの方法で投与される薬物です。局所麻酔薬による主な副作用には、アレルギー反応と局所麻酔

薬中毒があり、局所麻酔薬中毒では、投与された局所麻酔薬の血中濃度が上昇することで中毒症状が現れます。この予防には投与量を最小限にすること、注入するごとに十分な吸引確認を行うこと、少量ずつ分割しながら投与し症状を十分に確認することが重要です。しかし、万が一中毒が生じた場合には、20%脂肪乳剤（製品名：イントラリポス輸液20%）による治療が有用な蘇生法となっています。（lipid rescue）

局所麻酔薬の使用頻度が高い部署（手術室など）においては、直ちに使用できるよう脂肪乳剤を常備することとなっており、投与量・投与方法を理解し適切に使用することが重要です。投与量・投与法は以下の通りです。

- ・1.5ml/kg（標準体重）を1分以上かけて静注
- ・その後0.25ml/kg/minで持続静注
- ・5分後、循環の改善がなければ再度1.5ml/kgを静注
- ・それとともに、持続投与量を2倍の0.5ml/kg/minにする
- ・さらに5分後に再度1.5ml/kgを静注（ボラス投与は3回が限度）
- ・循環が安定しても、最低10分は持続投与を継続する
- ・推奨される投与量の上限：最初の30分で約10ml/kg

脂肪乳剤の作用機序は、局所麻酔薬を脂肪乳剤が取り込んで組織内濃度を低下させ、肝臓に運ぶ及びミトコンドリアの機能を改善する両者と考えられていますが、十分に解明はされてはいません。

引用資料：局所麻酔薬中毒への対応プラクティカルガイド  
周術期管理チームテキスト

## DI実例報告

北村山公立病院  
TEL 0237(42)2111

**Q：ベクルリー点滴静注用100mgの重度の腎機能低下患者（eGFR=25）へ使用する場合の用量を知りたい。**

A：欧州委員会において2023年6月5日に「ベクルリーについてCHMPが透析実施例を含む重度の腎機能障害を有するCOVID19患者さんの治療薬として使用拡大に肯定的な見解を採択」というプレスリリースが発表された。それによると、eGFR30未満、30以上の患者にそれぞれ最長5日間ベクルリー点滴静注用100mgを投与しても新たな副作用は確認されなかったため、透析患者を含めて腎機能障害患者を有する患者さんに対する投与量調節は不要である。

問い合わせ先：ギリアド・サイエンシズ

**Q：ベクルリー点滴静注用100mgの配合変化について知りたい。**

A：生理食塩水以外の配合変化についてのデータはないため生理食塩水以外とは混合を避けるか、同一ルートからの投与なら生食フラッシュを都度行うよう推奨する。

問い合わせ先：ギリアド・サイエンシズ

**Q：ソマチュリン皮下注120mgを投与前に冷蔵庫より取り出し室温に戻した後、投与せず再度冷所に戻し再使用してもよいか。**

A：25℃、湿度60%、暗所で6ヶ月保存では品質、効能効果に問題ないため再使用可である。

問い合わせ先：帝人ファーマ

**Q：子宮頸がんワクチンを接種したいが、他のワクチンとの投与間隔はどの位空けるべきか。**

A：子宮頸がんワクチンは不活化ワクチンなので、生ワクチンの場合は27日間、不活化ワクチン

チンの場合は間隔不要で同時接種も可能。新型コロナウイルスとの同時接種は不可、お互いに片方のワクチンを受けてから14日間の投与間隔が必要である。

問い合わせ先：厚生労働省ホームページ

**Q：メトトレキサートカプセル2mg（MTX）の服用日を1日早めても問題無いか。**

A：MTXの休薬期間を短縮することにより骨髄抑制等の有害事象発現リスクは上がる可能性があるため、主治医と相談の上で決定して欲しい。臨床試験によると、MTXで長期的にコントロールがついている患者であれば内服を1回スキップしても治療効果への影響は少ない。

問い合わせ先：ファイザー

**Q：ニトロダームTTS25mg、フェントステープを貼付したまま電気メスを使用しないのはなぜか。**

A：ニトロダームTTS25mgには支持体にアルミニウムが含有しており電気メス使用時に通電して電気アークをおこす恐れがあるため。フェントステープには金属成分ではない添加剤の合成ケイ酸アルミニウムを含有しているが、電気メス使用時には通電のため貼付部位の温度が上がり、吸収に影響が出る恐れがある。手術部位から離しても影響が出る恐れがあるため手術時は剥がした方が望ましい。

問い合わせ先：サンファーマ、久光製薬

**Q：フロセミド注20mgが凍結した。溶解させて使用は可能か。**

A：フロセミド注20mgの添付文書より、低温（8℃以下）で保存する時結晶を析出するこ

とがあるが、この場合には室温で溶解してから使用すること。品質には何ら影響はない。

問い合わせ先：日医工

**Q：テーカインは溶解後に冷所保存で変色を起こすか。**

A：水分または酸素下で微黄色～あずき色に変色する場合がある。変色後の薬効は不明である。

問い合わせ先：大原薬品

**Q：乳酸カルシウム 3g/日をアスパラCA錠 200mgに切り替えたい。同等のカルシウム量にするには1日量はどれくらいになるか。**

A：乳酸カルシウムとLアスパラギン酸カル

シウムの塩基が異なるため、カルシウムの体内での吸収量が異なる。このためカルシウム換算の目安は提示されていない。添付文書の常用量での対比で判断し、アスパラCA200mg 6錠/日が推奨される。

問い合わせ先：ニプロ(株)

**Q：ヒルナミン筋注からコントミン筋注へ切り替えるときの換算比を知りたい。**

A：クロルプロマジン等価換算表の板垣&稲田2022版よりヒルナミンとコントミンの比率は1：1である。

問い合わせ先：共和薬品

## DI実例報告

山形大学医学部附属病院  
TEL 023(633)1122

**Q1：オニバイド点滴静注を開始する場合、UDP-グルクロン酸転移酵素1A1 (UGT1A1)の遺伝子多型について検査をする必要はあるか。**

A：必要である。

オニバイドの標準投与量は1回70mg/m<sup>2</sup>である。しかし、UGT1A1\*6若しくはUGT1A1\*28のホモ接合体を有する患者、又はUGT1A1\*6及びUGT1A1\*28のヘテロ接合体を有する患者では、イリノテカンとして1回50mg/m<sup>2</sup>が開始用量とされている。オニバイドの成分であるイリノテカンの活性代謝物SN-38はUGT1A1により代謝されるが、上述の遺伝子変異がある場合は代謝が減少することにより、重篤な骨髄抑制などの副作用が発現する可能性が高くなるため、開始用量の減量が必要とされる。海外第三相試験(NAPOLI-1試験)におけるUGT1A1遺伝子多型と有害事象発現率について、UGT1A1\*28のホモ接合体を有しない患者でのGrade3以上の好中球減少の頻度は13.6% (15/110)であったのに対して、UGT1A1\*28のホモ接合体を有する患者では28.6% (2/7)だった。なお、UGT1A1の遺伝子多型のため50mg/m<sup>2</sup>で開始した場合でも、忍容性が認められれば1回70mg/m<sup>2</sup>に増量することができる。

《参考文献》

オニバイド点滴静注 添付文書 (第2版)  
オニバイド点滴静注 適正使用ガイド (第5版)

**Q2：手術前にニンニクを成分とするサプリメントは休薬する必要があるか。**

A：必要である。

ニンニクは血小板凝集を阻害する作用を有する可能性が指摘されている。手術7日以上前

からの中止が奨められる。

《参考文献》

抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン

**Q3：オンデキサ静注用は投与から作用発現までの程度の時間を要するか。**

A：静脈内投与終了時より速やかに作用が発現する。

オンデキサ静注用は「直接作用型第Xa因子阻害剤 (アピキサバン、リバーロキサバン又はエドキサバントシル酸塩水和物) 投与中の患者における、生命を脅かす出血又は止血困難な出血の発現時の抗凝固作用の中和」を適用とする医薬品であり、400mgを30mg/分の速度で静脈内投与し、続いて480mgを4mg/分の速度で2時間静脈内投与、または、800mgを30mg/分の速度で静脈内投与し、続いて960mgを8mg/分の速度で2時間静脈内投与する。海外第II相試験における直接作用型第Xa因子阻害剤投与後のオンデキサ静脈内投与終了時 (投与終了後2分または5分) の評価では、抗第Xa因子活性、非結合形第Xa因子阻害剤濃度の低下、及びトロンビン産生の回復が認められた。

《参考文献》

オンデキサ静注用200mg  
インタビューフォーム (第4版)

**Q4：アロカリス点滴静注は冷所保管とされているが、前日から室温で保管してしまった。使用は可能か。**

A：可能である。

アロカリスの苛酷試験 (条件：温度30±2℃、湿度65±5%RH、遮光) では、12カ月保存

後も規格内であった。

《参考文献》

アロカリス点滴静注235mg  
インタビューフォーム（第5班）

**Q5：持続透析を施行している患者へレボフロキサシン点滴静注を投与する場合、減量は必要か。**

A：透析の種類によっては必要となる。

レボフロキサシンは、主に未変化体の尿中排泄により体内から消失する（点滴後72時間までの未変化体尿中排泄率は投与量の93.9%）。従って、腎機能の低下や、透析施行時は減量が考慮される。持続緩徐式血液濾過療法（continuous renal replacement therapy：CRRT）時のレボフロキサシンの投与量について、濾過療法別に投与量が提示されている

報告がある。初回500～750mg投与後、以後24時間毎に持続的静脈血液濾過（continuous venovenous hemofiltration：CVVHF）では250mg、持続的静脈血液透析（continuous venovenous hemodialysis: CVVHD）では250～500mg、持続的静脈血液濾過透析（continuous venovenous hemodiafiltration：CVVHDF）では250～750mgを投与する。本邦で保険承認されている用量を加味して、初回500mg投与後、透析の種類に応じて24時間毎に250～500mgの投与が奨められる。

《参考文献》

クラビット点滴静注 添付文書（第1版）  
白鷺病院 透析患者に対する投薬ガイドライン（<http://www.shirasagi-hp.or.jp/goda/fmly/gate.html>, 2023年8月アクセス）

## DI実例報告

山形済生病院  
TEL 023(682)1111

当院が発行したDIニュースを2題ご紹介します。

### ①抗ヒスタミン薬について

山形では、3月初旬にスギ花粉が飛散し始めるため、その1か月前には、抗ヒスタミン薬の処方が始まります。抗ヒスタミン薬には、「眠気」や、「インペアード・パフォーマンス」と呼ばれる「自覚のない集中力・判断力・仕事効率の低下」が起こることがあります。自動車の運転中の事故などにつながる危険性があるため、医療従事者として、処方・投薬の際には、十分な説明が必要です。この度、抗ヒスタミン薬処方の時期に合わせて、自動車の運転など危険を伴う機械の操作に対する医療従事者の必要な対応を抗ヒスタミン薬ごとに分類し、院内周知しました。

### ②降圧薬アムロジピン・ニフェジピン“妊婦禁忌”解除になりました

2022年12月に降圧薬アムロジピンとニフェジピンで、添付文書の“禁忌”項目から「妊婦（妊娠20週未満）又は妊娠している可能性のある婦人」が削除されました。現在は、“治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること”とされています。

改訂となった理由や注意事項をまとめ、院内周知しました。

済生会 山形済生病院 薬剤部 医薬品情報管理室  
**ドラッグ・インフォメーション**

## 抗ヒスタミン薬について

日本気象協会から2023年シーズンの花粉飛散予想が発表されました。山形でも3月初旬にスギ花粉が飛散し始めるようです。毎年、花粉症対策として抗アレルギー薬を服用している方も多いのではないのでしょうか。花粉症以外にも様々なアレルギー疾患の治療に使用される抗アレルギー薬ですが、一方で副作用が問題になる場合もあります。今回は抗アレルギー薬の代表的薬剤である抗ヒスタミン薬（内服薬）についてまとめました。



### ◆抗ヒスタミン薬とは？

体内のヒスタミンの働きを抑制することでアレルギー症状を和らげる薬剤です。ヒスタミンはアレルギー誘発物質の1つですが、脳内では覚醒や興奮に関与している物質でもあります。そのため、抗ヒスタミン薬が脳内に移行すると、覚醒・興奮作用が抑制され、「眠気」等の副作用が出現します。また、「眠気」とは別に、「インパード・パフォーマンス」と呼ばれる「自覚のない集中力・判断力・仕事効率の低下」が起こることがあります。自動車の運転中の事故などにつながる危険性があるため、注意が必要です。

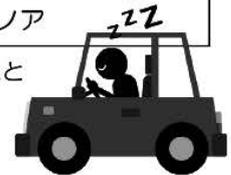


### ◆添付文書における自動車運転に関する記載

抗ヒスタミン薬の添付文書には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に関する記載があります。この注意書きがあるにもかかわらず患者に必要な説明をせず、患者が運転中に事故を起こした場合、医療従事者が責任を問われる可能性があります。

| 自動車の運転等危険を伴う機械の操作に対する、医療従事者の必要な対応 | 薬剤名（先発名）                                                                   |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| (1) 運転してはいけないと説明する必要がある           | レスタミン、タベジール、アレルギン、ピレチア、アタラックス、ペリアクチン、ザジテン、ゼスラン、アレサガ、ジルテック、ザイザル、アレロック、ルパフィン |
| (2) 運転する際は十分に注意するよう説明する必要がある      | アレジオン、エバステル、タリオン                                                           |
| (3) 運転に関する制限なし                    | アレグラ、ディレグラ、クラリチン、デザレックス、ピラノア                                               |

- (1) の添付文書記載内容：自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること  
 (2) の添付文書記載内容：自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意させること  
 (3) の添付文書記載内容：記載なし



### ◆抗ヒスタミン薬の比較

過去1年間で全国的に使用頻度の高い主要抗ヒスタミン薬5剤を比較しました。

| 使用頻度       | 第1位         | 第2位         | 第3位         | 第4位         | 第5位         |             |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 先発品名       | アレグラ        | アレロック       | ザイザル        | ピラノア        | アレジオン       |             |
| 成分名        | フェキソフェナジン   | オロパタジン      | レボセチリジン     | ピラスチン       | エピナスチン      |             |
| 錠剤の規格      | 30mg/60mg   | 2.5mg/5mg   | 2.5mg/5mg   | 20mg        | 10mg/20mg   |             |
| 1日服用回数     | 1日2回        | 1日2回        | 1日1回        | 1日1回        | 1日1回        |             |
| 薬価<br>(/錠) | 先発品         | 32.7円/41.6円 | 25.8円/32.5円 | なし/66.2円    | 61.9円       | 34.0円/44.2円 |
|            | 後発品         | 10.1円/11.4円 | 10.1円/10.1円 | 13.2円/16.0円 | なし          | 13.1円/18.9円 |
| 成人の1ヶ月薬剤費  | 684円～2,496円 | 606円～1,950円 | 480円～3,972円 | 1,857円      | 393円～1,326円 |             |

問い合わせ先：薬剤部D1室（内線2034）まで

## 降圧薬アムロジピン・ニフェジピン "妊婦禁忌"解除になりました

2022年12月に降圧薬アムロジピンとニフェジピンで、添付文書の“禁忌”項目から「妊婦(妊娠20週未満)又は妊娠している可能性のある婦人」が削除されました。現在は、“治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること”とされています。



どうして禁忌じゃなくなったの？

妊娠全期間において厳格な血圧コントロールが求められるようになってきた昨今の医療環境を踏まえて、処方割合の高いアムロジピン及びニフェジピンについて、ワーキンググループにて禁忌の適正性が検討されました。

そこで両剤ともに禁忌の項から削除し、有益性が上回る場合に投与することが適切であると判断されています。判断の根拠を以下に記載します。

- 本邦の高血圧治療ガイドラインにおいて、高血圧の第一選択薬の一つとされていること
- 動物試験から懸念された妊娠期間及び分娩時間の延長に関連する報告はなかったこと
- 国内外のガイドラインにおいて、本薬の妊婦への使用に関して安全性上の懸念を示す特段の記載は確認できなかったこと
- 海外添付文書（米国、英国、カナダ、オーストラリア）について、いずれの国においても本薬は妊婦に対して禁忌とされていないこと
- 上部消化管奇形のリスク増加の報告があるものの、先天異常のリスク増加は認められないとの報告も複数あり、先天異常リスクについて一致した見解が得られていないこと

### 2022年12月添付文書の改訂へ

上記の結果なども踏まえて行われた2022年11月22日の厚生労働省薬事・食品衛生審議会で禁忌解除の妥当性が認められ、添付文書が改訂されました。

妊婦(妊娠20週未満)又は妊娠している可能性のある婦人の高血圧治療において、使用できる降圧薬の選択肢が広まりました。

問い合わせ先：薬剤部D1室（内線2034）まで

## DI実例報告

山形市立病院済生館  
TEL 023(625)5555

Q：アロカリスについて

- ①アロカリス投与終了後、すぐにCDDPなどの抗がん剤を投与しても問題ないか。
- ②添付文書に「本剤は、30分かけて点滴静注すること」と記載されているが、15分で投与しても問題ないか。
- ③制吐薬適正使用ガイドラインに準じ、DEXは半量に減量して投与するべきと考えてよいか。

A：

- ①薬物動態の評価において、投与終了時（投与開始後30分）には活性本体のネツピタントは最高血中濃度に達していたことから、アロカリスは抗悪性腫瘍剤投与直前までに投与が終了すれば一定の制吐作用が期待できると考えられる。
- ②臨床試験では、30分で投与している。30分かけて投与した場合、投与後16分で最高血中濃度になる。
- ③併用するDEXの用量は、アロカリスまたはホスアプレピタントをDEXと併用したときのDEXの薬物相互作用に起因するAUC上昇が、アロカリスとホスアプレピタントで明らかな違いはないと考えたことから、国内制吐薬適正使用ガイドラインに準じ適宜減量することが必要と考えられる。臨床試験においても、DEXは国内制吐薬適正使用ガイドラインに準じて投与を行った。

問い合わせ先：大鵬薬品工業

Q：オプジーボについて

- ①オプジーボ投与終了後、すぐにパロノセトロンやDEXを30分で投与しても問題ないか。
- ②配合変化の観点からフラッシュ用の生食は必要か。

- ③添付文書の特定の背景を有する患者に関する注意に、「結核の感染または既往を有する患者」と記載があるが、投与前の検査でスクリーニングする必要はあるか。

A：

- ①特に問題はない。
- ②配合変化で問題になることはなく、フラッシュ用の生食も必要ない。ただし、ポートから投与する場合は不溶粒子が検出された経緯があるため、フラッシュを推奨している。
- ③添付文書に記載はあるが、投与前に必ずスクリーニングをする必要はない。施設判断でかまわない。

問い合わせ先：小野薬品工業

Q：ジーラスタについて

ジーラスタの投与時間を抗がん剤投与後24時間以降から72時間以内で推奨している根拠を教えて欲しい。

（添付文書には「通常、成人にはがん化学療法剤投与終了後の翌日以降1サイクルあたり1回皮下投与する。」用法及び用量に関連する注意に「がん化学療法剤の投与開始14日前から投与終了後24時間以内に本剤を投与した場合の安全性は確立していない。」との記載があるのみ）

A：抗がん剤投与24時間以内にジーラスタを投与した場合、骨髄の幹細胞が刺激されて増殖しているところに抗がん剤のダメージを受けて、ますます重篤な骨髄抑制を発現する可能性がある。72時間以内に投与すべき明確な根拠はないが、米国臨床腫瘍学会など海外で3から4日以内に投与するのが合理的だと言われているため。

問い合わせ先：協和キリン

**Q：ページニオについて**

内分泌療法との併用が必須で、添付文書の用法及び用量に関連する注意の項目に「併用する内分泌療法剤等について、臨床成績の項の内容を熟知し、選択を行うこと」と記載されている。

国際共同第Ⅲ相試験において、内分泌治療歴のない手術不能・再発閉経後乳癌の場合は、非ステロイド性アロマトターゼ阻害剤（フェマーラ（レトロゾール）、アリミデックス（アナストロゾール））との併用であったが、ステロイド性アロマトターゼ阻害剤のアロマシン（エキセメスタン）との併用は可能か。

A：特に併用する薬剤の制限はない。しかしながら、臨床試験では非ステロイド性アロマトターゼ阻害剤を使用しており、それを勧奨して選択するように伝えている。

問い合わせ先：日本イーライリリー

**Q：キイトルーダについて**

添付文書の特定の背景を有する患者に関する注意に、「結核の感染または既往を有する患者」と記載があるが、投与前の検査でスクリーニングする必要はあるか。

A：添付文書には記載はあるが、投与前に必ずスクリーニングをする必要はない。施設判断でかまわない。

問い合わせ先：MSD

**Q：テセントリクについて**

添付文書の特定の背景を有する患者に関する注意に、「結核の感染または既往を有する患者」と記載があるが、投与前の検査でスクリーニングする必要はあるか。

A：添付文書には記載はあるが、投与前に必ずスクリーニングをする必要はない。

問い合わせ先：中外製薬

**Q：ロンサーフ配合錠について**

胃癌のセカンドラインとしてラムシルマブ±ロンサーフのレジメンについて、2021年に

国立がん研究センター東病院の川添先生が第Ⅱ相試験の発表をしている。それ以降で、エビデンスの公表はあるのか教えて欲しい。

A：2021年に国立がん研究センター東病院の川添先生が第Ⅱ相試験の発表をしたもののみ。好中球減少症の発現率が高く、PSがよくても注意が必要と思われる。

問い合わせ先：大鵬薬品工業

**Q：デュピクセント皮下注について**

室温に放置してしまった場合の安定性は？

A：遮光、25℃以下であれば14日間は使用可能。ただし、再度冷蔵庫には入れないこと。25℃以上になった場合は使用不可。

問い合わせ先：サノファイ

**Q：サムタス点滴静注について**

- ①添付文書に「生理食塩液又は5%ブドウ糖液50mLを用いて用時溶解及び希釈」と記載があるが、50mLとした理由は何か。
- ②「1バイアルに生理食塩液又は5%ブドウ糖液4mLを加え溶解」と記載があるが、4mLとした理由は何か。
- ③「1時間かけて点滴静注」の理由は何か。

A：

- ①臨床試験では生理食塩液又は5%ブドウ糖液50mLのみで溶解希釈し検討した。50mL以外で溶解希釈した際の安定性等のデータはない。
- ②バイアルの容積と調製時の薬剤ロスを考慮して設定した。1mL程度でも溶解可能だが、少量では薬液の濃度が高くなり、バイアル内に残る薬剤が多くなる。
- ③1分、5分、1時間、2時間で投与を検討したところ、短時間での投与では掻痒症等の副反応が高頻度に認められたため、1時間とした。

問い合わせ先：大塚製薬

**Q：イベニティ皮下注シリンジについて**

- ①「注射部位は上腕部、腹部又は大腿部とし、同一部位への反復投与は行わないこと」と添付文書に記載されている。1回目2本は上腕

部（左右）に投与した。1 か月後の2 回目は上腕部以外の部位がよいのか。

- ②「投与前30分程度、遮光した状態（外箱に入れた状態）で室温に戻してから投与すること」とあるが、必ず30分前である必要があるのか。
- ③大腸全摘、腎機能障害のある患者にも通常用量で問題ないか。

A：

- ①同一部位に投与すると硬結が生じるための記載。同じ上腕でも多少は前回の投与部位とずれると考えられるため、2 回目以降も上腕部でも可。
- ②冷たいと疼痛や刺激感を伴うための記載。必ずしも30分前でなくてもよい。室温で30日間は安定性の逸脱はなしとのデータもあり。一度室温に戻したが、投与中止となった場合もその後冷所に戻して使用も可。しかし遮光した状態であることが条件。
- ③減量して投与した例はない。適正使用ガイドに準じて、イベニティ投与中は低Ca血症の治療や予防の観点からCaやVDの補充を検討いただきたい。

問い合わせ先：アムジェン

**Q：アミオダロン塩酸塩注について  
血管外漏出時の対応はあるか。**

A：海外のガイドラインでは保冷が望ましいとされている。24～48時間の間に1日4回1回20分程度保冷する方法がある。症状がある時はステロイドの塗布など通常の対応が良い。

問い合わせ先：トーアエイヨー

**Q：ソマチュリン皮下注について**

**オクトレオスキャンで皮疹が出現した患者があり、ソマチュリン投与予定だが皮疹のリスクがあるかどうかの情報はあるか。**

A：作用部位は共通だが、添加剤等が違うためリスク判断はできない。単独での報告は、重症薬疹が1例、軽症の皮膚症状の報告が28例ある。

問い合わせ先：帝人ファーマ

**Qバリキサ錠について**

**サイトメガロウイルス腸炎の予防としてバリキサ服用中。ヘルペスウイルスも考慮してアシクロビル投与を検討中。バリキサとアシクロビルの併用は可能か。**

A：併用禁忌ではない。バリキサ内服下でも、帯状疱疹を発症した例や重症例ではアシクロビルを併用した症例はある。

問い合わせ先：田辺三菱製薬

**Q：アルンブリグ錠について**

**下痢の副作用に対して、予防投与などの対処は必要か。**

A：投与初期に下痢の発現頻度が高いことがわかっている。予防投与ではなく、副作用が発現した時に対処できるように、前もってロペラミド等を処方いただくよう説明している。

問い合わせ先：武田薬品工業

**Q：ピブラッツ点滴静注液について**

**投与時にフィルターを使用するのは何故か。**

A：開発初期に冷蔵保存した際、結晶析出がみられたため、フィルター使用となった。その後の安全性試験などでは結晶析出は見られていない。

問い合わせ：イドルシアファーマシューティカルズジャパン

**Q：レクタブル2mg注腸フォームについて**

**感染性弓部動脈瘤でステントグラフト加療後、抗菌薬治療の継続必要な方。潰瘍性大腸炎でレクタブル使用予定だが、感染悪化リスクについての情報はあるか。**

A：国内臨床試験においては感染症に関連した重篤副作用の報告はない。局所作用が強いとされているが、コルチコステロイドによる免疫抑制作用が否定できないため、注意喚起を行っている。具体的な頻度などの報告なし。マクロライド系の抗菌薬、抗真菌薬などとの併用でブテゾニドの血中濃度上昇リスクあり。

問い合わせ先：EAファーマ

Q：ラピフォートワイプについて

1日1回の使用を毎日継続することで効果が期待できる薬剤であり、臨床試験では夜就寝前に使用しているが、使用するタイミングによって効果に違いはあるか。

A：朝での臨床試験は行っておらず不明。羞明

の副作用を考慮し、日中ではなく夜就寝前の使用を推奨している。また、原発性腋窩多汗症は睡眠中は腋窩の発汗が止まるため、汗で薬剤が流れてしまう日中ではなく、夜就寝前の使用がよいと思われる。

問い合わせ先：マルホ

## DI実例報告

東北中央病院  
TEL 023(623)5111

**Q：整形外科の手術をする際に1週間に12mg以上メトトレキサート（MTX）を内服している患者の場合、手術前にMTXを休薬する必要はあるか？**

A：整形外科の手術において、

- ・整形外科手術を受けた関節リウマチ（RA）患者の臨床試験（6件）のメタアナリシスの結果、術後合併症のリスク因子を有さず、MTX治療をされているRA患者では、周術期のMTXによる治療の維持が推奨されている。
- ・整形外科手術の周術期にMTX投与を受けたRA患者における術後合併症リスクに関して、2件のシステマティックレビューが行われ、いずれも整形外科周術期のMTX継続投与は術後合併症リスクに影響せず、RA活動性制御のためにも継続すべきと結論された。

等の報告がされている。

そのため「関節リウマチ治療におけるメトトレキサート使用と診療の手引き 2016年版」《第7章 周術期の対応》の項では、MTX12mg/週超の高用量投与例における手術の際には、個々の症例のリスク・ベネフィットを考慮して判断するとなっていたが、「関節リウマチ治療におけるメトトレキサート使用と診療の手

引き 2023年版」《第7章 周術期の対応》の項ならびに、「関節リウマチ診療ガイドライン 2020」《第3章 クリニカルクエスチョンと推奨》においては、整形外科手術の周術期におけるMTXの休薬は必要ないとの記載になった。

一方、整形外科手術以外の周術期についてはエビデンスがないため、個々の患者の状況を考慮して判断すべきとされている。

問い合わせ先：ファイザーメディカルインフォメーショングループ

**Q：2022年12月からノルspanテープ5mgを開始し、2023年1月に10mgに増量した。2023年7月にノルspanテープ10mgの使用を終了する予定だが、どのように減量すべきか？**

A：連用中における急激な減量は退薬症状があらわれることがあり、徐々に減量をする必要がある。

具体的な減量方法としては、10mgを使用していた場合、5mgに減量後7日間使用し7日後に5mgのテープを剥がし使用終了とする。

問い合わせ：ムンディファーマ

## DI実例報告

公立置賜総合病院  
TEL 0238(46)5000

**Q：ビムパット錠の心電図への影響を教えてください。T波への影響はあるか？**

A：内服に伴い、PR波間隔の延長が現れることがある。

また、QT間隔の延長には関与しないとされている。

添付文書「17.3.1 心電図に対する影響」

健康成人214例にラコサミド400mg/日、800mg/日<sup>注7)</sup>又はプラセボを1日2回に分けて6日間反復経口投与、又はモキシフロキサシン400mg/日を1日1回3日間反復経口投与したとき、ラコサミドはQTc間隔を延長しなかった。ラコサミド群のPR間隔の平均変化量は第6日目の投与1時間後に最大となり、プラセボ群との差は、400mg/日で7.3ms、800mg/日<sup>注7)</sup>で11.9msであった(外国人データ)。

注7) 本剤の承認された1日最高用量は400mgである。

**Q：エバシエルドは、主に血液腫瘍の方へSARS-CoV-2による発症抑制の適応に限り(国の配分で供給量が少ないため)使用される中和抗体(2成分)である。**

①コロナワクチンとの接種間隔について

②発症予防の用量

③本剤の抑制効果期間と、再投与に関して

A：

【参考資料：新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬「チキサゲビマブ及びシルガビマブ」の医療機関への配分について】

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部 事務連絡 R4.9.1

①新型コロナウイルス感染症のワクチン接種と本剤の投与のタイミングについて。

モノクローナル抗体や血漿療法による治療や本剤の発症抑制(ウイルス曝露前の予防)を受けた後に、本人が速やかにワクチン接種を希望する場合には、必ずしも一定期間を空ける必要はない。

米国CDCは、過去に抗体製剤(モノクローナル抗体または回復期血漿)の投与を受けた方も、接種を延期する必要はないとしている。ワクチン接種後に本剤を投与する場合、その期間については特段の注意喚起はされていない。

なお、米国CDCは、ワクチンの接種から本剤の投与まで少なくとも2週間延期することを推奨している。

厚生労働省HP 新型コロナワクチンQ&A (<https://www.cov19vaccine.mhlw.go.jp/qa/0028.html>)

●血液腫瘍の方はコロナワクチンを接種しても抗体が付かないとのデータがあるため、米国CDCの推奨はあるが、エバシエルドを投与した方が利益は高いため、国内での現状の使い方として接種間隔を空けるなどの対応は取っていない施設が多い。(同日接種もある)また、血液腫瘍の方にインフルエンザワクチンなど従来のワクチンを接種した場合の抗体についてはデータがなく不明である。同時接種を行う施設もあれば、インフルエンザワクチンは一般的に接種後2週間で効果が現れると考えられているため、先にインフルエンザワクチンを接種し2週間程度空けて本剤の投与を行うとする施設もある。

②本剤の添付文書では、「omicron株(B.1.1.529/BA.4系統及びBA.5系統)については、本剤の有効性が減弱するおそれがある」とされており、このため「SARS CoV2による感染症の発症抑制については、同様の対象者に使用

可能な他の治療薬がないことから、慎重に投与を検討することとし、その際の用量は、チキサゲビマブ（遺伝子組換え）及びシルガビマブ（遺伝子組換え）としてそれぞれ300mgとすることを基本とすること。」と記載されている。

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和4年8月31日）の資料では、オミクロン株のBA.2系統の流行から、BA.5系統が主流となり、置き換わったと推定される。

③添付文書では、「再投与時の安全性及び有効性を裏付けるデータは得られていない。」と記載あり。

海外のデータとして抑制効果は、196日とされている。

現在、米国では半年ごと投与の臨床試験が開始されている。

日本では臨床試験は行っていないことから再投与に関しては言及していない。

今後のデータや見解を待つことになる。

**Q：アクテムラとインフルエンザワクチンの接種間隔について。**

A：アクテムラとインフルエンザワクチンを同日投与し問題なかったとする論文あり。

（メーカー返答、論文の提供は不可。）

他施設によって、アクテムラは4週毎投与の場合、インフルエンザワクチンをその間に接種するところもある。（アクテムラを投与し、2週間後インフルエンザワクチン接種、また2週間後に継続のアクテムラ投与）

但し、効果や安全性に関して根拠となるデータはなし。

**Q：ネキシウム懸濁顆粒(当院：院外採用)を胃瘻より投与している症例で、黄色いベタベタがチューブの内壁にへばりついていて、ネキシウム顆粒は簡易懸濁にて経管投与を行っても問題ない製剤か？**

A：（メーカーより返答）

ネキシウムについては経口での投与を前提にしているが、簡易懸濁での投与も可能である。経管での投与が問題になる製剤ではなく、そういった報告も特にない。要因としては溶解する水量が少なかった、又は、懸濁後時間が経ってしまい、成分が沈殿したためではないかと考えられる。

今回は簡易懸濁可能な同効薬として、ネキシウムからタケキャブ錠への変更を勧めた。

（添付文書：使用上の注意より）

本剤は約15mLの水に懸濁し、2～3分ほど置いて粘性が増してから服用することが望ましい（なお懸濁後は、顆粒が沈殿する可能性があるため30分以内に服用することが望ましい）。服用後、容器に顆粒が残った場合は、さらに水を加えて懸濁し、服用すること。

**Q：当院採用の免疫グロブリン製剤のナトリウムの含有量を知りたい。**

**（小児の補液のナトリウム量と調整したいため）**

A：

免疫グロブリン製剤のナトリウム含量

| 製剤名                                 | 規格        | 製剤中のナトリウム（塩化ナトリウム）含量 |            |                           |
|-------------------------------------|-----------|----------------------|------------|---------------------------|
| 献血ヴェノグロブリンIH10%静注<br>(塩化ナトリウムの添加無し) | 2.5g/25mL | NaOH：適量              | Na：0.045mg | Na <sup>+</sup> ：0.002mEq |
|                                     | 5g/50mL   | Na：0.0018mg/mL       | Na：0.090mg | Na <sup>+</sup> ：0.004mEq |
| 献血ベニロン-I静注用                         | 2.5g/50mL | NaCl：500mg           |            | Na <sup>+</sup> ：8.5mEq   |
| 献血グロベニン-I静注用                        | 5g/100mL  | NaCl：900mg           |            | Na <sup>+</sup> ：15.3mEq  |

ヴェノグロブリンのNa含量は、ほぼ無いに等しいので気にしなくともよい。補液のNa量に応じてベニロン、グロベニンを選択する。

**Q：アセチルシステイン液の処方あり。(アセトアミノフェン中毒解毒剤) 患者の体重当たりの希釈量があるが、4時間ごと服用で合計の水分量が多い。この希釈量を減らしたり出来るのか？**

A：20kg以上の場合、

初回投与：体重1kgあたり本剤0.8mL、希釈液の量2mL

その後4時間ごと継続投与：体重1kgあたり本剤0.4mL、希釈液の量1mL 17回、計18回投与となる。

例えば体重70-74kgの方では初回本剤60mL、  
希釈液150mL Total: 210mL

維持量は、本剤30mL、希釈液75mL Total:  
105mLとなる。

本剤自体が、塩辛く、苦味、えぐみがあり服用しづらい薬剤である。

希釈の理由は飲みにくいためであり、希釈液量の増減、又は希釈無しでも効果は変わらない。

添付文書に希釈の量が体重当たり記載されているが、実際は、もっと薄めないと服用出来ないケースもある。

**Q：全脳照射の方で吐き気の訴えがあり、デキササート注とメトクロプラミド錠を投与したが、あまり効果がなかった。**

**他剤で効果が期待できる薬剤について。**

A：グラニセトロン（5-HT3受容体拮抗薬）は、放射線照射に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）の適応がある。

①日本癌治療学会「放射線治療による悪心・嘔吐のリスク分類および治療法」

悪心・嘔吐のリスク分類（頻度）：放射線照射部位

軽度（30～59%）：頭蓋、頭蓋脊髄、頭頸部  
<治療方法> 予防的または症状発現後 5-HT3受容体拮抗薬

②2013年 日本がん治療学会の学術集会抄録に、広島大学より「中枢神経悪性腫瘍への放射線照射に伴う悪心・嘔吐に対するグラニセトロンの効果」報告がある。

34例を対象とし、放射線により悪心grade2以上または嘔吐を発現した患者は、全脳または全脳・全精髄照射で55.6%、全脳室照射で33.3%、局所照射で16.7%と、照射体積が大きいほど発現頻度が高かった。グラニセトロンを投与した患者の悪心消失率は、55.6%（9人中5人）で、嘔吐完全抑制率は100%（6人中6人）であった。食欲不振については、gradeが改善するものの完全に消失した例は、1例のみであった。副作用として便秘が44.4%（9人中4人）に発現したが投与終了

後に速やかに回復した。

グラニセトロンの錠剤であれば、当院採用ではカイトリル錠 1mg 1回 2錠 1日1回で、照射の1時間前に服用する。

注射剤ではグラニセトロン 3mg/100mLバッグがあるが、1回40μg/kgで、体重約60kgの方のため、2.4mg/80mLとなる。照射の何時間前に投与するかの記載はない。（投与時間30分程度時間を要するが、血漿中濃度は点滴終了時に最高値を示し、以後2相性に消失とあるため、投与終了後すぐに照射でもよいかと思われる）注射は1日2回まで使用可である。

参考資料：①広島大学「中枢神経悪性腫瘍への放射線照射に伴う悪心・嘔吐に対するグラニセトロンの効果」

②日本癌治療学会「放射線治療による悪心・嘔吐のリスク分類および治療法」

**Q：①オルプロリクス定期補充（体重65kg、4000単位を2週間に1回投与。出血傾向があれば追加補充）していた方が胆のう炎のため腹腔鏡にて手術を行うことになった。**

**手術前に8000国際単位（以下、単位）をボラス投与し、その後8000単位で24時間の持続投与を考えている。使用方法について確認したい。**

**②投与スケジュールについて**

A：①オルプロリクスは、血液凝固第Ⅸ因子Fc領域融合タンパク質製剤で従来の薬剤と比べ、半減期を長く改良した製剤である。「インヒビターのない血友病患者に対する止血治療ガイドライン：2013年改訂版」より半減期の長い製剤の記載がない。2013年以降、改訂もないため情報は古く「持続静注を原則とする」の記載が残っているままである。

・添付文書では、持続投与の記載はなく、全て静注である。

・オルプロリクスは、添付の溶解液以外の製剤とは混合してはいけない。希釈して使用する薬剤ではない。

・1シリンジ（採用4000単位）当たり溶解液5

mLが添付されている。  
 溶解液で8000単位では、10mLを24時間かけての投与することになる。用量が少なく難しい。  
 他施設でも本剤の持続静注を行っている報告はない。

- ・半減期延長製剤（作用時間が長い）のため、持続静注とワンショットでの効果は変わらないと考えられる。

以上より、添付文書通り静注での使用となる。

②入院は7日程度の予定。

〈添付文書：手術前の初回投与100単位/kg、最初の3日間は、初回投与から6～10時間後、及び24時間毎に80単位/kgの追加投与を考慮する。〉

症例のスケジュールとして、初回：8000単位のボラス投与後、手術後に初回投与時間から6～10時間後に4000単位静注、24時間毎に4000単位静注する。

- ・初回100単位/kgで6500単位、80単位/kgだと5200単位となるが、4000単位の薬価は828,332円/瓶で高額な事や薬剤の特性上、残廃棄するより用量が少し多かったり、少な目でも査定の問題はないと考えられる。(定期補充が4000単位でもあるため) 24時間毎投与の間に出血傾向がみられた場合は、24時間経過していなくても追加投与可能(4000単位)。その際、次回は追加投与から24時間後となる。また、7日間の入院期間だが、長期半減期を有するため、3日目以降は、投与量を減量し、投与間隔を48時間毎に延期することの記載もある。

**Q：透析の方にエベレンゾ服用開始となった。**

- ①透析中の方にはエベレンゾは院内処方となったが、他の定期薬も院内になるのか。
- ②エベレンゾの服用は透析前と後でどちらがよいか。

A：①前回の診療報酬改訂により、HIF-PH阻害剤（エベレンゾ等）は当該医療機関において院内処方することが原則となった。

同一の患者に対して、同一診療日にHIF-PH阻害剤のみ院内において投薬する場合には、区分番号「F400」処方箋の(9)にかかわらず、他の薬剤を院外処方箋により投薬することとして差し支えない、と記載あり。

当日であっても、エベレンゾは院内処方、他の処方薬を院外処方する事ができる。

- ②エベレンゾは透析にて影響は受けないため透析前後のどちらでもよい。

また、食事の影響も受けない。

但し、Ca剤やMg剤と併用するとエベレンゾの吸収が低下するため、1時間の間隔をおいて服用すること。

**Q：ジクトルテープ75mg（75mg/枚）適応ごとの用法用量の比較について。**

A：

|          |                                   |                                                     |
|----------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 適 応      | 腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群及び腱鞘炎における鎮痛・消炎   | 各種がんにおける鎮痛                                          |
| 用 法 用 量  | 1日1回、1枚又は2枚。<br>1日（約24時間）毎に貼り替える。 | 1日1回、2枚を1日（約24時間）毎に貼り替える。<br>なお、症状や状態により1日3枚に増量できる。 |
| 1処方の上限枚数 | 63枚まで                             | 制限なし                                                |

**Q：バイアスピリン、プラビックス休薬した時の心血管系イベント再発のリスクについて**

A：〈クロピドグレル〉

- ・虚血性脳卒中患者を対象としたPRoFESS 試験のサブ解析ではクロピドグレル継続群に対し中止群では脳梗塞再発率が「7日以内:4.99倍」「30日以内:2.23倍」、「30日以内の心血管イベント再発率が5.26倍」と報告されている。(Weimar C., et al. Cerebrovasc. Dis. 35(6): 538-543, 2013)

〈アスピリン〉

- ・アスピリン療法中に脳梗塞/TIAを発症した群と非発症群を比較した報告では休薬例の割合は「発症群4.2%」、「非発症群1.3%」で休薬の脳梗塞発症のオッズ比は3.4と報告している。(Maulaz A. B., et al.:Arch. Neurol. 62:1217-1220, 2005)

・英国の文献より  
アスピリン服用群とアスピリン休薬群で比較したデータでは、心筋梗塞を再発したケースは休薬群1.63倍高かった。

**Q：ドルミカム注を終末期の鎮静に用いる場合、使い方は？**

A：厚生労働省厚生科学研究：苦痛緩和のための鎮静に関するガイドラインより  
(日本緩和医療学会理事会 承認 2005年1月29日)

ミタゾラム

【開始量】 投与開始量は、0.2-1mg/時間  
持続皮下・静注  
1.25-2.5mgの追加投与を行ってもよい。

【投与量】 5-120mg/日 (通常20-40mg/日)

【投与経路】 静脈  
皮下 (保険適用外の投与経路)

**Q：肩関節の腕神経叢ブロックにて1%カルボカイン注(メピバカイン)を、通常は1回20mLで使用しているが、大柄な方の場合は20mLでは足りない。何mLまで投与可能か？**

A：添付文書上、基準最高用量は、1回500mgと記載はある。

メピバカインの伝達麻酔では、通常1%カルボカイン50~200mg(5~20mL)となっている。

〈サンド(株)より〉

同効薬のアナペイン注(ロピバカイン)の添付文書

【臨床成績】 2. 伝達麻酔 参考までに伝達麻酔法の一般的な推奨用量を記す

●腕神経叢ブロック：用量30~40mL

「図解局所麻酔法マニュアル」吉矢生人、根岸孝明監訳より引用

1%カルボカインも同様に用量30~40mLと考えるとよい。

**Q：鉄剤とノベルジン錠の併用について併用注意となっているが、機序はどうなっているか。また、何時間あけるとよいか。**

A：ノベルジン錠 添付文書より

経口鉄剤は併用注意として設定されている。同時投与した場合、本剤及び鉄剤の吸収率が低下する可能性があるため、時間をあけての投与がすすめられている。

・インタビューフォームより

(解説)

稀ではあるが、亜鉛投与によって腸管における鉄の吸収阻害が起こり鉄欠乏になることがある。

また、多量の鉄剤(25mgを超える)によって亜鉛の吸収は低下すると考えられる。

・亜鉛服用60分後に鉄剤を投与したデータでは、鉄の吸収に影響は無かった。1時間あけての服用をすすめる。

## DI実例報告

白鷹町立病院  
TEL 0238(85)2155

### Q：腎機能がCCr16mL/分の患者に対するリネゾリド注射液の投与方法は？

A：血中濃度高値による血小板減少発症に関連する報告が多いため、初回に600mg×2、以降は600mg×1での投与が良いと考えられる。  
問い合わせ先：Meiji Seikaファルマ  
参考文献：薬剤性腎障害診療ガイドライン2016

### Q：抗コリン作用の無い睡眠薬は？

A：ベンゾジアゼピン系睡眠薬は全て抗コリン作用がある。院内採用薬では、メラトニン受容体作動薬のラメルテオンとオレキシン受容体拮抗薬のレンボレキサントが抗コリン作用の無い睡眠薬である。  
参考文献：添付文書

### Q：ビソプロロールをテープ剤から錠剤に切り替えたい。切り替え方法は？

A：テープ剤4mgは、錠剤2.5mgに相当する。尚、テープ剤を剥がしても作用が残ることから、剥がした後、24時間程度あけてから錠剤を開始する必要がある。  
問い合わせ先：トーアエイヨー

### Q：ワーファリンと抗生物質の併用について、相互作用が少ないと考えられる組み合わせは何か？

A：  
◎ペニシリン系抗生物質  
相互作用は稀であると思われるが、併用時は血液凝固能の変動に注意し、必要に応じてワーファリンの用量調節をすること。  
◎テトラサイクリン系抗生物質  
相互作用の報告は少なく、また頻度も低いと思われるが、併用時は血液凝固能の変動に注

意し、必要に応じてワーファリンの用量調節をすること。

◎アミノグリコシド系抗生物質  
相互作用の発生頻度はそれほど多くないと思われる。しかし、併用開始時および併用中止時は血液凝固能検査値の変動に注意すること。  
問い合わせ先：エーザイ

### Q：アミノック輸液の添付文書に「生体のアミノ酸利用率上、糖類輸液剤と同時投与することが望ましい」とあるが、ソルアセトF輸液に混注して投与することは可能か？

A：食事等で糖質が摂取出来ていれば、糖類を含まないソルアセトF輸液等と同時に投与することは可能。  
問い合わせ先：陽進堂

### Q：芍薬甘草湯の他に、こむら返りに有効と考えられる漢方薬はあるか？

A：疎経活血湯が挙げられる。即効性については芍薬甘草湯の方が優勢と思われるが、疎経活血湯はこむら返りに対して予防効果があったとする臨床報告がある。  
問い合わせ先：ツムラ

### Q：経管投与の患者のチューブの接続部が緩み少し漏れが生じシーツが濡れた。その部分が時間とともにグレー～黒っぽく変色してきたが、服用薬でそのような薬はあるか？

※服用薬はミヤBM細粒、ファモチジンOD錠、プロチゾラムOD錠、クエチアピン錠、ネオドパストン配合錠L  
A：ある。  
ネオドパストン配合錠Lはレボドパとカルビドパの配合剤で、レボドパは白色又は僅かに

灰色を帯びた白色の結晶性の粉末であるが、水に溶かした場合時間の経過とともに灰色～黒色に変色する。

問い合わせ先：大原薬品工業

**Q：アスパラカリウム散50% 2.1 g 服用中の患者が入院したが院内採用が無い。院内採用薬のグルコンサンK細粒 4 mEq/g に変更すると投与量は何 g になるか？**

A：アスパラカリウム散50%のカリウム含有量は2.9mEq/gであり、グルコンサンK細粒 4 mEq/gに等価換算すると約1.5 gとなる。しかし、カリウム製剤は単純に等価換算は出来ず、細胞内移行性や承認されている用法・用量を考慮して総合的に投与量を決める必要がある。したがって、アスパラカリウム散50%の1日の平均投与量1.8～5.4 gとグルコンサンK細粒 4 mEq/gの1日の平均投与量7.5～10 gから換算し、また、高齢及びカリウムのデータも落ち着いていて退院も間近であることから、1日6 gで投与し、退院後は

早めにアスパラカリウム散50%に戻して頂くよう医師へ報告した。

問い合わせ先：サンファーマ

**Q：Clostridioides difficile infectionによる下痢にフラジール錠を処方したいが用法・用量を知りたい。**

A：通常成人の感染性腸炎に対しては1回250mgを1日4回又は1回500mgを1日3回10～14日間経口投与する。

参考文献：添付文書

**Q：服用薬の中でパーキンソン症状の副作用報告がある薬はあるか？**

※服用薬はネキシウム、アムロジピン、アトルバスタチン、センノシド、グーフイス、セルベックス、酸化マグネシウム、ノイロトロピン、リリカ、アレロック

A：アムロジピンに錐体外路症状、リリカに振戦の副作用の記載あり。

参考文献：添付文書

## 令和5年度山形県病院薬剤師通常総会

一般社団法人山形県病院薬剤師会（羽太光範会長・山形済生病院）は令和5年5月20日（土）、山形テルサ（山形市）において、令和5年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会を開催しました。羽太会長挨拶に続いて、早速、議長に松田隆史氏（公立置賜総合病院）を、副議長に市川勇貴氏（篠田総合病院）を選出し、議事に入りました。

協議は、令和4年度事業報告、同決算報告、令和5年度活動計画案、同予算案が審議され、執行部の原案通り賛成多数で承認されました。また、定款細則の改正について、山口浩明副会長より提案され、執行部の原案通り賛成多数で承認されました。また、役員任期満了に伴う改選について、羽太会長から執行部による役員候補者の提案がなされ、新理事（敬称略）赤尾眞、延川正雄、小林由佳、石山晶子、小林聖子、畠山史朗、阿部桂子、八楯雅昭、中村雄太郎の9名を含む28名の理事と新監事（敬称略）芦埜和幸の1名を含む2名の監事が賛成多数をもって選任されました。

引き続き、令和4年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰を受賞された、羽太光範氏（山形済生病院）、令和4年度薬事功労者山形県知事感謝状を受賞された、大川賢明氏（庄内余目病院）が紹介され、羽太光範氏、大川賢明氏が挨拶されました。また、永年会員（25年）表彰者について対象となられた先生、第2回山形県病院薬剤師会学術大会にて最優秀発表賞を受賞された先生、令和4年度優秀論文賞にて最優秀賞・優秀賞を受賞された先生が紹介されました。

# 令和5年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会

開催日時：令和5年5月20日(土) 14時30分～15時30分

場 所：山形テルサ 大会議室

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 議 事

1) 協議事項

(第一号) 令和4年度事業報告

(第二号) 令和4年度決算報告

(第三号) 令和4年度会計監査報告

(第四号) 定款細則の改正について

(第五号) 令和5年度活動計画

(第六号) 令和5年度活動予算書

(第七号) 役員改選に伴う役員選出について

(第八号) 日本病院薬剤師会代議員、補欠の代議員選挙について

5. 表 彰

6. そ の 他

7. 閉会の辞

## 令和4年度事業報告

令和3年4月1日に本会は一般社団法人山形県病院薬剤師会として登記を行い法人として活動を開始し、今総会まで1期2年のうち令和4年度の2年目を全うした。

令和2年度当初より発生している新型コロナウイルス感染症対策により、令和4年度も様々な活動の工夫が必要とされた。

そのような中で令和4年6月25、26日に山形テルサにて『日本病院薬剤師会第11回東北ブロック学術大会』を開催し、638名の方々にご参加いただき、大変盛況に終えることができた。令和4年9月4日に（一社）山形県薬剤師会と共同開催した『第68回山形県薬学大会』は、これまでの運営方法を変更し新しいスタイルで実施した。また令和4年11月6日には、第2回となる『山形県病院薬剤師会学術大会』を開催し、年度内に学術大会を3回催すに至ったことは県内の薬剤師の臨床研究等の更なる発展に大きく寄与できたものと理解している。

令和5年1月より電子処方箋が開始となり、我々病院薬剤師もあらたな仕組みの理解と対応が必要になった。

一方で、病院に勤務する薬剤師の全国的な不足問題は待ったなしの重要課題であり、山形県下においてもあらゆる手段を講じながら事態の解決を図らねばならず、第八次医療計画を見据えた実質上のスタートの年となった。

このように、我々の取り巻く状況は楽観視できない状況ではあるが、昨今のICT技術の進歩による業務革新と薬剤師の意識改革を融合させ、県民への医療サービスの充実のため、そして若い世代に魅力ある職業としていくために必要なことは何かを考えさせられる一年となった。

### ▼会 員 数

令和5年3月31日現在

|       |      |
|-------|------|
| 正 会 員 | 392名 |
| 特別会員  | 21名  |
| 合 計   | 413名 |

|      |     |
|------|-----|
| 名誉会長 | 1名  |
| 名誉会員 | 23名 |
| 有功会員 | 1名  |
| 顧 問  | 1名  |

|       |     |
|-------|-----|
| 準 会 員 | 12名 |
| 賛助会員  | 62社 |

### <ブロック別・会員数>

|         | 庄 内 | 村山最上 | 山 形  | 置 賜 | 総 数  |
|---------|-----|------|------|-----|------|
| 施 設 数   | 12  | 18   | 18   | 14  | 62   |
| 会 員 合 計 | 81名 | 64名  | 187名 | 60名 | 392名 |

## ▼総会・会議 等

- 2022年04月18日(月) 第1回常務理事会
- 2022年04月20日(水) 第1回理事会
- 2022年04月24日(日) 令和4年度東北地区調整機構総会(第56回会議)
- 2022年04月25日(月) 第1回山形県薬県病薬役員懇談会
- 2022年05月21日(土) 第2回理事会
- 2022年05月21日(土) 令和4年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会
- 2022年06月18日(土) 第65回日本病院薬剤師会定期総会
- 2022年07月21日(木) 第2回常務理事会
- 2022年08月02日(火) 第3回理事会
- 2022年09月24・25日 第73回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
- 2022年10月22日(土) 日病薬地方連絡協議会
- 2022年10月24日(月) 第3回常務理事会
- 2022年10月27日(木) 第4回理事会
- 2022年11月06日(日) 第2回山形県病院薬剤師会学術大会
- 2023年01月25日(木) 第4回常務理事会
- 2023年01月29日(日) 令和4年度東北地区調整機構総会(第57回会議)
- 2023年02月01日(水) 第5回理事会
- 2023年02月18日(土) 第66回日本病院薬剤師会臨時総会
- 2023年03月09日(木) 第5回常務理事会
- 2023年03月14日(火) 第6回理事会

#### ▼研修会 令和4年度研修会開催一覧（主催・共催・後援）

- 2022/05/31(火) 研修会『2022年度診療報酬改定に伴う取り組みと課題』  
2022/06/25(土) 26(日) 日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会  
2022/07/12(火) 令和4年度山形県病院薬剤師会U40研修会  
2022/07/15(金) 第21回山形COPD研究会  
2022/07/20(水) 2022年度第1回山形県周産期薬物療法研修会  
2022/07/23(土) 2022年度第1回山形県がん化学療法セミナー  
2022/07/23(土) 第12回庄内薬剤師糖尿病Web講演会  
2022/08/04(木) 薬剤師の先生方のためのAMLセミナー  
2022/09/03(土) 2022年度第2回山形県がん化学療法セミナー  
2022/09/04(日) 第68回山形県薬学大会  
2022/10/16(日) 2022年度第3回山形県がん化学療法セミナー  
2022/11/06(日) 第2回山形県病院薬剤師会学術大会  
2022/11/16(水) 周術期の薬剤管理を考える会  
2022/11/27(日) 2022年度第4回山形県がん化学療法セミナー  
2022/12/03(土) 2022年度第2回山形県周産期薬物療法研修会  
2022/12/09(金) 外来化学療法Webセミナー  
2023/01/30(月) 2022年度山形県病院薬剤師会糖尿病領域部門WEB研修会  
2023/02/04(土) 2022年度第5回山形県がん化学療法セミナー  
2023/02/24(金) 令和4年度山形県病院薬剤師会置賜ブロック研修会  
2023/02/25(土) YAMAGATA Pharmacy Director Seminar 2022  
2023/03/10(金) 令和4年度第1回医薬品安全管理研修会  
2023/03/11(土) 令和4年度山形県病院薬剤師会庄内ブロック研修会  
2023/03/16(木) 令和4年度山形県病院薬剤師会U40研修会  
2023/03/23(木) らくらく抗菌薬セミナー3  
2023/03/25(土) 2022年山形県病薬度山形ブロック研修会

計25回

▼委員会活動報告

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名         | がん・緩和領域部門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 委員<br>◎：委員長  | ◎松田圭一郎、芦埜 和幸、金野 昇、阿部 和人、茂木 佳子、小林 由佳<br>齋藤 智美、西村 雅次、安部 一弥、貴田 清孝                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 我々を取り巻く状況と課題 | がん領域では様々な新規薬剤と多種多様なレジメンが登場しており、薬剤師は最新情報の把握と、安全な医療提供のための実践が求められています。がん治療の主体は入院から外来へ移行し、R3年8月には保険薬局における「専門医療機関連携薬局」認定制度が発足し、がん領域における薬業連携の重要性が増しております。山形県では認定が2薬局（令和5年1月現在）と東北では宮城県（6薬局）に次いで2番目の状況となっておりますが、患者様に質の高いがん医療を提供するため、保険薬剤師も含めた幅広い人材育成が課題と考えます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動内容         | <p>1. がん緩和領域部門委員会の開催について</p> <p>(ア) 第1回委員会</p> <p>①日 時：令和4年6月27日 17時45分～19時00分</p> <p>②開催場所：web会議</p> <p>③出席者：羽太会長、委員10名全員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員、活動メンバーの確認を行い、石川大介先生（日本海総合病院）に活動メンバーへの協力依頼を行い、了承を得た。</li> <li>・令和4年度事業計画について：山形県がん化学療法セミナー5回開催を決定。このうち第4回に：都道府県がん診療拠点病院としての研修会と共催で症例検討会を計画する</li> <li>・がんセミナー運用面では、参加費規定改定のため非会員の取り扱いを変更することを確認。</li> <li>・部門委員会の連絡ツールにLINE WORKSを使用することを確認</li> </ul> <p>(イ) 第2回委員会</p> <p>①日 時：令和5年2月16日 17時45分～18時20分</p> <p>②開催場所：web会議</p> <p>③出席者：委員7名（3名欠席）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度活動報告（山形県がん化学療法セミナー5回分）</li> <li>・令和5年度活動計画について協議</li> <li>・部門委員について、令和4年度は1名減の10名で実施したが来年度は従来の通りの11名体制にする方向となった。</li> </ul> <p>2. 令和4年度がん化学療法セミナーの開催実績について</p> <p>(ア) 第1回 血液がん（東和薬品）（2月にベルケイド、トレアキシン後発薬発売）</p> <p>※東北ブロック学術大会のため6→7月開催へ</p> <p>担 当：鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院</p> <p>開 催：2022年7月23日（土）13：00～15：00（情報提供12：50～）</p> <p>参加者：37名</p> <p>【一般演題】</p> <p>「当院における血液内科病棟での薬剤師のかかわり」<br/>山形大学医学部附属病院 薬剤部 澤田 広樹先生</p> <p>「薬剤師から見た悪性リンパ腫治療の有害事象マネジメント」<br/>山形県立中央病院 薬剤部 齋藤 智美先生</p> <p>【特別講演】</p> <p>「悪性リンパ腫治療の進歩～薬剤師に知っておいてほしいこと～」<br/>山形県立中央病院 血液内科 田嶋 克史先生</p> <p>(イ) 第2回 胃がん（ブリストル/小野薬品）</p> <p>担 当：公立置賜総合病院、米沢市立病院</p> <p>開 催：2022年9月3日（土）14:00～16:00</p> <p>参加者：38名</p> <p>【ディスカッション】</p> <p>「irAEマネジメント、多職種連携～薬剤師の役割～、AeNAVI紹介」<br/>小野薬品工業(株) 腫瘍免疫ナース 石川真由美先生</p> <p>「当院における内服抗癌薬の誤用防止の為の取り組み」<br/>米沢市立病院 薬剤部 貴田 清孝先生</p> <p>【特別講演】</p> <p>「進行・再発胃癌の病態、検査、薬物療法の現状」<br/>山形県立新庄病院 腫瘍内科 福井 忠久先生</p> |

|                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>活動内容</p>                  | <p>(ウ) 第3回 肝がん(武田薬品)<br/> 担 当：山形大学医学部附属病院<br/> 開 催：2022年10月16日(日) 13:00～15:00<br/> 参加者：38名<br/> 【第一部】<br/> 「抗がん剤治療における当施設の薬薬連携の取り組み」<br/> 日本調剤 山形大前薬局 伊藤 史恵先生<br/> 「MMWINを活用した地域保険薬局とのがん診療薬薬連携について」<br/> みやぎ県南中核病院 薬剤部 副薬剤部長 山寺 文博先生<br/> 【第二部】<br/> 「肝細胞癌の薬物療法の進歩と展望」<br/> 山形大学医学部 内科学第二講座 准教授 芳賀 弘明先生</p> <p>(エ) 第4回 症例検討会(グループディスカッション)<br/> ※薬剤師のためのがん化学療法講座、日本医療薬学会認定講習会<br/> 担 当：県立中央病院・済生病院・済生館 当日協力：活動メンバー<br/> 開 催：2022年11月27日(日) 13:00～16:00<br/> 参加人数：21名<br/> テ ー マ：「外来化学療法における副作用マネジメント」</p> <p>(オ) 第5回 緩和領域(塩野義製薬)<br/> 担 当：東北中央病院、県立新庄病院<br/> 開 催：2023年2月4日(土) 14:00～16:00<br/> 参加人数：53名<br/> 【特別講演Ⅰ】<br/> 「終末期、薬剤師はどこまで根拠を持って関われるか」<br/> 山形大学医学部附属病院 副薬剤部長 志田 敏宏先生<br/> 【特別講演Ⅱ】<br/> 「慢性疼痛とがん疼痛 ペインクリニシャンが行う疼痛治療」<br/> 山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科 科長・講師 飯澤 和恵先生</p> |
| <p>反省<br/> 来年度に<br/> 向けて</p> | <p>今年度より参加費の規定見直しを受けて非会員の方にも受講しやすくなったと考えておりましたが、特に第4回セミナー(症例検討会)では保険薬剤師の参加が少なかったことが反省点です。症例検討会の内容については、外来がん化学療法で病院から在宅での治療に係るものを検討し、保険薬剤師の方々にも参加いただけるよう配慮して参ります。また、若い病院薬剤師の先生方にも積極的に参加いただけるよう各セミナー企画を行って参ります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名             | 専門領域部会<br>感染制御部門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委員<br>◎：委員長      | ◎西村孝一郎、相馬 直紀、五十嵐 徹、田中 大輔、平 浩幸、田中 久美、<br>加藤 容子、佐藤 智也、石山 晶子、大熊 良和、倉本美紀子                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 我々を取り巻く<br>状況と課題 | <p>各施設においてCOVID-19への感染対策、ワクチン接種などが継続され、その対応に追われた1年であったが、年度末になるにつれて感染者数も減少してきており、確保病床使用率も1ヶ台となってきた。各自治体におけるワクチン集団接種でも病院薬剤師も含め多くの薬剤師から協力を得て、県民のワクチン接種が進んだ。</p> <p>2022年度の診療報酬改定において、感染防止対策加算から感染対策向上加算へと名称が変更され、その中に抗菌薬適正使用支援加算も含まれるようになり、新興感染症への対策も追加となり、対象施設も大幅に拡大された。これは加算1の施設を中心に地域医療機関全体が連携し、地域全体の感染対策を整えていくということである。薬剤師は、感染対策活動で車の両輪に例えられる抗菌薬適正使用（治療）と感染制御（予防）の両方で貢献していかなければならない。そのためにも、COVID-19への対策など日ごろの活動から得られた情報の共有を行わなければならない。</p> |
| 活動内容             | <p>令和4年度第1回感染制御部門委員会<br/>令和5年3月4日(土) Web開催</p> <p>令和4年度第1回 山形県病院薬剤師会 感染対策講習会<br/>らくらく抗菌薬セミナー3<br/>2023年3月23日(木) 18:30～20:00 Web開催<br/>【講演1】「これで選べる！ 抗菌薬選択の基礎とコツ」<br/>山形県立中央病院 薬剤部 大熊 良和<br/>【講演2】「AST専従薬剤師が多職種と連携して行う抗菌薬適正使用支援」<br/>山形市立病院 済生館 副薬局長 西村孝一郎</p>                                                                                                                                                                               |
| 反省<br>来年度に向けて    | <p>今年度も各施設におけるCOVID-19への対応などがあり、十分な活動が行えたとは言えない。ワクチン接種も進み、COVID-19は感染症法上の類型が5類感染症に移行する。一方で、COVID-19の性質や流行状況などの変化や別の新興感染症の危険性も存在する。また、病院では易感染者が多く、MRSAなど従来の院内感染対策の継続も重要である。「感染対策は日常から」を頭に置き、感染制御部門で何をすべきかを考え活動していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                    |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 精神科部門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎渡辺 真理、青木 俊人、齋藤 寛、鈴木 聖子、中澤 芳文、吉岡 美佳                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 我々を取り巻く状況と課題  | <p>脱入院化、地域ケア促進の流れが加速しています。前回の診療報酬改定では持効性注射の包括病棟での薬剤量算定が可能になり、今回の改定では精神科急性期医師配置加算の要件にクロザリル新規導入開始が必須となった。どちらも再入院のリスクを減らすことが知られている。</p> <p>また、今まで治療が困難だった遅発性ジスキネジア治療薬のジスバルが発売となった。その他医薬品については、ハルシオンなど睡眠薬の一部では睡眠時の異常行動のあった患者には投与禁忌が追加されたことや、抗うつ薬のアモキササンが自主回収となり奏功していた患者さんに対する代替薬の処方提案が多くある。</p>                                                                                                                                                       |
| 活動内容          | <p>日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会 シンポジウム10<br/>令和4年6月26日(日)<br/>「精神科アウトリーチ支援の実現に向けて ～薬剤師の有用性を見出そう！～」<br/>オーガナイザー・座長 武田 拓也先生（敬愛会 尾花沢病院）<br/>谷藤 弘淳先生（こだまホスピタル 薬剤部）</p> <p>「精神科における退院時情報提供書の取り組みと課題」<br/>シンポジスト 鈴木 昭雄先生（秋田緑ヶ丘病院 薬剤部）</p> <p>「精神科外来でのポリファーマシー対策」<br/>シンポジスト 藤田布美子先生（おとめがわ病院 薬剤科）</p> <p>「デイケアでの関わり ～診察は同席して～」<br/>シンポジスト 柳 智之先生（医療法人社団玄洋会 道央佐藤病院 薬剤部）</p> <p>「精神科病院薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導 ～10年目を向かえて思うこと～」<br/>シンポジスト 皆川 英伸先生（医療法人清風会 清和病院 薬剤科）</p> |
| 反省<br>来年度に向けて | <p>コロナ禍のため他県との交流が少なくなっていたが東北ブロック第11回学術大会でたくさんの意見交換ができた。</p> <p>地域移行という大きな流れがあり、それに向けて精神科薬剤師の皆さんと一緒に考えていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 周産期部門                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎志田 敏宏、畠山 史郎、百瀬 里穂、植村奈緒瑠、東海林千裕、遠藤 清香、<br>武田 桐佳、畠山 瑞季                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 我々を取り巻く状況と課題  | <p>妊婦授乳婦に対する薬物療法において、添付文書の項目に「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」が設けられているが、妊婦授乳婦に対して使用禁忌と読み取れる医薬品が多く、「禁忌」と読み取ったことにより安易に人工妊娠中絶が選択される可能性が報告されている。本来であれば、常用投与量との比較と、これまでの観察研究とのデータに基づいて、薬物安全性を検討する必要がある。このような添付文書の側面は、場合によっては、母子双方にとって安全かつ適切な薬物療法の実施を妨げる可能性がある。</p> <p>我々薬剤師は添付文書の限界を理解した上で、最新のエビデンスを適切に評価し、次世代への有害作用を考慮した薬物療法を担い、母子の健康に貢献していく必要がある。そのために、妊娠・授乳期における薬物療法に関する知識、技術、倫理観を習得する必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 活動内容          | <p><b>【委員会開催】</b><br/> 周産期部門2022年度第1回委員会<br/> 日 付：12月1日 17：30～18：10<br/> 開催形式：Zoomによるオンライン会議<br/> 出 席：志田敏宏、植村奈緒瑠、東海林千裕、畠山瑞季、畠山史郎<br/> 欠 席：百瀬里穂、武田桐佳、遠藤清香<br/> 議題：<br/> 1. 2021年度の活動報告<br/> 2. 2022年度の周産期部門研修会の開催予定について<br/> 3. 妊婦授乳婦薬物療法認定薬剤師取得に向けた各施設の取り組み<br/> 4. 妊婦授乳婦への薬剤師の関わりに関するアンケート調査について</p> <p><b>【研修会開催】</b><br/> 2022年度第1回山形県周産期薬物療法研修会<br/> 2022年7月20日 水曜日 18：00～19：40<br/> 一般演題<br/> 「妊娠糖尿病における当院の連携」<br/> 鶴岡市立荘内病院薬局 松田 千佳先生<br/> 特別講演<br/> 「妊娠中の糖代謝異常について」<br/> 山形大学医学部第三内科准教授 諏佐 真治先生</p> <p>2022年度第2回山形県周産期薬物療法研修会<br/> 2022年12月3日 土曜日 15:00～16:30<br/> 一般演題<br/> 1. 「羊水過少のため当院へ入院となった妊婦への薬剤師の関わり」<br/> 鶴岡市立荘内病院 薬局 植村奈緒瑠先生<br/> 2. 「潰瘍性大腸炎の2歳の幼児に対する薬局の関わり」<br/> アーク調剤薬局 生澤俊太郎先生<br/> 特別講演<br/> 「周産期領域の薬剤師活動について（仮）」<br/> 社会福祉法人恩賜財団済生会本部 特別参与 植松 和子先生</p> <p><b>【研究】</b><br/> 研究課題<br/> 「山形県における妊婦・授乳婦への医薬品情報提供における薬剤師の関与状況の調査」<br/> 2023年2月にWEBにてアンケート調査を実施した。現在、回答を集計、解析中。<br/> 「周産期に活用できる情報（ガイドライン）のデータベース作成」</p> |
| 反省<br>来年度に向けて | <p>昨年度より計画していたアンケート調査の実施が2月となってしまい、年度内での報告ができなかった。<br/> 来年度の学会等で、部門から演題を提出する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名         | 糖尿病部門領域                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 委員<br>◎：委員長  | ◎鎌田 敬志、八楯 雅昭、小関 環、佐東 未咲、青木 梢太                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 我々を取り巻く状況と課題 | <p>近年、食事内容の欧米化や運動不足による体重増加と肥満により、インスリン抵抗性の悪化が危惧されており、平成28年国民健康・栄養調査報告によると、糖尿病が強く疑われる人は全国で1,000万人に増加し、糖尿病の可能性を否定できない人（糖尿病予備群）との合計は2,000万人になり、国民の5人に1人は糖尿病の可能性があると推計している。また、糖尿病性腎症が悪化して人工透析につながっており、日本透析医会2021年調査において、透析導入患者の原疾患として40.2%（全体：349,700人（日本透析医学会2021））、山形県においても人工透析導入は県民の生活の質に大きな影響を及ぼしている。平成28年4月厚生労働省は「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を策定し、山形県も取り組みを開始した。山形県では医師会や薬剤師会をはじめ多くの団体において取り組まれている糖尿病教室等の既存事業を尊重しつつ、新規透析導入患者数の減少を目指し、関係機関・団体が連携し「山形県糖尿病及び慢性腎臓病重症化予防プログラム」による重症化予防に重点的に取り組むとともに、在宅で療養する患者の環境整備に資している。一方、糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数は、令和1年全国16,019人、山形県132人と重症化予防プログラム開始から減少傾向が見られない状況が続いている。</p> <p>更に糖尿病は、新型コロナの重症化にかかわる危険因子のひとつと考えられている。糖尿病と新型コロナに関するいくつかの研究で、糖尿病の人はそうでない人に比べ、新型コロナに感染した場合の死亡リスクが2～3倍に上昇することが示されている。</p> <p>糖尿病領域部門は、会員の糖尿病治療ならびに療養指導に必要な薬学の最新の知識習得・技術向上、患者の心理と行動ならびに医療者と患者との関係をより良くするための糖尿病臨床・医療学の技術向上・発展、糖尿病に関する研究・情報交換を推進することにより職能を高め、その職能を通じて県民の厚生福祉に寄与することができるよう活動する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動内容         | <p>2022年度 糖尿病領域部門の年間活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>山形県病院薬剤師会 糖尿病領域部門会議<br/>日時：令和4年8月3日(水) 19:00～20:00<br/>会場：Web会議 (zoom)       <ol style="list-style-type: none"> <li>2022年度の年間活動           <ol style="list-style-type: none"> <li>糖尿病部門の年間活動の起案               <ol style="list-style-type: none"> <li>講演会を企画                   <ul style="list-style-type: none"> <li>日時：平日 18:00～20:00 90分間（年末年始周辺を除く）</li> <li>会場：Web講演 (zoom)</li> <li>研修内容：SGLT2阻害薬に関すること</li> </ul> </li> <li>現状の意見・報告                   <ul style="list-style-type: none"> <li>専門医以外の「シックデイ」対策が出来ているか。</li> <li>SGLT2阻害薬のRecommendationにシックデイの休業や周術期の術前休業についての周知。</li> <li>入院時、持参薬のSGLT2阻害薬の扱い、薬剤師と他職種との連携。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>LINE WORKS                   <ul style="list-style-type: none"> <li>山形県病院薬剤師会では、LINE WORKSを活用している。</li> <li>会員に広め、これからの連絡・広報などのツールにしていく。</li> <li>糖尿病領域部門の先生方に紹介、登録は任意</li> <li>登録してない先生は、可能であれば登録して部門活動に活用</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2022年度山形県病院薬剤師会糖尿病領域部門研修会<br/>日時：令和5年1月30日(月) 18:20～20:00<br/>会場：鶴岡市立荘内病院 (Zoom) 配信<br/>特別講演<br/>座長：山形大学医学部 内科学第三講座 准教授 諏佐 真治 先生<br/>演題：「糖尿病治療薬を上手に使い分けるためのトリセツ～血糖測定を有効活用しよう～」<br/>演者：大崎市民病院 糖尿病・代謝内科 薄井 正寛先生       </li> <li>令和4年度第2回糖尿病領域部門会議<br/>日時：令和5年3月2日(木)～<br/>会場：紙面会議       </li> <li>その他</li> </ol> |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 反省<br>来年度に<br>向けて | <p>1. 2022年度山形県病院薬剤師会糖尿病領域部門研修会<br/>(反省)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もWeb講演会になり、年1回の企画となった。</li> <li>・講演会は、多くの方から参加していただいた。</li> <li>・Web講演会の形式のため、全国から参加いただいた。</li> <li>・多岐にわたる内容であったが、治療薬の使い分けの基本から血糖測定の利用に至るまで解説いただいたので大変わかりやすかった。</li> <li>・参加者にとっての利便性が高いので継続を検討する。</li> <li>・来年度、現状を見据えた講演を企画したい。</li> </ul> <p>2023年度 糖尿病領域部門の年間活動(案)</p> <p>1. 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、年1～2回を企画</li> <li>・候補日 2022年10月以降</li> <li>・協力いただける製薬メーカーを検索</li> <li>・講演会の開催方法を検討</li> </ul> <p>2. 調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病関連もしくは糖尿病腎症に関する調査・研究<br/>調査・研究結果を関連学会への演題登録</li> </ul> <p>3. 糖尿病領域の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県薬剤師会と必要時連携をとり、薬剤師としての患者教育を行う。</li> <li>・日本くすりと糖尿病学会等の広報を連絡し、県内で情報を共有する。</li> <li>・糖尿病の治療・指導・支援は、複数の職種、複数の診療科が連携をとり、チーム医療が大切になる。メディカルスタッフの糖尿病療養指導のチーム力を高めるため、日本糖尿病療養指導士、山形県糖尿病療養指導士・支援士を育て、患者に合わせた糖尿病教育や相談が行うようブラッシュアップに取り組む。</li> </ul> <p>4. その他(学会・研究会の協力・参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本病院薬剤師会東北ブロック学術集会(郡山市)</li> <li>・東北地区糖尿病療養指導・薬学研修会(青森市)</li> <li>・日本くすりと糖尿病学会 技能研修会(基礎編・アドバンス編)</li> <li>・日本くすりと糖尿病学会学術集会(神戸市)、次年度(仙台)</li> <li>・山形県糖尿病療養指導・薬学研究会(県内)</li> </ul> |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名                 | 広報DI委員会                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員<br>◎：委員長          | ◎羽太 光範、國井 健、板垣 有紀、佐藤 ゆかり、佐藤 拓也、<br>松田圭一郎、川井 美紀、佐藤 一真、目黒 俊幸、大滝 善樹                                                                                                                                                                                                  |
| 我々を<br>取り巻く<br>状況と課題 | これまで、1989年に『山形県病薬DI-news』を発刊以来、2017年に『山形県病薬DI-news plus+』と名称を変えながら、2019年に『やまがた県病薬広報誌』として全面リニューアルを図ってきた。<br>2017年よりDI委員会と広報委員会が統合され、広報DI委員会として活動している。時代にマッチした広報の在り方を議題の中心に置きながら検討してきている。<br>昨今、SNSの普及とともに、携帯端末で情報伝達や情報共有が簡単にできるような工夫が求められてきている。                    |
| 活動内容                 | 2022年8月19日に、「第1回広報DI委員会」<br>2023年2月15日に、「第2回広報DI委員会」<br>をそれぞれ開催した。<br>昨年発行の『やまがた県病薬広報誌』No.32も前号同様概ね好評であり、同様のコンセプトで今年度も発刊することとなり、2023年1月16日に発刊した。<br>また2022年4月13日よりLINEワークスの運用を開始し、2023年3月現在160名余りの会員にご利用いただいている。こちらも概ね問題なく利用されていることから、本年度の取り組みとしては計画通りに進めることができた。 |
| 反省<br>来年度に<br>向けて    | 情報伝達や情報共有の在り方は、引き続き時代に合わせて検討していく必要がある。より一層会員にとって満足度の高い仕組み作りが求められている。                                                                                                                                                                                              |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 医薬品安全管理委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎渡邊 茂、佐藤 賢、松田 隆史、菊地 正人、芦埜 和幸、半田 貢康                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 我々を取り巻く状況と課題  | 平成19年の改正医療法により、病院・診療所等の管理者に「医薬品の安全使用のための責任者（医薬品安全管理責任者）を配置することが義務付けられた。医薬品安全管理者の役割としては、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成、従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、業務手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集と医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施とされている。こうした中で病院薬剤師は、医療安全の観点で言えば、医薬品の適正使用の実践に加え、リスクマネージャーとしての職能が求められるようになってきている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 活動内容          | <p><b>【会議】</b><br/> 「令和4年度 第1回県病薬医薬品安全管理委員会」<br/> 日 時：令和4年11月10日(木) 14:00～15:00 ZOOMにて開催<br/> 参加者：渡邊、佐藤、芦埜、松田、半田<br/> 協議事項：①令和3年度の委員会活動報告について<br/> ②日病薬東北ブロック学術大会の医療安全シンポジウムの報告について<br/> ③令和4年度の委員会活動（研修会の開催）について</p> <p>「令和4年度 第1回県病薬医薬品安全管理委員会」<br/> 日 時：令和5年3月2日(木) 16:00～17:00 ZOOMにて開催<br/> 参加者：渡邊、佐藤、菊地、芦埜、松田、半田<br/> 協議事項：①3/10の医薬品安全管理研修会のリハーサルについて<br/> ②医薬品安全に関する各施設からの情報提供<br/> ③プレアボイド報告について</p> <p><b>【研修会】</b><br/> 「令和4年度 第1回県病薬医薬品安全管理研修会」<br/> 日 時：令和5年3月10日(金) 18:00～19:30 ZOOM配信<br/> 演 題：「持参薬に関する医療安全の取り組み」<br/> 座 長：芦埜和幸（東北中央病院）<br/> 発 表：18:00～19:20（20分/人）<br/> 演 者：川井美紀（公立置賜総合病院） 粕谷法子（日本海総合病院）<br/> 赤尾 眞（米沢市立病院） 石垣俊樹（山形済生病院）<br/> 総合討論：19:20～19:30</p> |
| 反省<br>来年度に向けて | <p>今年度は本県で開催された日病薬東北ブロック第11回学術大会の医療安全シンポジウムで東北地区の各施設における取組を発信することができた。また、昨年開催できなかった県病薬の医薬品安全管理研修会も「持参薬に関する医療安全の取り組み」というテーマで開催することができた。反省すべき点としては、プレアボイド報告について、日病薬への報告に一本化したことが十分会員に周知されていなかった点が挙げられる。</p> <p>また、今年度は、県薬の医療安全委員会との合同会議にオブザーバーとして一度も参加する機会がなかったこと、及び県薬に報告されている調剤過誤等の情報が県病薬では十分に把握することができない状況にあることが懸案事項である。来年度は、県薬とも連携を取りながら本県の医薬品安全管理の充実を図っていきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 連携推進委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎伊藤 秀悦、渡邊 茂、芦野 均、長岡 一郎、大川 賢明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 我々を取り巻く状況と課題  | 多職種との連携推進は、患者様へシームレスに最適な薬物療法を提供する為に今後ますます必要と考えている。コロナ禍と言う事もあり多くの活動が制限され、ワクチン接種業務等では多くの時間を割かれた事もあり、思う様な連携に向けた活動が進まない様に感じている。新型コロナウイルスが第2類感染症より第5類感染症へ変更される事となり制限が次第に解除されて来ると考えられる為、来年度は更なる連携に向けた活動が必要である。                                                                                                                                                                                                            |
| 活動内容          | ◎令和4年6月25日(土)・26日(日)開催の<br>日本病院薬剤師会東北ブロック学術大会にて<br>シンポジウム5 地域連携<br>連携の架け橋へ ～地域医療連携強化へ県内の取り組み～<br>について企画運営等を行い、オーガナイザーを務め、発表者を各地域より6名選出し、発表も行った。120分枠でシンポジウムでは最長であったが、委員の協力により無事終了させる事が出来た。<br><br>◎令和4年度連携推進委員会の開催 2月1日(水) 16:00～17:00<br>1. 報告事項<br>1) 昨年度事業報告<br>2) 日本病院薬剤師会中小病院委員会担当学会報告<br>12月3日に行われた内容について渡邊副会長より報告<br>3) その他<br>2. 協議事項<br>1) 年度行事スケジュールについて<br>令和5年度についても1回以上の委員会を行う事を確認<br>2) その他<br>3. その他 |
| 反省<br>来年度に向けて | 今年度は積極的な活動は出来ていなかったが、県薬において令和5年度の重点事業の1つに連携推進が入る予定になっており、合同役員懇談会において確認してから正式な依頼を行うが、連携推進委員会として県薬との話し合いの場が出来れば出席していきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 実務実習委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎伊藤 秀悦、羽太 光範、渡邊 茂、清野 由利、庄司 喜恵、押切佳代子<br>小竹 美穂、延川 正雄、高橋 信明、安部 一弥                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 我々を取り巻く状況と課題  | コロナ禍においても、予定通り実習を進められる様になって来ているが、学生・スタッフ共感染対策を十分に行う必要があり、病院内への持ち込みの他に院内感染による学生の感染にも注意する必要があると考えられる。又、指導薬剤師の高齢化や退職による減少、薬剤師不足による実務実習受入れ断念等もあり、指導薬剤師の養成と実習施設の増加を図って行くと共に、世代交代が必要な時期に来ていると考えられる。                                                                                                                                                                                                                |
| 活動内容          | 令和4年9月24日(土)～25日(日)<br>第73回東北調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを山形県薬剤師会館にて山形県薬剤師会と共催で開催。<br>ディレクター：羽太 光範<br>タスクフォース：伊藤 秀悦(司会)<br>渡邊 茂(第1日目の評価)<br>押切佳代子(臨床現場での学習に有効な手法)<br>4名がそれぞれの担当として参加。<br>24名の参加予定であったが、欠席が1名となり23名で行った。<br>23日にスタッフが抗原キットにて陰性を確認し、24日朝に参加者が抗原キットにて陰性を確認し参加と感染対策を十分に行い開催した。<br><br>実務実習指導薬剤師の世代交代と施設の維持・増加の為に定期的な開催が必要と考えられる。<br>又、実務実習指導薬剤師養成ワークショップにてタスクフォースを務め、次世代の指導薬剤師を指導できる薬剤師の養成も必要と考えられる。 |
| 反省<br>来年度に向けて | コロナ禍とワークショップの開催があり、年1回の委員会開催さえ出来ず、メールでの連絡や参加確認しか出来なかった。来年度は委員会開催、出来れば集合で行い、密な情報共有や課題解決に向けた意見交換を行えればと考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名          | 学術委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委員<br>◎：委員長   | ◎山口 浩明、石川 大介、市川 勇貴、大泉 崇、小倉 次郎、小島 俊彦、<br>菅原 拓也、田中 大輔、中村 新、服部 豊                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 我々を取り巻く状況と課題  | 病院薬剤師業務が高度化・複雑化するなか、業務の質を上げるには研究マインドを持って業務を遂行することが重要である。また、薬物療法に対するエビデンスを構築していくことも我々病院薬剤師の一つの任務である。本委員会では、山形県内の病院薬剤師の学術研究レベルを向上するために、山形県病院薬剤師会学術大会の開催、ポータルサイトを通じた学術研究の推進を進めている。また、病院薬剤師のみならず山形県全体の薬剤師による学術研究活動活性化にむけ、山形県薬剤師会と共同主催している山形県薬学大会の新たな運営に参画する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動内容          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回山形県病院薬剤師会学術大会<br/>日時：令和4年11月6日(日) 13:00～15:40<br/>会場：山形テルサとZOOMを利用したハイブリッド開催<br/>学術発表：14演題<br/>優秀発表賞：<br/>「当院婦人科におけるカルボプラチン投与量決定の際に用いる24時間蓄尿法について」<br/>加賀 真樹（日本海総合病院 薬剤部）</li> <li>●第68回山形県薬学大会（今年度、病薬が幹事）<br/>日時：令和4年9月4日(日) 13:00～15:45<br/>会場：山形テルサとZOOMを利用したハイブリッド開催<br/>学術発表：13演題<br/>優秀発表賞：<br/>「来局者との面接で導いた水疱性類天疱瘡の症例」<br/>和田 怜也（ファークロス薬局あすなろ）<br/>「オープンクリーンベンチ（KOACH）導入に伴う設置条件の検討」<br/>佐東 未咲（山形市立病院済生館 薬局）</li> <li>●多施設共同研究の推進<br/>Corynebacterium属による感染症の治療法確立に関する研究（令和3年度～）<br/>参加施設：山形大学医学部附属病院、山形市立病院済生館、山形済生病院</li> <li>●学術委員会ポータルサイトの整備<br/>臨床研究関連教材の更新（令和4年12月1日）</li> <li>●優秀論文賞の選出<br/>3件の応募があり、3月中に審査終了予定である。</li> <li>●学会開催支援<br/>日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会（令和4年6月25、26日）</li> </ul> |
| 反省<br>来年度に向けて | 優秀論文賞の募集開始時期（本来1月からの予定が今年度は2月開始）が遅れてしまったのは反省すべきである。<br>来年度も、引き続き山形県病院薬剤師会学術大会や山形県薬学大会を通じ、県内の学術研究活動の推進、質の向上を図っていく。多施設共同研究も推進していく。山形開催の医療薬学フォーラム2023/第31回クリニカルファーマシーシンポジウム（実行委員長：山口浩明（山形大））の開催を支援予定である。また、日本病院薬剤師会東北ブロック第12回学術大会にて学術委員会の取り組みを発表予定である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|                      |                                                                                                                                                                                           |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名                 | 災害対策委員会                                                                                                                                                                                   |
| 委員<br>◎：委員長          | ◎萬年 琢也、横澤 大輔、芦立 昌文、齋藤 順、石垣 俊樹、佐藤 遼、<br>佐藤 拓也、大熊 良和                                                                                                                                        |
| 我々を<br>取り巻く<br>状況と課題 | 新型コロナウイルス感染症によるクラスターが病院内で発生して診療制限が行われる等、局所災害と同様の対応に多くの病院が苦慮した。豪雨災害をはじめとする自然災害が恒常化しているなか、様々な種類の災害に対し、私たち病院薬剤師は減災のために平時から何をしておくべきか、そして発災時には何をすべきか、何ができるか等、災害薬事に関する理解が必要とされている。              |
| 活動内容                 | 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ等、各病院で局所災害的な対応下であり、災害対策委員会としての活動は行っていない。                                                                                                                               |
| 反省<br>来年度に<br>向けて    | 山形県では災害時に、県、保健所及び市町村が保健医療福祉活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、保健医療福祉活動本部における、被災地ニーズの把握、支援活動チームの派遣調整等に係る助言や支援を行う「山形県災害薬事コーディネーター」の委嘱を計画している。この期待に応えるべく、災害時における薬剤師の役割について学習する場を、ウイズコロナのなか、どのように行うべきか検討する。 |

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員会名                 | U40-令和3年度 薬剤師<br>研修会実行委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 委員<br>◎：委員長          | ◎市川 勇貴、中村雄太郎、後藤 純一、小林 武志、山田 浩貴、菅原しおり、<br>吉田 諒、後藤 真吾、植松 聡志、太田 拓希、中村 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 我々を<br>取り巻く<br>状況と課題 | 薬剤師の研修会と言えば、「がん」、「感染症」、「精神疾患」、「糖尿病」など疾病と薬についての内容がほとんどを占める。しかし、30～40歳の薬剤師は「後輩育成」、「キャリアデザイン」、「医療統計」など薬から離れた分野に対して興味や悩みを持っているものも多いのではなかろうか。会議ではそういった意見もあり、2年間の任期中に他の委員会では開催しないような内容の研修会を開催すべく準備を行ってきた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 活動内容                 | ○会 議<br>・令和4年8月26日(金) 18時～19時<br>○学会・研修会<br>【①】日本病院薬剤師会東北ブロック第11回学術大会シンポジウム2<br>日時：令和4年6月25日(土) 9時15分～10時45分<br>会場：山形テルサ<br>オーガナイザー：於本 崇志先生 市川 勇貴<br>シンポジスト：三友堂病院 薬剤部 中村 新先生<br>東北医科薬科大学病院 薬剤部 岡田 浩司先生<br>岩手医科大学 医学部 薬理学講座情報伝達医学分野 小原 真美先生<br>国際医療福祉大学 薬剤部 佐藤 淳也先生<br>【②】令和4年度山形県病院薬剤師会U40研修会<br>日時：令和4年7月12日(火) 19時00分～20時40分<br>【特別講演1】座長：篠田総合病院 薬剤部 市川勇貴<br>『薬剤師 x 研究マインド -小さな気づきを大きな成果に-』<br>東北医科薬科大学病院 副薬剤師長 菊池 大輔先生<br>【特別講演2】座長：山形大学附属医学部病院 教授・薬剤部長 山口 浩明 先生<br>『CKDの最新治療について～薬剤師へ期待すること～』<br>山形大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学・衛生学講座 教授 今田 恒夫先生<br>【③】令和4年度第2回山形県病院薬剤師会U40研修会<br>日時：令和5年3月16日(木) 19時00分～20時30分<br>座長：篠田総合病院 薬剤部 市川 勇貴<br>【特別講演1】『認知症と睡眠障害の関係とその対応』<br>山形大学医学部 精神医学講座 講師 小林 良太先生<br>【特別講演2】『こんな時代だからこそ考える、薬剤師のキャリアパス』<br>宮城県立がんセンター 薬剤部 土屋 雅美先生 |
| 反省<br>来年度に<br>向けて    | 今年度最初に会員にアンケートを実施したところ、開催したい研修会として「キャリアアップ」、「統計」などの意見が多かった。医薬品が絡まない研修会では医薬品メーカーの共催が難しく研修会の企画に難渋した一年であった。コロナ禍ということもありWEB会議や面談が多くなり委員同士のコミュニケーションも難しく意見の吸い上げがうまくいかなかったと反省している。次年度は同様の研修会を引き続き行い、さらにスモールグループディスカッション等の開催も検討したい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

## ▼ブロック活動報告

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ブロック名           | 庄内ブロック                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ブロック長<br>副ブロック長 | 佐藤 賢<br>清野 由利                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 我々を取り巻く状況と課題    | 新型コロナウイルス感染症のため。2020年度、2021年度は中止となり、3年ぶりの開催となった。<br>庄内ブロックの各病院が抱える課題はそれぞれ違っていると考えられるが、薬剤の供給不安定と病院薬剤師の人材確保は共通の課題である。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動内容            | 令和4年度山形県病院薬剤師会庄内ブロック研修会<br>開催日時：令和5年3月11日(土) 14:00～16:00<br>会場：鶴岡市立荘内病院 WEB配信のハイブリッド開催<br>一般演題<br>座長 庄内余目病院薬剤部 薬局長 大川 賢明先生<br>当院血液内科・腎臓膠原病内科病棟における入院時初回面談とスクリーニングシートの適応性の検討<br>日本海総合病院薬剤部 渡邊 太貴先生<br>当院でのSGLT 2 阻害薬の処方動向調査<br>庄内余目病院薬剤部 矢島 弘基先生<br>排尿ケアチームでの薬剤師の関わり<br>鶴岡市立荘内病院薬局 高橋 直子先生<br>特別講演<br>座長 鶴岡市立荘内病院薬局 薬局長 清野 由利先生<br>地域フォーミュラリと調剤情報共有システム<br>日本海総合病院薬剤部 薬局長 佐藤 賢先生 |
| 反省<br>来年度に向けて   | 日本海総合病院、鶴岡市立荘内病院とも薬局長が定年退職となる。したがって、庄内余目病院の大川先生を中心とした新体制でブロック活動を行っていくことになる。<br>令和5年度のブロック研修会の当番は日本海総合病院になる。                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ブロック名           | 山形ブロック                                                                                                                                                                                                                                          |
| ブロック長<br>副ブロック長 | 松田圭一郎（山形市立病院済生館）<br>芦野 均（山形県立中央病院）                                                                                                                                                                                                              |
| 我々を取り巻く状況と課題    | 新型コロナについて2023年5月8日には5類格下げが行われるが、その先の対応はまだ見えていない。今年度も集合研修が困難な状況にあり、web形式の研修会が多かったと思われる。集合研修のメリットは対面で情報交換がし易いところにあると思うが、web形式の遠方からも視聴しやすいなどメリットも大きい。感染状況が収まったら集合研修に戻すだけで良いのか、今後の研修会のあり方を模索する時期かもしれないと思う。                                          |
| 活動内容            | ●山形ブロック研修会の開催<br>日時：2023年3月25日(土) 14:00～15:30<br>開催形式：Zoomウェビナー<br>総合司会：松田圭一郎<br>講演Ⅰ：「薬剤師によるがん化学療法副作用マネジメント<br>～デジタルソースは副作用管理に有用か～」<br>一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院 薬剤科 木本 真司先生<br>講演Ⅱ：「最近の胃がん薬物治療の動向とゲノム医療について」<br>山形県立新庄病院 腫瘍内科検査部長(兼)化学療法室長<br>福井 忠久先生 |
| 反省<br>来年度に向けて   | 研修会の開催時期が年度末となってしまったため、来年度は早めの企画運営に努め、多くの先生方に参加していただける充実した研修会の実施を検討して参ります。                                                                                                                                                                      |

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ブロック名           | 置賜ブロック                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ブロック長<br>副ブロック長 | ◎松田 隆史<br>○相馬 直記                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 我々を取り巻く状況と課題    | 置賜ブロック研修会は、若手薬剤師にとって学術発表を行う上で貴重な経験の場になっている。これまで毎年4つの病院で持ち回りで幹事を担当し、研修会および懇親会の企画を行ってきた。<br>ここ数年、コロナ禍の影響により研修会を企画することができない状況が続いてきたが、今回ZOOMを使用したオンラインによる研修会を開催することができた。                                                                                                                                                                                                                                              |
| 活動内容            | 令和4年度 山形県病院薬剤師会 置賜ブロック研修会<br>日時：令和5年2月24日(金) 18:00～19:00<br>会場：Web研修会(ZOOM) 参加者：52名<br><br>「日病薬の近況報告」山形県病院薬剤師会副会長<br>米沢市立病院薬剤部 薬剤部長 渡邊 茂先生<br><br>【会員発表】<br>座長 公立置賜総合病院薬剤部 副薬局長 倉本美紀子先生<br>1.「薬剤師によるCOVID-19ワクチン調製業務の体験を通して」<br>(特医)舟山病院薬剤科 鬼満 知弥先生<br>2.「療養病棟における退院支援の取り組み」<br>公立高畠病院薬剤科 入間 弓佳先生<br>3.「当院における広域抗菌薬の適正使用への取り組みについて」<br>米沢市立病院薬剤部 田中 治子先生<br>4.「調剤進捗管理システム Pro Trace を導入して」<br>公立置賜総合病院薬剤部 渡邊 大輔先生 |
| 反省<br>来年度に向けて   | 初めてのオンライン研修会の企画ということで、リハーサルのリハーサルまで行い本番に臨んだにもかかわらず、予想外の中断等のアクシデントがあり、参加者の皆様にはご迷惑をかけてしまったが、なんとか研修会を終了することができた。<br>今回久しぶりのブロック研修会の開催となったが、各施設での実務に関する取り組みについて情報共有することができ、多くの刺激をもらうことができたと思う。今後も継続して研修会を開催していく必要性を改めて感じた。                                                                                                                                                                                            |

# 一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和4年度活動決算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

(単位：円)

| 科 目              | 金         | 額         |           |
|------------------|-----------|-----------|-----------|
| I 経常収益           |           |           |           |
| 1. 受取会費          |           | 6,232,000 |           |
| 正会員受取会費          | 4,692,000 |           |           |
| 特別会員受取会費         | 252,000   |           |           |
| 準会員受取会費          | 48,000    |           |           |
| 賛助会員受取会費         | 1,240,000 |           |           |
| 2. 事業収益          |           | 1,002,000 |           |
| 研修会参加費           | 147,000   |           |           |
| 研修会共催費           | 315,000   |           |           |
| 広報誌広告費           | 540,000   |           |           |
| 3. 受取日病薬還付金      | 558,960   | 558,960   |           |
| 4. 受取寄付金         | 0         | 0         |           |
| 5. その他収益         | 48        | 48        |           |
| 経常収益計            |           |           | 7,793,008 |
| II 経常費用          |           |           |           |
| 1. 事業費           |           |           |           |
| (1) 人件費          |           |           |           |
| 会務執行部賃金          | 236,895   |           |           |
| 人件費計             | 236,895   |           |           |
| (2) その他経費        |           |           |           |
| 旅費交通費            | 54,900    |           |           |
| 通信運搬費            | 38,858    |           |           |
| 会場費              | 26,700    |           |           |
| 研修会認定申請費         | 84,700    |           |           |
| 薬学大会負担金          | 84,010    |           |           |
| 講師謝礼             | 30,000    |           |           |
| 雑 費              | 101,000   |           |           |
| その他経費計           | 420,168   |           |           |
| 事業費計             |           | 657,063   |           |
| 2. 管理費           |           |           |           |
| (1) 人件費          |           |           |           |
| 会務執行部賃金          | 394,539   |           |           |
| 人件費計             | 394,539   |           |           |
| (2) その他経費        |           |           |           |
| 旅費交通費            | 138,156   |           |           |
| 通信運搬費            | 135,594   |           |           |
| 会場費              | 22,200    |           |           |
| 広報誌作成費           | 1,089,000 |           |           |
| オンライン対策費         | 13,810    |           |           |
| 日病薬負担金           | 3,296,000 |           |           |
| 東北病薬負担金          | 50,000    |           |           |
| 日病薬東北ブロック学術大会負担金 | 500,000   |           |           |
| 日赤社協力費           | 40,000    |           |           |
| 事務局費             | 241,867   |           |           |
| 登記費              | 30,000    |           |           |
| 雑 費              | 252,101   |           |           |
| その他経費計           | 5,808,728 |           |           |
| 管理費計             |           | 6,203,267 |           |
| 経常費用計            |           |           | 6,860,330 |
| 当期正味財産増減額        |           |           | 932,678   |
| 期首引継財産額          |           |           | 6,866,736 |
| 次期繰越正味財産額        |           |           | 7,799,414 |

# 令和5年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会活動計画

## 1. 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項

本会のホームページやLINEWORKS等の手段により、タイムリーな情報発出に努めるとともに、医薬品安全管理に関する研修会の開催等を通じて、医療安全・医薬品適正使用に関連する情報やインシデント・アクシデント事例を共有することで、業務の安全水準を高めて持続的な県民の医療の質の確保に貢献する。

## 2. 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項

日常業務に役立つ取り組みや成功事例、解決できていない課題について、会員間で参考にしやすい環境を整えるとともに、必要であれば調査を施し、現状の把握と評価を行うとともに課題を改善していく。

## 3. 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項

県病薬やまがた広報誌を発行し、各施設および会員の紹介を通じ、会員間の親近感を高めるとともに、日々の医薬品情報から本会の運営に関する内容まで、手に取って触れていただく価値ある広報誌を提供するとともに、会員にとって有用なホームページになるよう工夫を講じていく。

## 4. 生涯研修及び各種認定に関する事項

会員が広い領域の研鑽の機会を確保できるようサポートをする。入職後早期から生涯を通じた研鑽の重要性を理解できるよう、新任者に対する研修会を実施する。また、がん、緩和、感染制御、精神科、周産期、糖尿病を含む専門領域についても各種認定を取得できるよう可能な支援をしていく。

## 5. 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項

本会主催の学術大会、山形県薬学大会、日病薬東北ブロック学術大会の『3大会』において、会員が日常の成果を積極的に発表できるよう工夫していく。

日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修会実施機関として、魅力ある研修会の開催を心掛け、年間30本以上を設定する。

## 6. 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項

本県には当会も含めた薬業関連6団体で組織する『山形県薬事運営協議会』が存在し、本会議では山形県の担当者を交えて協議や意見交換を行っている。今後とも関係性を重視しながら、継続して目の前の課題解決に注力していく。

また、各自治体や関連団体との連携についても、固定概念にとらわれず大局観に立った協議や取り組みを実践していく。

## 7. 薬学教育の向上に関する事項

薬学生の病院実務実習について、山形県薬剤師会と協調しながら充実した実務実習になるように本会の当該委員会や病院・薬局実務実習東北地区調整機構を通じて進めていく。

## 8. 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項

薬事災害に関わる研修会を開催し、災害時における薬剤師の役割を広く認識することで、災害時の職能発揮に生かす。

## 9. 会員の職能の向上に関する事項

日常業務における多職種間のタスクシフティング・タスクシェアリングを検討及び推進していくなかで、潜在的な職能の可能性を探求し、未来的思考で議論していく。

## 10. 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項

現在の社会的地位の評価を認識し、職能を発揮した存在アピールと、相当の待遇改善について、その機会を捉えて行動していく。

## 11. 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項

顔の見える相談しやすい会員間の交流をモットーに、様々な工夫を講じる。

## 12. 薬剤師確保に関する事項

山形県下の多くの病院が抱える薬剤師不足を解消するため、山形県及び山形県薬剤師会と連携しながら、山形県における薬剤師の需給調査の実施や効果的な薬剤師確保策を検討する。

## 13. その他本会の目的を達成するのに必要な事項

公平かつ透明性のある会の運営に努め、必要な規程等を整備するとともに、それぞれの役割を正しく理解し、本会の目的達成のために、会員一丸となって活気あふれる活動が進められるよう組織運営を行う。

# 一般社団法人山形県病院薬剤師会 令和5年度活動予算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：円)

| 科 目              | 金         | 額          |
|------------------|-----------|------------|
| I 経常収益           |           |            |
| 1. 受取会費          |           | 6,232,000  |
| 正会員受取会費          | 4,692,000 |            |
| 特別会員受取会費         | 252,000   |            |
| 準会員受取会費          | 48,000    |            |
| 賛助会員受取会費         | 1,240,000 |            |
| 2. 事業収益          |           | 975,000    |
| 研修会参加費           | 120,000   |            |
| 研修会共催費           | 315,000   |            |
| 広報誌広告費           | 540,000   |            |
| 3. 受取日病薬還付金      | 558,960   | 558,960    |
| 4. 受取寄付金         | 0         | 0          |
| 5. その他収益         | 0         | 0          |
| 経常収益計            |           | 7,765,960  |
| II 経常費用          |           |            |
| 1. 事業費           |           |            |
| (1) 人件費          |           |            |
| 会務執行部賃金          | 250,000   |            |
| 人件費計             | 250,000   |            |
| (2) その他経費        |           |            |
| 旅費交通費            | 400,000   |            |
| 通信運搬費            | 40,000    |            |
| 会場費              | 220,000   |            |
| 研修会認定申請費         | 84,700    |            |
| 薬学大会負担金          | 150,000   |            |
| 講師謝礼             | 100,000   |            |
| 雑費               | 150,000   |            |
| その他経費計           | 1,144,700 |            |
| 事業費計             |           | 1,394,700  |
| 2. 管理費           |           |            |
| (1) 人件費          |           |            |
| 会務執行部賃金          | 400,000   |            |
| 人件費計             | 400,000   |            |
| (2) その他経費        |           |            |
| 旅費交通費            | 150,000   |            |
| 通信運搬費            | 150,000   |            |
| 会場費              | 66,000    |            |
| 広報誌作成費           | 1,100,000 |            |
| 日病薬負担金           | 3,296,000 |            |
| 東北病薬負担金          | 50,000    |            |
| 日病薬東北ブロック学術大会負担金 | 200,000   |            |
| 日赤社協力費           | 40,000    |            |
| 事務局費             | 250,000   |            |
| 登記費              | 60,000    |            |
| 雑費               | 609,260   |            |
| COML             | 30,000    |            |
| 薬事運営協議会費         | 20,000    |            |
| 山新広告費            | 100,000   |            |
| 税理士費用            | 33,000    |            |
| その他              | 426,260   |            |
| 55周年記念式典開催費      | 1,000,000 |            |
| 記念誌              | 1,000,000 |            |
| その他経費計           | 7,971,260 |            |
| 管理費計             |           | 8,371,260  |
| 経常費用計            |           | 9,765,960  |
| 当期正味財産増減額        |           | -2,000,000 |
| 期首引継財産額          |           | 7,799,414  |
| 次期繰越正味財産額        |           | 5,799,414  |

▼表彰（令和4年度一般社団法人山形県病院薬剤師会通常総会以降）

令和4年度保健衛生関係功労者山形県知事表彰（令和4年11月22日）

羽太 光範 先生（山形済生病院 勤務）

令和4年度薬事功労者山形県知事感謝状受賞（令和4年11月11日）

大川 賢明 先生（庄内余目病院 勤務）

令和5年度永年会員（25年）表彰

鈴木 純一 先生（天童温泉篠田病院 勤務）

土田 昌子 先生（ファーコス薬局うわまち 勤務）

結城 正幸 先生（山形県立河北病院 勤務）

延川 正雄 先生（山形市立病院済生館 勤務）

富樫 敦子 先生（鶴岡市立荘内病院 勤務）

田中 庸 先生（鶴岡市立荘内病院 勤務）

小野 裕紀 先生（山形県立中央病院 勤務）

第2回山形県病院薬剤師会学術大会（令和4年11月6日）

◎最優秀発表賞

加賀 真樹 先生（日本海総合病院 勤務）

「当院婦人科におけるカルボプラチン投与量決定の際に用いる24時間蓄尿法について」

令和4年度優秀論文賞

◎最優秀賞

佐東 未咲 先生（山形市立病院済生館 勤務）

「オープンクリーンベンチ（KOACH）導入に伴う設置条件の検討」

◎最優秀賞

小林 聖子 先生（千歳篠田病院 勤務）

「精神科入院患者におけるベンゾジアゼピン系睡眠薬服用後の時間と転倒転落事故の関連性」

◎優 秀 賞

畠山 史朗 先生（山形大学医学部附属病院 勤務）

「The safety of pranlukast and montelukast during the first trimester of pregnancy」

## 令和4年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員（27名）

### 会長

|       |        |        |
|-------|--------|--------|
| 羽太 光範 | 山形済生病院 | 山形ブロック |
|-------|--------|--------|

### 副会長（3名）

|       |             |        |
|-------|-------------|--------|
| 伊藤 秀悦 | 篠田総合病院      | 山形ブロック |
| 渡邊 茂  | 米沢市立病院      | 置賜ブロック |
| 山口 浩明 | 山形大学医学部附属病院 | 山形ブロック |

### 理事（21名）

|       |                  |          |        |
|-------|------------------|----------|--------|
| 佐藤 賢  | 日本海総合病院          | 庄内ブロック   | ブロック長  |
| 清野 由利 | 鶴岡市立荘内病院         | 庄内ブロック   | 副ブロック長 |
| 鎌田 敬志 | 鶴岡市立荘内病院         | 庄内ブロック   |        |
| 大川 賢明 | 庄内余目病院           | 庄内ブロック   |        |
| 菊地 正人 | 寒河江市立病院          | 村山最上ブロック | ブロック長  |
| 國井 健  | 北村山公立病院          | 村山最上ブロック | 副ブロック長 |
| 萬年 琢也 | 山形県立新庄病院         | 村山最上ブロック | ブロック長  |
| 長岡 一郎 | 山形県立河北病院         | 村山最上ブロック |        |
| 松田圭一郎 | 山形市立病院済生館        | 山形ブロック   | ブロック長  |
| 芦野 均  | 山形県立中央病院         | 山形ブロック   | 副ブロック長 |
| 小倉 次郎 | 山形大学医学部附属病院      | 山形ブロック   |        |
| 金野 昇  | 山形大学医学部附属病院      | 山形ブロック   |        |
| 志田 敏宏 | 山形大学医学部附属病院      | 山形ブロック   |        |
| 芦埜 和幸 | 東北中央病院           | 山形ブロック   |        |
| 西村孝一郎 | 山形市立病院済生館        | 山形ブロック   |        |
| 市川 勇貴 | 篠田総合病院           | 山形ブロック   |        |
| 板垣 有紀 | 山形済生病院           | 山形ブロック   |        |
| 松田 隆史 | 公立置賜総合病院         | 置賜ブロック   | ブロック長  |
| 相馬 直記 | 三友堂リハビリテーションセンター | 置賜ブロック   | 副ブロック長 |
| 水口 真知 | 公立高島病院           | 置賜ブロック   |        |
| 海老名 勇 | 舟山病院             | 置賜ブロック   |        |

### 監事（2名）

|       |        |
|-------|--------|
| 藤村 晃  | 南さがえ病院 |
| 大石 玲児 | 三友堂病院  |

## 令和5年度 一般社団法人山形県病院薬剤師会役員（30名）

### 会長

|       |             |       |
|-------|-------------|-------|
| 山口 浩明 | 山形大学医学部附属病院 | 山形エリア |
|-------|-------------|-------|

### 副会長（3名）

|       |                  |       |
|-------|------------------|-------|
| 伊藤 秀悦 | 医療法人篠田好生会・篠田総合病院 | 山形エリア |
| 渡邊 茂  | 米沢市立病院           | 置賜エリア |
| 松田圭一郎 | 山形市立病院済生館        | 山形エリア |

### 理事（24名）

|       |                              |       |           |
|-------|------------------------------|-------|-----------|
| 阿部 桂子 | 山形県・酒田市病院機構日本海総合病院           | 庄内エリア | エリアマネージャー |
| 鎌田 敬志 | 鶴岡市立荘内病院                     | 庄内エリア |           |
| 大川 賢明 | 医療法人徳洲会・庄内余目病院               | 庄内エリア |           |
| 萬年 琢也 | 山形県立新庄病院                     | 最上エリア | エリアマネージャー |
| 小林 由佳 | 山形県立新庄病院                     | 最上エリア |           |
| 八楯 雅昭 | 寒河江市立病院                      | 村山エリア | エリアマネージャー |
| 國井 健  | 北村山公立病院                      | 村山エリア |           |
| 長岡 一郎 | 山形県立河北病院                     | 村山エリア |           |
| 芦野 均  | 山形県立中央病院                     | 山形エリア | エリアマネージャー |
| 金野 昇  | 山形大学医学部附属病院                  | 山形エリア |           |
| 志田 敏宏 | 山形大学医学部附属病院                  | 山形エリア |           |
| 小倉 次郎 | 山形大学医学部附属病院                  | 山形エリア |           |
| 畠山 史朗 | 山形大学医学部附属病院                  | 山形エリア |           |
| 羽太 光範 | 社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院         | 山形エリア |           |
| 板垣 有紀 | 社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院         | 山形エリア |           |
| 石山 晶子 | 社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院         | 山形エリア |           |
| 中村雄太郎 | 社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院         | 山形エリア |           |
| 延川 正雄 | 山形市立病院済生館                    | 山形エリア |           |
| 市川 勇貴 | 医療法人篠田好生会・篠田総合病院             | 山形エリア |           |
| 小林 聖子 | 医療法人篠田好生会・千歳篠田病院             | 山形エリア |           |
| 水口 真知 | 公立高畠病院                       | 置賜エリア | エリアマネージャー |
| 松田 隆史 | 公立置賜総合病院                     | 置賜エリア |           |
| 相馬 直記 | 一般財団法人三友堂病院・三友堂リハビリテーションセンター | 置賜エリア |           |
| 赤尾 眞  | 米沢市立病院                       | 置賜エリア |           |

### 監事（2名）

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 大石 玲児 | 一般財団法人三友堂病院     |
| 芦埜 和幸 | 公立学校共済組合・東北中央病院 |

# 一般社団法人山形県病院薬剤師会 会員名簿

令和5年12月26日現在

## 正会員

### 〈庄内ブロック〉

| 氏名                                                                           | 出身大学・卒業年           | 氏名     | 出身大学・卒業年          |
|------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------|-------------------|
| 山形県・酒田市病院機構日本海酒田リハビリテーション病院 〒998-0843 酒田市千石町2丁目3番20号 TEL 0234-23-1111 (114床) |                    |        |                   |
| 菅原 優子                                                                        | 東北薬大 H7            | 山本 桂   | 国医療大 H22          |
| 医療法人 順仁堂遊佐病院 〒999-8301 飽海郡遊佐町遊佐字石田7番地 TEL 0234-72-2522 (88床)                 |                    |        |                   |
| 佐藤 忠男                                                                        | 東北薬大 S40           | 佐藤 素子  | 北医大 H7            |
| 医療法人 酒田東病院 〒998-0878 酒田市こあら3丁目5番2号 TEL 0234-22-9611 (120床)                   |                    |        |                   |
| 吉岡 美佳                                                                        | 東北薬大 H9 静岡県大(修)H11 |        |                   |
| 医療法人山容会 山容病院 〒998-0074 酒田市浜松町1番7号 TEL 0234-33-3355 (220床)                    |                    |        |                   |
| 池田 洵亮                                                                        | 東北医薬大 H29          |        |                   |
| 山形県・酒田市病院機構日本海総合病院 〒998-0828 酒田市あきほ町30番地 TEL 0234-26-2001 (630床)             |                    |        |                   |
| 阿部 桂子                                                                        | 新潟薬大 H3            | 佐藤 遼   | 岐阜薬大 H21          |
| 阿部 美佐緒                                                                       | 東北薬大 S62           | 草島 宏平  | 明薬大 H21 明薬大(修)H23 |
| 成田 康之                                                                        | 昭薬大 H1             | 岡田 うらら | 東北大 H24           |
| 五十嵐 徹                                                                        | 金沢大 H3             | 伊藤 雅人  | 東北薬大 H26          |
| 茂木 佳子                                                                        | 東日本大 H3            | 菅原 しおり | 新潟薬大 H26          |
| 粕谷 法子                                                                        | 東北薬大 H6            | 武田 健史  | 新潟薬大 H29          |
| 足達 昌博                                                                        | 東北薬大 H7            | 加賀 真樹  | 東北医薬大 H30         |
| 成田 さと子                                                                       | 東北薬大 H8            | 河口 尚史  | 東薬大 H30           |
| 伊藤 文俊                                                                        | 昭薬大 H3             | 本間 美久子 | 新潟薬大 H30          |
| 小竹 美穂                                                                        | 新潟薬大 H13           | 百瀬 里穂  | 東北医薬大 H30         |
| 高橋 美香                                                                        | 道薬大 H13 星薬大(修)H15  | 佐藤 花奈  | 東北医薬大 H30         |
| 佐藤 ゆかり                                                                       | 東北大 H13            | 田村 朋香  | 東北医薬大 R2          |
| 石川 大介                                                                        | 東理大 H18            | 渡邊 太貴  | 新潟薬大 R2           |
| 佐藤 賢                                                                         | 富山医薬大 S60          | 小野寺 一誠 | 千葉科学大 R3          |
| 須藤 悦衛                                                                        | 東北薬大 S56           | 阿部 麻梨恵 | 東北医薬大 R4          |
| 白幡 雅章                                                                        | 北里大 S57            | 古木 俊也  | 東北薬大 H25          |
| 佐藤 萌子                                                                        | 明薬大 H20 明薬大(修)H22  |        |                   |
| 今井 法子                                                                        | 明薬大 H21            |        |                   |

| 氏名                                                           | 出身大学・卒業年 | 氏名     | 出身大学・卒業年  |
|--------------------------------------------------------------|----------|--------|-----------|
| 医療法人健友会・本間病院 〒998-0044 酒田市中町3丁目5番23号 TEL 0234-22-2556 (158床) |          |        |           |
| 高橋 真己                                                        | 東北薬大 S63 | 川崎 芙季子 | 横薬大 H25   |
| 池田 広子                                                        | 東北薬大 H17 | 庄司 紫音  | 青森大学 R5   |
| 石川 し乃                                                        | 共立薬大 H17 | 渋谷 幸悦  | 城西国際大学 R2 |
| 大沼 あゆみ                                                       | 東理大 H20  |        |           |

|                                                                   |                       |       |          |
|-------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------|----------|
| 医療法人徳洲会 庄内余目病院 〒999-7782 東田川郡庄内町松陽1丁目1番1号 TEL 0234-43-3434 (324床) |                       |       |          |
| 大川 賢明                                                             | 東北薬大 S62              | 船山 裕和 | 青森大 H21  |
| 加藤 八重                                                             | 富山医薬大 H10 富山医薬大(修)H12 | 岡部 加奈 | 東北薬大 H24 |
| 岡部 麻衣子                                                            | 道薬大 H18               | 矢島 弘基 | 城西大 R3   |
| 荒井 泰雄                                                             | 北医大 H20               |       |          |

|                                                                    |         |       |          |
|--------------------------------------------------------------------|---------|-------|----------|
| 医療生活協同組合やまがた・鶴岡協立病院 〒997-0816 鶴岡市文園町9番地34号 TEL 0235-23-6060 (236床) |         |       |          |
| 斎藤 尚子                                                              | 東北薬大 H8 | 佐藤 貴大 | 東北薬大 H16 |

|                                                                  |         |  |  |
|------------------------------------------------------------------|---------|--|--|
| 鶴岡協立リハビリテーション病院 〒997-0346 鶴岡市上山添字神明前38番地 TEL 0235-78-7511 (156床) |         |  |  |
| 渡部 千波                                                            | 北陸大 H27 |  |  |

|                                                       |                   |        |           |
|-------------------------------------------------------|-------------------|--------|-----------|
| 鶴岡市立荘内病院 〒997-0033 鶴岡市泉町4番20号 TEL 0235-26-5111 (521床) |                   |        |           |
| 鎌田 敬志                                                 | 東北薬大 S63          | 吉田 諒   | 東北薬大 H25  |
| 五十嵐 昌美                                                | 昭和大 H7            | 荒井 真智子 | 北医大 H20   |
| 富樫 敦子                                                 | 富山医薬大 H9          | 植村 奈緒瑠 | 奥羽大 H28   |
| 田中 庸                                                  | 昭薬大 H9            | 大池 裕貴  | 東北薬大 H27  |
| 田中 大輔                                                 | 日大 H8             | 渡部 秀   | 横薬大 H30   |
| 坂田 奈緒美                                                | 昭薬大 H14 昭薬大(修)H16 | 松田 千佳  | 北陸大 H24   |
| 佐藤 拓也                                                 | 道薬大 H18           | 佐藤 純   | 東北医薬大 H30 |
| 高橋 直子                                                 | 東北薬大 H21          | 清野 秀喜  | 新潟薬大 R4   |
| 五十嵐 康郎                                                | 金沢大 H18 金沢大(修)H20 |        |           |

|                                                              |        |       |         |
|--------------------------------------------------------------|--------|-------|---------|
| 山形県立こころの医療センター 〒997-8510 鶴岡市北茅原町13-1 TEL 0235-64-8100 (213床) |        |       |         |
| 阿部 広美                                                        | 北医大 H7 | 神山 慶子 | 千葉大 H11 |

|                                                                         |         |       |          |
|-------------------------------------------------------------------------|---------|-------|----------|
| 鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院 〒997-0752 鶴岡市湯田川字中田35番地10号 TEL 0235-38-5151 (120床) |         |       |          |
| 渡部 弘                                                                    | 城西大 S54 | 清野 由利 | 東北薬大 S60 |

## 〈村山最上ブロック〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年  
 医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院 〒996-0041 新庄市大字鳥越字駒場4623番地 TEL 0233-23-3434 (270床)

中嶋知英 北陸大 H19 下山望穂 星薬大 H27  
 榎静香 北医大 H24

最上町立最上病院 〒999-6101 最上郡最上町大字向町64番地3号 TEL 0233-43-2112 (60床)

結城智博 道薬大 H9

山形県立新庄病院 〒996-8585 新庄市金沢720番地-1 TEL 0233-22-5525 (406床)

|              |                |
|--------------|----------------|
| 萬年琢也 日大 S61  | 後藤真吾 いわき大 H28  |
| 庄司喜恵 昭薬大 H2  | 東海林千裕 岩手医大 H29 |
| 小林由佳 東薬大 H8  | 鈴木蘭 明薬大 H31    |
| 佐藤幸 東北大 H9   | 後藤夢 東北医薬大 R3   |
| 石山靖憲 星薬大 H10 | 鈴木大雅 国医療大 R4   |
| 京谷香菜 城西大 H24 | 渡邊裕太 奥羽大 R2    |
| 大泉崇 日大 H24   | 高梨野乃 東北医薬大 R5  |

医療法人社団清明会 PFC HOSPITAL 〒996-0053 山形県新庄市大字福田806 TEL 0233-22-2047 (180床)

田澤義江 東北薬大 H3

朝日町立病院 〒990-1442 西村山郡朝日町大字宮宿843番地 TEL 0237-67-2125 (50床)

庄田聡美 千葉大 H12 西村孝一郎 東北薬大 S60

尾花沢市中央診療所 〒999-4224 尾花沢市新町3丁目2番20号 TEL 0237-23-2010

服部貴 東北薬大 S62

医療法人敬愛会・尾花沢病院 〒999-4222 尾花沢市大字臈気695番地3号 TEL 0237-23-3637 (152床)

武田拓也 道薬大 H10

北村山公立病院 〒999-3702 東根市温泉町2丁目15番1号 TEL 0237-42-2111 (380床)

|                |                        |
|----------------|------------------------|
| 國井健 道薬大 S63    | 工藤由起 帝京大 H21 東北大(修)H23 |
| 押切佳代子 東北薬大 H3  | 川井隆太郎 東北薬大 H26         |
| 服部豊 東北薬大 H1    | 押切渉 千葉科学大 H28          |
| 大類あかね 東北薬大 H9  | 畠山隼 東北医薬大 H31          |
| 平浩幸 北陸大 H15    | 村形紗英 東北医薬大 R2          |
| 齊藤麻衣子 第一薬大 H13 | 管辰哉 東北医薬大 R4           |
| 植松聡志 北陸大 H19   | 仲嶋祐希 城西大 R4            |

寒河江市立病院 〒991-8508 寒河江市大字寒河江字塩水80番地 TEL 0237-86-7774 (98床)

八鍬雅昭 東北薬大 S63 中村悠香 東北薬大 H19  
 田中久美 東北薬大 H3

| 氏名                                                                | 出身大学・卒業年 | 氏名 | 出身大学・卒業年 |
|-------------------------------------------------------------------|----------|----|----------|
| 医療法人ゆうし会・南さがえ病院 〒991-0043 寒河江市大字島字島東87番地2 TEL 0237-85-6611 (130床) |          |    |          |

中澤芳文 東北薬大 S61

|                                                                    |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人風心堂 小原病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地月山堂151番地1号 TEL 0237-72-7811 (176床) |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------|--|--|--|

徳永ひとみ 東邦大 S60

|                                                        |  |  |  |
|--------------------------------------------------------|--|--|--|
| 西川町立病院 〒990-0702 西村山郡西川町海味581番地 TEL 0237-74-2211 (43床) |  |  |  |
|--------------------------------------------------------|--|--|--|

佐竹公子 日大 H9

高橋彰次郎 東北薬大 H25

|                                                                   |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人篠田好生会・天童温泉篠田病院 〒994-0024 天童市鎌田1丁目7番1号 TEL 023-653-5711 (120床) |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------------|--|--|--|

鈴木純一 明薬大 H6

小松弘 東北薬大 H28

和智麻唯子 東北薬大 H21

|                                                      |  |  |  |
|------------------------------------------------------|--|--|--|
| 天童市民病院 〒994-0047 天童市駅西5丁目2番1号 TEL 023-654-2511 (84床) |  |  |  |
|------------------------------------------------------|--|--|--|

管祐司 東北薬大 S63

星野淳 東北薬大 H3

|                                                               |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 山形県立河北病院 〒999-3511 西村山郡河北町谷地字月山堂111番地 TEL 0237-73-3131 (136床) |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|

長岡一郎 東北薬大 S62

海藤真理子 富山大 H15 東北大(修)H17

齋藤正子 東北薬大 H7

奥山俊介 東薬大 H17

後藤恵子 東北大 H8

結城正幸 東北薬大 H7 東北薬大(修)H9

|                                                                   |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人社団明山会 山形ロイヤル病院 〒999-3712 東根市大森2丁目3番6号 TEL 0237-43-8080 (322床) |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------------|--|--|--|

柴田竜希 青森大 H20

阿部里子 日薬大 H20

佐藤秀樹 東北薬大 S53

|                                                                 |  |  |  |
|-----------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人社団丹心会 吉岡病院 〒994-0026 天童市東本町3丁目5番21号 TEL 023-654-1188 (126床) |  |  |  |
|-----------------------------------------------------------------|--|--|--|

高橋功子 日大 H7

阿部千花 新潟薬大 R2

## 〈山形ブロック〉

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年  
 医療法人社団・小白川至誠堂病院 〒990-0034 山形市東原町1丁目12番26号 TEL 023-641-6075 (148床)

金子俊幸 東北薬大 S58 廣瀬諭 日大 H11  
 真壁純子 東日本大 S59

医療法人社団みゆき会・みゆき会病院 〒999-3161 上山市弁天2丁目2番11号 TEL 023-672-8282 (183床)

丘龍祥 東北薬大 H4 東北薬大(博)H19 青木一真 東北薬大 H24  
 吉田滋穰 道薬大 H11 道薬大(修)H13 芦立昌文 北陸大 H25  
 金子敦子 東北薬大 H24 太田七恵 東北大 H23 東北大(修)H25  
 高橋尚史 日大 H29

医療法人社団松柏会・至誠堂総合病院 〒990-0045 山形市桜町7番地44号 TEL 023-622-7181 (230床)

工藤浩幸 北陸大 S57 丹野杏子 東北薬大 H26  
 齊藤信之 東北薬大 H12 渡辺祐太 東北薬大 H28  
 山田千尋 奥羽大 H25 杉本莉利子 東北薬科大学 H27

医療法人篠田好生会・篠田総合病院 〒990-0045 山形市桜町2番地68号 TEL 023-623-1711 (386床)

伊藤秀悦 日大 H1 中村匡吾 東北医薬大 H30  
 半田貢康 東北薬大 H3 渡邊広大 東北医薬大 H31  
 市川勇貴 東北薬大 H18 東北薬大(修)H20 佐藤向 東北医薬大 R2  
 笹原大司 第一薬大 H16 森谷雄介 東北医薬大 R3  
 佐藤令菜 いわき大 H25 鎌田真生 岩手医大 R4

医療法人篠田好生会 千歳篠田病院 〒990-0811 山形市長町2丁目10番56号 TEL 023-684-5331 (300床)

鈴木聖子 東北薬大 H11 原宏子 東北薬大 H27  
 小林聖子 富山大 H20

医療法人東北医療福祉会山形厚生病院 〒990-2362 山形市大字菅沢字鬼越255番地 TEL 023-645-8118 (312床)

田辺雄一 東北薬大 H11

公立学校共済組合・東北中央病院 〒990-0064 山形市和合町3丁目2番5号 TEL 023-623-5111 (252床)

芦埜和幸 東北薬大 S57 海和颯 東北医薬大 H31  
 大澤千鶴子 東北薬大 H1 木村公美 国医療大 H31  
 宮崎衛江 東北薬大 H4 伊藤聡美 岩手医大 R2  
 大熊理子 奥羽大 H21 中澤郁美 武蔵野大 R4  
 黒田晋平 青森大 H26 逸見楓 東北医薬大 R4  
 庄司紘将 奥羽大 H25 横川玲雄 新潟薬大 R4

医療法人二本松会・かみのやま病院 〒999-3103 上山市金谷字下河原1370番地 TEL 023-672-2551 (426床)

高梨由紀 第一薬大 H7 柏利育 摂南大 H13

| 氏名                                                              | 出身大学・卒業年 | 氏名 | 出身大学・卒業年 |
|-----------------------------------------------------------------|----------|----|----------|
| 医療法人二本松会 山形さくら町病院 〒990-0045 山形市桜町2番地75号 TEL 023-631-2315 (339床) |          |    |          |

|      |          |      |          |
|------|----------|------|----------|
| 齋藤寛  | 東北薬大 H10 | 小林厚子 | 東北薬大 S54 |
| 永井瑛恵 | 福山大 H20  | 三浦幸恵 | 道薬大 H16  |
| 鈴木創  | 第一薬大 H19 |      |          |

|                                                        |  |  |  |
|--------------------------------------------------------|--|--|--|
| 山形県立中央病院 〒990-2292 山形市青柳1800番地 TEL 023-685-2626 (609床) |  |  |  |
|--------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 芦野均   | 東北薬大 S63          | 小幡瞳   | 城西大 H26   |
| 高橋和枝  | 明薬大 H3            | 佐藤宇高  | 岩手医大 H26  |
| 小野裕紀  | 東北大 H7 東北大(修)H9   | 山田浩貴  | 東北医薬大 H29 |
| 田村敦子  | 東北薬大 H5           | 武田桐佳  | 東北医薬大 H29 |
| 齋藤智美  | 明薬大 H8            | 尾形菜里子 | 東北医薬大 H30 |
| 小関環   | 東北大 H12           | 小林伶   | 新潟薬大 H30  |
| 遠藤尚美  | 東北大 H14 東北大(修)H16 | 上林愛   | 新潟薬大 H31  |
| 寺崎敦子  | 東北大 H15 東北大(修)H17 | 石澤大輔  | 東北医薬大 H31 |
| 大熊良和  | 奥羽大 H22           | 朝倉綾香  | 東北医薬大 R2  |
| 荒川麻美  | 東北薬大 H21          | 横沢沙紀  | 新潟薬大 R2   |
| 齋藤博子  | 国医療大 H24          | 東海林睦美 | 東北医薬大 R2  |
| 高木栄美子 | 新潟薬大 H28          | 石名坂竜彦 | 東北医薬大 R3  |
| 樋口安耶  | 国医療大 H25          | 櫻井はるか | 武蔵野大 R5   |
| 石川千尋  | 明薬大 H26           | 阿部咲織  | 奥羽大 R3    |

|                                                                  |  |  |  |
|------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 社会福祉法人恩賜財団済生会・山形済生病院 〒990-8545 山形市沖町79番1 TEL 023-682-1111 (459床) |  |  |  |
|------------------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 羽太光範  | 東北薬大 S63          | 今田良樹  | 東北医薬大 H30 |
| 西村雅次  | 東北薬大 H3           | 遠藤汐梨  | 東北医薬大 H30 |
| 板垣有紀  | 東北薬大 H5           | 齊藤奈那  | 東北医薬大 H31 |
| 石垣俊樹  | 帝京大 H12           | 佐藤奈実  | 国医療大 H31  |
| 石山晶子  | 東北薬大 H16          | 山下勇輝  | 昭和大 H27   |
| 渋谷泉   | 東北薬大 H1           | 磯部樹里  | 東北医薬大 H31 |
| 眞木秀子  | 千葉大 H14 千葉大(修)H16 | 遠藤優   | 星薬大 R3    |
| 遠藤清香  | 東北薬大 H19          | 大場有紗  | 東北医薬大 R3  |
| 中村雄太郎 | 東北薬大 H21          | 山口可奈  | 国医療大 R3   |
| 本田貴朗  | 東薬大 H21           | 渡會明希  | 北医大 R3    |
| 吉田崇志  | 東北薬大 H24          | 松田啓孝  | 医療創生 R4   |
| 佐藤智也  | 東理大 H17           | 川合里奈  | 東北医薬大 R4  |
| 清水美保  | 東北薬大 H25          | 矢野紅美子 | 東北医薬大 R4  |
| 菅野澄佳  | 昭薬大 H25           | 渡部拳人  | 東北医薬大 R4  |
| 廣川太士朗 | 明薬大 H25           | 小倉花南  | 東北医薬大 R4  |
| 田口未菜  | 東北薬大 H25          | 山本達也  | 東北医薬大 R4  |
| 佐藤清貴  | 東北薬大 H28          | 那須結衣  | 明薬大 R5    |
| 高橋優歩  | 国医療大 H29          |       |           |

氏名 出身大学・卒業年 氏名 出身大学・卒業年  
**山形市立病院 済生館 〒990-8533 山形市七日町1丁目3番26号 TEL 023-625-5555 (528床)**

|       |          |       |                     |
|-------|----------|-------|---------------------|
| 松田圭一郎 | 東北薬大 H4  | 佐東未咲  | 東北薬大 H24            |
| 大沼朋子  | 東北薬大 S63 | 竹屋里恵  | 東北薬大 H26            |
| 矢吹むつみ | 東北薬大 S62 | 鈴木麻友  | 東北薬大 H26            |
| 延川正雄  | 東北薬大 H9  | 荒井潤   | 東北薬大 H27            |
| 加川美由紀 | 東北薬大 H12 | 五十嵐綾乃 | 東北医薬大 H30           |
| 菅原拓也  | 北陸大 H14  | 志田幸平  | 静岡県大 H28 静岡県大(修)H30 |
| 斎藤順   | 新潟薬大 H16 | 岡田美桜  | 東北医薬大 R3            |
| 有川真理  | 北陸大 H16  | 田中沙織  | 東北医薬大 R3            |
| 関口徳志  | 明薬大 H15  | 海谷志保  | 東北医薬大 R4            |
| 後藤純一  | 東北薬大 H20 | 舟生佳奈子 | 東北医薬大 R4            |
| 森岡亜耶  | 東北薬大 H24 | 杉本拓哉  | 東北医薬大 H27           |

**山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形市飯田西2丁目2番2号 TEL 023-633-1122 (637床)**

|       |                     |        |                   |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
| 山口浩明  | 東北大 H11 京都大(博)H16   | 大橋弥世   | いわき大 H30          |
| 小倉次郎  | 北大 H18 北大(修)H20     | 安藤智七美  | 東北医薬大 H30         |
| 志田敏宏  | 東北薬大 H15 東北薬大(修)H17 | 今橋良太   | 奥羽大 H30           |
| 金野昇   | 東北薬大 H15 東北薬大(修)H17 | 佐藤友香子  | 昭薬大 H30           |
| 横枕史   | 星薬大 H15 東北大(博)H23   | 阿部佐智子  | 横薬大 H31           |
| 高橋信明  | 東北薬大 S63            | 土屋沙恵   | 東北医薬大 H30         |
| 小林武志  | 東北薬大 H19 東北大(修)H21  | 鹿嶋美杜   | 東北医薬大 R2          |
| 金子基子  | 東北薬大 H17 東北大(修)H19  | 白井英和   | 東北大 R2            |
| 佐藤一真  | 東北薬大 H25            | 山元彩可   | 星薬大 R2            |
| 畠山史朗  | 東北薬大 H25 山形大(博)R2   | 岸承俊    | 岩手医大 R3           |
| 須藤将裕  | 道薬大 H24 山形大(博)R3    | 提箸尚貴   | 東薬大 H29 山形大(博)R3  |
| 澤田広樹  | 東北薬大 H25            | 三浦伸晃   | 東北医薬大 R3          |
| 久坂亮介  | 岩手医大 H26            | 山口亜耶子  | 東北大 H19 東北大(修)H21 |
| 稲毛あずさ | 岩手医大 H27            | 栃木セリーナ | 東北医薬大 R4          |
| 田中聡一郎 | 横薬大 H25             | 西村卓真   | 岩手医大 R4           |
| 荒木滂   | 日大 H27              | 木村恵子   | 岩手医大 R5           |
| 鏡優貴   | 東北薬大 H28            | 齋藤舜    | 東北医薬大 R5          |
| 佐々木泉  | いわき大 H28            | 小林正人   | 星薬大 H25           |
| 豊田優   | 東北医薬大 H29           | 海老原光孝  | 東北大 S58 東北大(修)S60 |
| 鈴木愛実  | 東北医薬大 H30           |        |                   |

**独立行政法人国立病院機構 山形病院 〒990-0876 山形市行才126番地2号 TEL 023-684-5566 (300床)**

|       |          |      |                   |
|-------|----------|------|-------------------|
| 佐々木聖一 | 東北薬大 S63 | 伊藤宥加 | 東北医薬大 R3          |
| 柴田要一  | 東北薬大 H25 | 佐藤和洋 | 東北薬大 H3 東北薬大(修)H5 |
| 早川奏子  | 東北医薬大 R3 |      |                   |

**医療法人公徳会・若宮病院 〒990-2451 山形市吉原2丁目15番3号 TEL 023-643-8222 (113床)**

|      |                   |
|------|-------------------|
| 小柳康弘 | 昭薬大 H11 昭薬大(修)H13 |
|------|-------------------|

| 氏名                                                               | 出身大学・卒業年 | 氏名 | 出身大学・卒業年 |
|------------------------------------------------------------------|----------|----|----------|
| 医療法人徳洲会 山形徳洲会病院 〒990-0834 山形市清住町2丁目3番51号 TEL 023-647-3407 (292床) |          |    |          |

|      |          |        |           |
|------|----------|--------|-----------|
| 太田 香 | 東理大 H15  | 大宮 圭典  | 星薬大 H20   |
| 熊谷 綾 | 東北薬大 H24 | 小久保 和樹 | 東北医薬大 H31 |

|                                                               |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人社団清永会・矢吹病院 〒990-0885 山形市嶋北4丁目5番5号 TEL 023-682-8566 (124床) |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |        |        |          |
|-------|--------|--------|----------|
| 有川 宗平 | 日大 H16 | 石垣 みどり | 東北薬大 H16 |
| 加藤 容子 | 昭薬大 H9 |        |          |

|                                                               |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 山形県立こども医療療育センター 〒999-3145 上山市河崎三丁目7番1号 TEL 023-673-3366 (60床) |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|

小田部 友恵 東北大 H10

### 〈置賜ブロック〉

| 氏名                                                            | 出身大学・卒業年 | 氏名 | 出身大学・卒業年 |
|---------------------------------------------------------------|----------|----|----------|
| 公立置賜総合病院 〒992-0601 東置賜郡川西町大字西大塚2000番地 TEL 0238-46-5000 (496床) |          |    |          |

|        |                   |       |           |
|--------|-------------------|-------|-----------|
| 松田 隆史  | 東北薬大 S61          | 会田 俊  | 東薬大 H28   |
| 倉本 美紀子 | 東北薬大 H2           | 後藤 咲紀 | 東北薬大 H28  |
| 川井 美紀  | 新潟薬大 H6           | 渡邊 大輔 | 奥羽大 H30   |
| 安部 一弥  | 城西大 H16           | 畠山 瑞季 | 東北医薬大 H31 |
| 小島 俊彦  | 城西大 H17 城西大(修)H19 | 唐沢 美砂 | 日薬大 R2    |
| 青木 梢太  | 東北薬大 H24          | 松村 聡大 | 東北医薬大 R3  |
| 太田 拓希  | 岐阜薬大 H25          | 鈴木 規子 | 星薬大 S60   |

|                                                      |  |  |  |
|------------------------------------------------------|--|--|--|
| 公立置賜長井病院 〒993-0002 長井市屋城町2番1号 TEL 0238-84-2161 (50床) |  |  |  |
|------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |          |       |         |
|-------|----------|-------|---------|
| 横澤 大輔 | 昭和薬大 H17 | 岩瀬 希美 | 国医療大 R2 |
|-------|----------|-------|---------|

|                                                       |  |  |  |
|-------------------------------------------------------|--|--|--|
| 公立置賜南陽病院 〒992-0472 南陽市宮内1204番地 TEL 0238-47-3000 (50床) |  |  |  |
|-------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |          |       |          |
|-------|----------|-------|----------|
| 泉 妻宏治 | 東北薬大 S63 | 安部 優子 | 東北薬大 H15 |
|-------|----------|-------|----------|

|                                                                          |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 医療法人社団緑愛会・川西湖山病院 〒999-0145 東置賜郡川西町大字下奥田3796番地20号 TEL 0238-54-2100 (109床) |  |  |  |
|--------------------------------------------------------------------------|--|--|--|

山岸 靖彰 帝京大 H8 筑波大(修)H11

|                                                               |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 社会医療法人公徳会・佐藤病院 〒999-2221 南陽市柵塚948番地1号 TEL 0238-40-3170 (316床) |  |  |  |
|---------------------------------------------------------------|--|--|--|

近野 直子 新潟薬大 R2

|                                                             |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------|--|--|--|
| 一般財団法人三友堂病院 〒992-0033 米沢市福田町2丁目1-55 TEL 0238-24-3707 (178床) |  |  |  |
|-------------------------------------------------------------|--|--|--|

|       |          |        |            |
|-------|----------|--------|------------|
| 大石 玲児 | 日大 S63   | 中村 新   | 東北薬大 H21   |
| 相馬 直記 | 東北薬大 H10 | 永井 佑未子 | 国医療大 H29   |
| 香坂 和子 | 東邦大 S54  | 江口 弘晃  | 第一薬科大学 H18 |

| 氏名                                                        | 出身大学・卒業年 | 氏名      | 出身大学・卒業年 |
|-----------------------------------------------------------|----------|---------|----------|
| 公立高島病院 〒992-0351 東置賜郡高島町大字高島386番地 TEL 0238-52-5070 (130床) |          |         |          |
| 水口 真知                                                     | 東北薬大 H5  | 泉 妻 颯 士 | 東北医薬大 R4 |
| 入間 弓佳                                                     | 東北薬大 H16 | 白鳥 正孝   | 東北薬大 S58 |
| 阿部 秀平                                                     | 東北薬大 H26 |         |          |

特定医療法人 舟山病院 〒992-0027 米沢市駅前2丁目4番8号 TEL 0238-23-4435 (194床)

|       |                    |         |           |
|-------|--------------------|---------|-----------|
| 海老名 勇 | 新潟薬大 S59           | 勝 俣 美 咲 | 東北医薬大 H31 |
| 渡辺 暁子 | 東北薬大 S54 山形大(修)H22 | 鬼 満 知 弥 | 奥羽大 R3    |
| 岩崎 京子 | 東北薬大 S53           |         |           |

米沢市立病院 〒992-8502 米沢市相生町6番地36号 TEL 0238-22-2450 (322床)

|       |          |         |                   |
|-------|----------|---------|-------------------|
| 渡邊 茂  | 東北薬大 S63 | 貴 田 清 孝 | 北医大 H10 北医大(修)H12 |
| 伊藤 基江 | 新潟薬大 S61 | 赤 尾 眞   | 北陸大 H17           |
| 永井 聡  | 昭和大 H1   | 青 木 俊 人 | 北陸大 H25           |
| 田中 治子 | 東北薬大 H3  | 金 子 恵 美 | 東北薬大 H27          |
| 安達 健一 | 東北薬大 H3  | 目 黒 俊 幸 | 東大 H2 東大(修)H4     |
| 松田 尚子 | 東北薬大 H5  | 船 山 洋 史 | 東北医薬大 R2          |

公徳会米沢こころの病院 〒932-0119 米沢市アルカディア1丁目808番32 TEL 0238-27-0506 (114床)

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 齋藤 玄一 | 東北薬大 H4 | 本 柳 達 也 | 明薬大 H24 |
|-------|---------|---------|---------|

独立行政法人国立病院機構 米沢病院 〒992-1202 米沢市大字三沢26100番1号 TEL 0238-22-3210 (220床)

|      |                  |         |         |
|------|------------------|---------|---------|
| 熊谷 学 | 東薬大 H6 明薬大(修)H14 | 川 村 麻由子 | 道薬大 H15 |
| 千葉 慧 | 岩手医大 H28         |         |         |

小国町立病院 〒999-1356 西置賜郡小国町大字あけぼの1丁目1番地 TEL 0238-61-1111 (50床)

|       |          |       |          |
|-------|----------|-------|----------|
| 長坂 幸広 | 東北薬大 S63 | 堺 和 幸 | 第一薬大 H14 |
|-------|----------|-------|----------|

白鷹町立病院 〒992-0831 西置賜郡白鷹町大字荒砥甲501番地 TEL 0238-85-2155 (60床)

|       |         |        |          |
|-------|---------|--------|----------|
| 熊谷 岳仁 | 北医大 H16 | 海老名 純子 | 新潟薬大 S58 |
|-------|---------|--------|----------|

## 特別会員

氏 名 出身大学・卒業年

あおば薬局 〒998-0857 酒田市若浜町5番地1号 TEL 0234-43-1951

福 島 雅 幸 日大 H11

山形県庄内保健所 〒997-1392 東田川郡三川町大字横山字袖東19番地1号 TEL 0235-66-5664

五十嵐 有 里 東北薬大 H7

株式会社 マルタケ 庄内営業所 〒997-1321 東田川郡三川町大字押切新田字足子90番地 TEL 0235-68-2113

庄 司 知 摩 城西大 S56

有限会社メディカ ほし薬局 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

星 利 佳 東北薬大 H3

ほし薬局 新庄店 〒996-0035 新庄市鉄砲町3番地1号 TEL 0233-28-8693

大 滝 善 樹 東薬大 H14

おいのもり調剤薬局 〒994-0013 天童市老野森1丁目5番29号 TEL 023-656-8535

加 藤 淳 東北薬大 H6

アーク調剤薬局 県立中央病院前店 〒990-2214 山形市青柳1561-8 TEL 023-674-0177

生 澤 俊太郎 東薬大 H28

山形県衛生研究所 〒990-0031 山形市十日町1-6-6 TEL 023-627-1358

内 海 浩 東北薬大 H3 山形大(博)H29

さくら薬局 山形馬見ヶ崎店 〒990-0810 山形市馬見ヶ崎四丁目1番19号 TEL 023-674-6826

齋 藤 翠 岩手医大 H25

緑町Kokoro薬局 〒990-0041 山形市緑町4-14-63 TEL 023-679-5890

岡 寄 千賀子 北大 S63

ファーコス薬局うわまち 〒990-2483 山形市上町3-11-6 TEL 023-6462-293

土 田 昌 子 星薬大 H6

あさひ薬局 〒999-2241 南陽市郡山877番地3号 TEL 0238-43-2861

小 方 祥 光 東北薬大 H11

氏 名 出身大学・卒業年

杏仁薬局 〒992-0045 米沢市中央6丁目1番223号1 TEL 0238-21-3646

佐々木 小百合 奥羽大 H22

アップル薬局おきたま店 〒992-0601 山形県東置賜郡川西町大字西大塚1381-4 TEL 0238-42-6688

伊 藤 成 美 岩手医大 H29

かすが薬局 〒992-0044 山形県米沢市春日2-3-51 TEL 0238-37-9110

保 坂 知 恵 明薬大 H29

なないろ薬局 〒992-0601 山形県東置賜郡川西町西大塚1446-10 TEL 0238-27-7716

長谷川 隆 太 城西国大 H20 上 野 智 美 東北薬大 H21

アイン薬局 南陽店 〒999-2221 山形県南陽市柵塚1177 TEL 0238-50-0165

鈴 木 孝 典 東邦大 H21

土 屋 宏 美 東北薬大 H14

武 田 和 也 新潟薬大 H27

## 準 会 員

氏 名 出身大学・卒業年

遠 藤 祐 喜 東薬大 H25  
堀 絵 理 東北薬大 H26  
海 上 恵理子 東北薬大 H15  
永 井 基 瑛 静岡県立大 H26  
筒 井 有 子 北医大 H11 北医大(修) H13  
志 田 伸 子 東北薬大 H13  
佐 藤 剛 実 帝京大 H4

氏 名 出身大学・卒業年

薄 羽 八 重 金沢大 H7 金沢大(修) H9  
永 井 孝 尚 九保大 H20  
高 橋 美和子 金沢大 H11  
高 井 啓 一 東薬大 H20  
石 山 ふ み 東邦大 S60  
佐 伯 和 毅 大薬大 H9 大薬大(修)H11

## そ の 他

氏 名 出身大学・卒業年

白 石 正 東北薬大 S52

---

---

## 名誉会長・名誉会員・有功会員・顧問

---

---

### 名誉会長

白石 正 東北薬大 S52

### 名誉会員

星 盛 次 東北薬大 S32  
田 中 章 東北薬大 S37  
伊 藤 照 代 東北薬大 S36  
高 梨 正 晴 東北薬大 S38  
細 矢 政 男 東北薬大 S38  
鈴木 一 男 東北薬大 S39  
竹 田 洋 子 東北薬大 S38  
後 藤 利 行 東薬大 S42  
遠 藤 智 也 東薬大 S44  
東海林 徹 東北薬大 S49  
兼 子 紀 子 星薬大 S45  
島 津 憲 一 日大 S46

庄 司 好 子 北里大 S46  
小笠原 威 東北薬大 S50  
鈴木 啓 之 明薬大 S52  
武 田 亨 昭和大 S49  
佐 藤 秀 樹 東北薬大 S53  
岩 瀬 啓 東日本大 S55  
大 滝 和 幸 東北薬大 S53  
本 間 俊 一 北大 S53  
和 田 幸 治 東日本大 S55  
豊 口 禎 子 東北大 S51  
荒 井 浩 一 新潟薬大 S59

### 有功会員

細 谷 順 東北大 S57

### 顧 問

齋 藤 栄 治 日大 S61

# 一般社団法人山形県病院薬剤師会 賛助会員名簿

(五十音順)

|              |                      |
|--------------|----------------------|
| 旭化成ファーマ株式会社  | テルモ株式会社              |
| あすか製薬株式会社    | 東邦薬品株式会社             |
| アストラゼネカ株式会社  | 東北アルフレッサ株式会社         |
| アッヴィ合同会社     | 株式会社東北メディカル          |
| エーザイ株式会社     | 東和薬品株式会社             |
| MSD株式会社      | トーアエイヨー株式会社          |
| 岡崎医療株式会社     | 株式会社トーショー            |
| 小野薬品工業株式会社   | 鳥居薬品株式会社             |
| キッセイ薬品工業株式会社 | 株式会社 日医工山形           |
| 協和キリン株式会社    | 日医工株式会社              |
| クラシエ薬品株式会社   | 日新薬品株式会社             |
| 健栄製薬株式会社     | ニプロ株式会社              |
| 興和株式会社       | 日本イーライリリー株式会社        |
| コーアイセイ 株式会社  | 日本化薬株式会社             |
| サノフィ株式会社     | 日本血液製剤機構             |
| 参天製薬株式会社     | 日本ケミファ株式会社           |
| サンド株式会社      | 日本新薬                 |
| サンファーマ株式会社   | 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  |
| JCRファーマ株式会社  | ノバルティスファーマ株式会社       |
| 塩野義製薬株式会社    | ノボノルディスクファーマ株式会社     |
| 株式会社シバタインテック | 株式会社バイタルネット          |
| 株式会社スズケン     | 久光製薬株式会社             |
| 住友ファーマ       | 扶桑薬品工業株式会社           |
| ゼリア新薬株式会社    | 株式会社マルタケ             |
| 第一三共株式会社     | マルホ株式会社              |
| 大正製薬株式会社     | Meiji Seika ファルマ株式会社 |
| 大鵬薬品工業株式会社   | 持田製薬株式会社             |
| 武田薬品工業株式会社   |                      |
| 田辺三菱製薬株式会社   |                      |
| 株式会社ツムラ      |                      |
| 帝人ヘルスケア株式会社  |                      |

# 一般社団法人山形県病院薬剤師会 定款

令和3年3月11日 作 成  
令和3年5月21日 変 更

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、一般社団法人山形県病院薬剤師会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を山形県山形市に置く。

2 本会は、理事会の決議によって、従たる事務所を設置することができる。

## 第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は、一般社団法人日本病院薬剤師会との連携のもと、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に勤務する薬剤師の倫理及び学術水準を高め、質の高い薬物療法の確保を図ることにより、山形県民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 医療安全及び医薬品の適正使用に関する事項
- (2) 薬剤師業務に係る情報の交換及び連絡、調査に関する事項
- (3) 機関誌及び図書等の刊行並びに情報提供に関する事項
- (4) 生涯研修及び各種認定に関する事項
- (5) 学術大会、研修会等の開催及び協力に関する事項
- (6) 行政機関及び関係諸団体との連携及び協力に関する事項
- (7) 薬学教育の向上に関する事項
- (8) 災害時における医薬品の確保及び応急活動に関する事項
- (9) 会員の職能の向上に関する事項
- (10) 会員の地位向上及び待遇改善等に関する事項
- (11) 会員の相互扶助、相互親睦、福利厚生に関する事項
- (12) その他本会の目的を達成するのに必要な事項

## 第3章 会 員

(会員資格)

第5条 本会の会員は次の通りとする。

- (1) 正会員は、山形県内の病院、診療所、介護保険施設に籍を有し、本会の目的及び事業に賛同する薬剤師
- (2) 特別会員は、本会の目的及び事業に賛同する正会員以外の薬剤師
- (3) 賛助会員は、本会の目的及び事業に賛同し、事業を支援する団体又は個人
- (4) 名誉会員は、本会に特に顕著な功績のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者

- (5) 有功会員は、本会に功労のあった者で、理事会の推薦と総会の同意を経た者
- 2 正会員及び特別会員は一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員である者とする。
- 3 名誉会員及び有功会員は終身に渡って委嘱することとする。
- 4 前1項第1号の正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律48号、以下「法人法」という）上の社員とする。

(手続き及び任意退会)

第6条 本会に入会しようとする者は、会長に所定の届出をしなければならない。

- 2 会員で退会しようとする者は、会長に所定の届出をすることにより、任意にいつでも退会する事ができる。
- 3 会員でその届出事項に変更を生じた場合は、前2項と同様に、その届出をしなければならない。

(会費等)

第7条 正会員、特別会員及び賛助会員は本会所定の会費及び負担金を支払う義務を負う。

- 2 名誉会員及び有功会員は会費の納入を要しない。
- 3 会費の額及び負担金並びに徴収方法は総会で定める。
- 4 既納の会費及び負担金は理由の如何を問わずこれを返還しない。

(会員資格の喪失)

第8条 第6条及び第9条の場合のほか、会員が次の各号の一に該当するときはその資格を喪失する。

- (1) 死亡したとき及び失踪宣告を受けたとき
- (2) 成年被後見人又は被保佐人になったとき
- (3) 賛助会員資格が消滅又は死亡したとき
- (4) 正会員、特別会員及び賛助会員が正当な理由なくして会費の納入を怠り且つ催告に応じないとき
- (5) 正会員もしくは特別会員が、一般社団法人 日本病院薬剤師会の会員の身分を失ったとき

(除名)

第9条 会員に本会の名誉を毀損し又は本会の目的趣旨に反するような行為があったときは、総会の決議を経て除名することができる。ただし、総会は議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

第10条 会員が第6条第2項、第8条及び第9条の規定によりその資格を喪失したときは、本会に対する権利を失い、義務を免れる。ただし、既に発生した未履行の義務は、これを免れることができない。

(正会員の権利)

第11条 正会員は、法人法に規定された次に掲げる権利を本会に対して行使することができる。

- (1) 法人法第14条第2項の権利（定款の閲覧等）
- (2) 法人法第32条第2項の権利（社員名簿の閲覧等）
- (3) 法人法第57条第4項の権利（社員総会の議事録の閲覧等）
- (4) 法人法第50条第6項の権利（社員の代理権証明書等の閲覧等）
- (5) 法人法第51条第4項及び第52条第5項の権利（議決権行使書面の閲覧等）
- (6) 法人法第129条第3項の権利（計算書類等の閲覧等）
- (7) 法人法第229条第2項の権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）

- (8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項の権利（合併契約等の閲覧等）
- 2 理事又は監事は、その任務を怠ったときは、本会对し、これによって生じた損害を賠償する責任を負い、法人法第112条の規定にかかわらず、この責任はすべての正会員の同意がなければ免除することができない。

#### 第4章 役員等

(役員の種類及び定数)

第12条 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事25名以上30名以内
  - (2) 監事2名以内
- 2 理事のうち、1名を会長、3名以内を副会長とする。
- 3 会長をもって法人法上の代表理事とし、副会長をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

(理事の職務・権限)

第13条 会長は法令及び定款の定めにより本会を代表し、業務を執行する。

- 2 副会長は会長を補佐し、業務を執行する。
- 3 理事は理事会を構成し、職務を執行する。

(監事の職務・権限)

第14条 監事は、次の各号に規定する職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査する。
- (2) 本会の業務並びに財産及び会計の状況を監査する。
- (3) 総会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べる。
- (4) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、これを理事会に報告しなければならない。
- (5) 前号の報告をするため必要があるときは、会長に理事会の招集を請求する。ただし、その請求があった日から5日以内に、2週間以内の日を理事会とする招集通知が発せられない場合は、直接理事会を招集することができる。
- (6) 理事が総会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査し、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総会に報告する。
- (7) 理事が本会の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、その行為によって本会に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、その理事に対し、その行為をやめることを請求することができる。
- (8) その他監事に認められた法令上の権限を行使する。

(役員を選任)

第15条 理事及び監事は、総会で選任する。

- 2 会長、副会長は理事会で選定する。
- 3 理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。
- 4 各理事について、その理事及び配偶者又は三親等以内の親族等である理事の合計数が、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

5 役員に異動があったときは、2週間以内に登記しなければならない。

(役員等の任期)

第16条 役員等の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。ただし再任を妨げない。

2 欠員として補充された役員等の任期は前任者の残任期間とする。

3 役員等は第12条に定める定数を下回る場合には、任期満了又は辞任により退任した後も後任者が就任するまではその権利義務を有する。

(役員等の解任)

第17条 理事及び監事は総会の決議により、解任することができる。

2 会長、副会長は、理事会の決議により解職することができる。

(取引の制限)

第18条 理事が次に掲げる取引をしようとする場合は、その取引について重要な事実を開示し、理事会の承認を得なければならない。

(1) 自己又は第三者のためにする本会の事業の部類に属する取引

(2) 自己又は第三者のためにする本会との取引

(3) 本会がその理事の債務を保証することその他理事以外の者との間における本会とその理事との利益が相反する取引

2 前項の取引をした理事は、その取引の重要な事実を遅滞なく、理事会に報告しなければならない。

(役員等の報酬)

第19条 役員等には、その職務執行の対価として、報酬の支給や費用を弁償することができる。

2 前項の支給や弁償の基準は、総会において定める。

(名誉会長及び顧問)

第20条 本会に名誉会長及び顧問をおくことができる。名誉会長及び顧問は法人法上の役員に該当しない。

2 名誉会長は本会に特に顕著な功績のあった会長のうちから理事会の推薦と総会の同意を経て会長が委嘱し、その任期は終身とする。

3 名誉会長は会務を行わない。

4 顧問は理事会の承認を経て会長が委嘱し、その任期は委嘱した会長の在任期間とする。

5 顧問は会の運営に関し、会長のもとに応じ、随時意見を述べることができる。

6 名誉会長及び顧問は無報酬とする。

## 第5章 総 会

(構成等)

第21条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

3 総会を法人法上の社員総会とする。

4 総会は通常総会及び臨時総会とする。

5 通常総会を法人法上の定時社員総会とする。

(開催、招集)

第22条 通常総会は、毎事業年度終了後3か月以内に開催する。ただし、やむを得ない事情のある時

は理事会の決議を経て変更することができる。

2 臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事会が必要であると認めたとき

(2) 正会員の議決権の5分の1以上より会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき

3 総会は理事会の決議に基づき会長が招集する。

4 会長は第2項第2号による請求があったときは、すみやかに臨時総会を招集しなければならない。

5 総会の招集は、開会の1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項その他法令で定める事項を記載した通知を正会員に送付することで行う。

(権 限)

第23条 総会は次に掲げる事項及び法人法に定める事項を決議する。

(1) 事業計画及び予算の承認

(2) 事業報告及び計算書類の承認

(3) 理事及び監事の選任及び解任

(4) 理事及び監事の報酬等の額及びその支給基準

(5) 役員の実任の免除

(6) 名誉会員、名誉会長の選任

(7) 会員の除名

(8) 定款の変更

(9) 合併に関する事項

(10) 解散に関する事項

(11) 理事会が付議した事項

(12) その他この定款に定められた事項

2 前項の規定にかかわらず、個々の総会においてはあらかじめ目的として通知された事項以外の事項は決議を行うことができない。

(会議の成立)

第24条 総会は正会員数の過半数が出席しなければ開会することができない。

2 総会に出席できない正会員は、委任状その他代理権を証明する書面を本会に提出して、代理人(他の正会員に限る)にその議決権を代理行使させることができる。この場合、当該総会に出席したものとみなす。

3 名誉会長、顧問、名誉会員は総会に出席することができる。ただし、議決権は有しない。

(議 長)

第25条 総会の議長、副議長は総会ごとに正会員の中から選出する。

(決 議)

第26条 総会の決議は、正会員の過半数が出席し、出席正会員の過半数により行う。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事項の決議は、正会員の半数以上でかつ総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 監事の解任

(2) 会員の除名

(3) 定款の変更

- (4) 合併に関する事項
- (5) 解散に関する事項
- (6) その他法令で定められた事項

(決議の省略)

第27条 理事又は正会員が総会の目的である事項につき提案した場合において、正会員の全員が提案された議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する総会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第28条 総会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には議長、副議長及び議長が指名した出席正会員2名が記名押印をしなければならない。

## 第6章 理事会

(構成)

第29条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。
- 3 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。

(開催、招集)

第30条 理事会は次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めた場合
  - (2) 会長以外の理事から会議の目的を記載した書面により開催の請求があったとき
  - (3) 前号の請求があった日から5日以内に、その日から2週間以内の日を理事会の日とする招集の通知が発せられない場合に、その請求をした理事が招集したとき
  - (4) 第14条第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき
- 2 理事会は、会長が招集する。ただし、前項第3号により理事が招集する場合及び前項第4号により監事が招集する場合を除く。
- 3 会長は、第1項第2号又は第4号の規定による請求があったときは、その請求のあった日から2週間以内に理事会を招集しなければならない。この期間が経過しても招集されないときは、各理事又は監事が理事会を招集することができる。
  - 4 理事会の招集は、1週間前までに開会の日時及び場所並びに会議の目的である事項を通知することで行う。
  - 5 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、理事会は招集手続を経ることなく開催することができる。

(権限)

第31条 理事会は次に掲げる事項及び法人法に定める職務を行う。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長の選定及び解職
- (4) その他重要な会務の決定

(会議の成立)

第32条 理事会は議決に加わることができる理事総数の過半数が出席しなければ開会することができ

ない。

(議 長)

第33条 理事会の議長は会長とする。ただし、会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは出席理事の中から選出する。

(決 議)

第34条 理事会の決議は、出席理事の過半数により行う。ただし、その決議に特別の利害関係を有する理事は、決議に加わることができない。

(決議の省略)

第35条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、理事の全員が提案した議案につき書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事はその提案に異議を述べたときはこの限りではない。

(議事録)

第36条 理事会の議事については法令に基づき議事録を作成しなければならない。

2 議事録には出席した会長及び監事が記名押印をしなければならない。

## 第7章 諮問機関

(会議の種類)

第37条 本会に諮問機関として常務理事会を置く。

2 常務理事会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

(常務理事会)

第38条 常務理事会は会長、副会長をもって組織する。

2 常務理事会は会長、副会長の過半数の出席がなければ開会することができない。

3 常務理事会は理事会より委任された事項及び会長が理事会に付議する事項を協議し、理事会に報告を行う。

4 常務理事会は会長が必要な場合に招集して、その議長となる。

## 第8章 委員会および部会

(構 成)

第39条 理事会の補助機関として委員会および部会を置くことができる。

2 委員会及び部会は総会及び理事会の権限を侵すものではないものとする。

3 委員会及び部会に委員を置くことができる。

4 委員は理事会の承認を経て会長が委嘱する。

5 委員会及び部会に関して必要な事項は別に定める。

## 第9章 財産および会計

(財産の種類)

第40条 本会の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。

2 基本財産は、本会の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

(基本財産の維持及び処分)

第41条 基本財産は、本会の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

- 2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分又は基本財産から除外しようとするときは、理事会の決議を得なければならない。

(財産の管理および運用)

第42条 本会の財産の管理及び運用は、会長が行うものとし、その方法は、理事会の決議により別に定める。

(事業年度)

第43条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(剰余金)

第44条 本会は、剰余金の分配を行うことができない。

(会計原則)

第45条 本会の会計は、一般に公正妥当と認められる会計の慣行に従うものとする。

- 2 本会の財産の管理及び会計処理に関し必要な事項は理事会で定める。

(事業計画及び予算)

第46条 事業計画及び予算は、毎事業年度開始前に理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。

(事業報告及び決算)

第47条 事業報告及び計算書類（貸貸対照表、損益計算書（正味財産増減計算書））は、毎事業年度経過後3ヶ月以内に、監事の監査を受け、理事会の決議を経て、総会の承認を受けなければならない。

## 第10章 事務局

(事務局の設置)

第48条 本会の事務を処理するために事務局を設置する。

- 2 事務局に職員を置くことができる。
- 3 重要な職員は会長が理事会の承認を得て任免する。
- 4 事務局の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

## 第11章 定款の変更及び解散等

(定款変更)

第49条 この定款は総会の決議によって変更することができる。

(合併等)

第50条 本会は、総会において、正会員数の半数以上であって、正会員の議決権の3分の2以上の決議により、他の法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡をすることができる。

(解散)

第51条 本会は総会の決議による他法令で定められた事由により解散する。

(清算)

第52条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第5条第17号に掲げる法人又は国若

しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第12章 雑 則

(公告方法)

第53条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(細 則)

第54条 この定款に定めるものの他、本会の運営に必要な事項、理事会の決議により別に定める。

(法令の準拠)

第55条 本定款に定めのない事項は、すべて一般法人法その他の法令に従う。

薬剤管理指導、こんなお悩みありませんか？

- ☑ 薬剤師の経験やスキルに左右される
- ☑ 内容が複雑で時間がかかる
- ☑ 監査が不安
- ☑ 指導件数を増やしたい

お悩みは  
メディカラボの自動文章作成機能で解決！



薬剤管理指導システム

MedicaLab

メディカラボ

株式会社アイシーエム

〒105-0012 www.i-c-m.com

東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル7F

TEL 050-1741-7594 sales@i-c-m.com



# Creating for Tomorrow

## 昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、  
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

# AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

25g、100g、200gはチューブ入りで、投薬に便利です。

※無菌製剤ではないので、眼軟膏用基剤として用いる場合は滅菌処理が必要です。

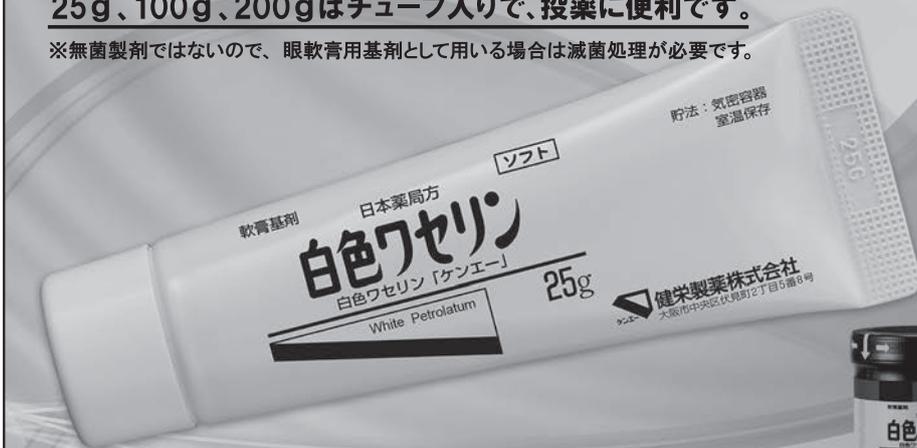
軟膏基剤

日本薬局方

ソフト

# 白色ワセリン

白色ワセリン「ケンエー」  
White Petrolatum



25g×10

軟膏基剤及び皮膚保護剤として



薬価基準収載

**組成** 1g中 日局白色ワセリン 1g含有。

**用途** 軟膏基剤（一般軟膏用基剤、眼軟膏用基剤）として調剤に用いる。 また、皮膚保護剤として用いる。

**使用上の注意** 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

| 頻度不明             |           |
|------------------|-----------|
| 過敏症 <sup>注</sup> | 発赤、発疹、痒感等 |

注) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2. 適用上の注意

使用時：本剤は無菌製剤ではないので、眼軟膏用基剤として用いる場合は、滅菌処理すること。

**包装** 25g×10、100g、200g、500g

※その他の詳細については、添付文書をご参照ください。  
「使用上の注意」の改訂に十分ご注意ください。

【資料請求先】06-6231-5822 学術情報部まで

作成年月2023年9月



健栄製薬株式会社  
大阪府中央区伏見町2丁目5番8号

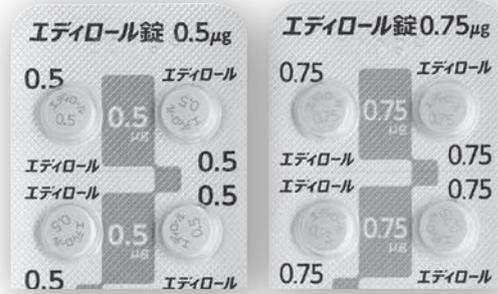


世界中の人々の  
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



第一三共株式会社



薬価基準収載

骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤)  
劇薬 処方箋医薬品<sup>注</sup>

**エディロール<sup>®</sup>錠** 0.5μg / 0.75μg  
**EDIROL<sup>®</sup>**

エルデカルシトール錠  
®中外製薬株式会社登録商標

錠剤:原寸大 PTP:90%縮小  
※画像はイメージです

※注) 注意—医師等の処方箋により使用すること  
※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等については、電子添文をご参照ください。

製造販売元

**中外製薬株式会社**  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町 2-1-1  
Roche ロシュグループ

発売

**東和薬品株式会社**

医療関係者向けサイト  
エディロール錠0.75μg



2023年8月改訂(DC-003385\_02)

経皮吸収型・β<sub>1</sub>遮断剤 薬価基準収載  
処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

**β ビソノ<sup>®</sup>テープ<sup>®</sup> 2mg・4mg・8mg**  
(ピンプロロール・テープ剤) **Bisono<sup>®</sup> tape 2mg・4mg・8mg**

**トーアエイヨー**  
製造販売

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、製品添付文書をご参照ください。

2021年10月作成 BTA4207D

[文献請求先・お問い合わせ先] トーアエイヨー株式会社 信頼性保証部 / 電話 0120-387-999

処方チェックシステム

高度な処方チェック

専門性の高いデータベース

# IRIS

アイリス

2つの技術をかけ合わせ、より高精度な鑑査を実現



### フレキシブルなチェック機能 ▶▶

- データベースを用いたチェック
- チェック項目カスタマイズ機能  
病院の運用に合わせて条件設定をカスタマイズ
- 履歴管理・集計機能

### 情報多彩なDI機能 ▶▶

- 豊富な検索項目  
詳細な絞り込み機能で、欲しい情報を素早く的確に表示

※1 IRISの処方チェック終了後、チェック結果を確認してください。

※2 鑑査結果がNGの場合は疑義照会を行います。IRISの処方チェック終了後、薬剤師による最終鑑査を必ず行ってください。※製品改良のため仕様・構成などを予告なく変更させていただく場合がございます。※掲載内容は2023年11月10日現在のものです。

機器・システム構成から動線を考慮したレイアウトまで、トータルでご提案いたします。お気軽にお問い合わせください。

**TOSHO**  
Your best pharmacy solution

株式会社トーショー  
本社 〒144-0033 東京都大田区東糀谷3-8-8

■お問合せ先 9:00~17:00(平日)  
TEL (03) 3745-1331(代)

トーショー公式サイト  
<https://www.tosho.cc/>



**NISSIN**

信頼できる 明日のためのジェネリック医薬品

2023年9月作成

持続性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー  
アジルサルタン口腔内崩壊錠

## アジルサルタンOD錠10mg「日新」 アジルサルタンOD錠20mg「日新」 アジルサルタンOD錠40mg「日新」

処方箋医薬品 薬価基準収載

注意－医師等の処方箋により使用すること



錠剤 (実物大)



錠剤 (実物大)



錠剤 (実物大)

- ◆ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子添文をご参照下さい。
- ◆ 製品詳細情報などご不明な点がございましたら、弊社MRもしくは下記までお問い合わせ下さい。

【製造販売元】 〒994-0069  
**日新製薬株式会社** 山形県天童市清池東2丁目3番1号  
TEL 023-655-2131 FAX 023-655-3419

【発売元】 〒994-0001  
**日新薬品株式会社** 山形県天童市万代3番6-2号  
TEL 023-658-6116 FAX 023-658-6118

製品情報お問い合わせ先：日新製薬株式会社 安全管理部 E-mail: d-info@yg-nissin.co.jp

ホームページに、電子添文、IF、製品写真、コード一覧等を掲載しております。 <https://www.yg-nissin.co.jp/>

日新製薬

検索

AZL-05-01

血液凝固阻止剤

# アコアラン® 静注用 600 1800

600国際単位、1800国際単位／バイアル  
**ACOALAN® Injection** アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

生物由来製品 処方箋医薬品<sup>注</sup> 薬価基準収載  
 (注意: 医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**協和キリン株式会社**  
 東京都千代田区大手町1-9-2

販売元  
**JB 一般社団法人 日本血液製剤機構**  
 東京都港区芝浦3-1-1

ACO-202007

[文献請求先及び問い合わせ先]  
 日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>

**CP Atlas** 商標出願中 **病院向け薬剤部門システム**

## 薬剤情報で患者の 治療をデザインする。

CP - Atlas は医薬品情報を活用した豊富な機能、複数の電子カルテメーカーとのデータ連携、最新の IT 技術を活用した基盤構築の3つの特徴を生かしつつ、医療従事者とコミュニケーションを促進させ、より安全かつ効果的な治療を支援します。

|                                             |                                               |                                             |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------|
| <b>患者情報管理</b><br>病名や既往歴、アレルギー情報といった患者情報の管理  | <b>DI 業務管理</b><br>医薬品データ更新によって適切な情報を正確かつ迅速に把握 | <b>持参薬管理</b><br>他施設で処方され持参された医薬品を、効率的に入力・管理 |
| <b>スクリーニング</b><br>入院情報、処方薬品、検査結果などから患者を検索   | <b>CP-Atlas<br/>充実の機能</b>                     | <b>薬歴管理</b><br>処方情報から患者の薬歴を自動で管理し、時系列で把握    |
| <b>指導記録管理</b><br>各種ガイダンスデータを使用した統一的な記録記載を支援 | <b>処方監査</b><br>患者情報と持参薬を含めた処方医薬品の飲み合わせ確認      | <b>集計・統計</b><br>薬剤師の業務改善につなげるための各種集計・統計     |

**豊富な導入実績**

2万を超える施設で利用されている信頼の医薬品情報データベースを搭載し、医療法人や公的医療機関をはじめ、多くの大学病院に導入いただいております。

**3 選べる3つのプラン**

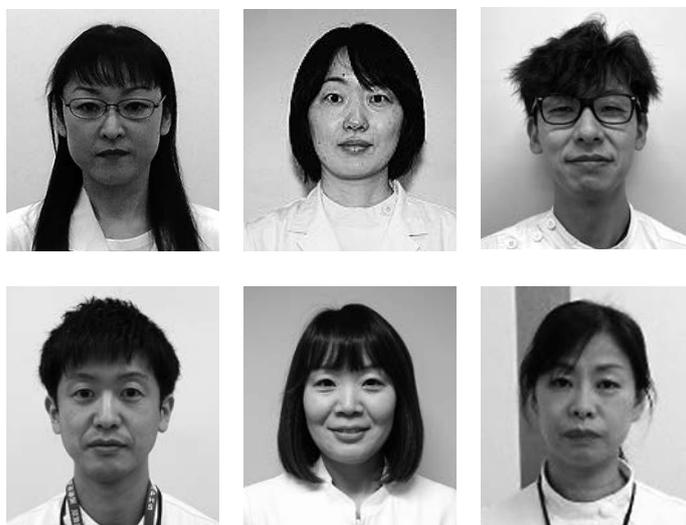
専門性を加味した実用的な医薬品データベースの搭載量に合わせて、運用に合わせた選べる3つのプランをご用意しております。さらに病棟薬剤業務や薬剤総合評価調整といったオプション機能もご利用いただけます。

**お問い合わせ**

[https://www.medicaldb.co.jp/inquiry/form\\_system.html](https://www.medicaldb.co.jp/inquiry/form_system.html)

**MDB**  
Medical Database Co., Ltd.  
メディカルデータベース株式会社  
〒105-0012 東京都港区芝大門 2-5-5 住友芝大門ビル 11F

## 一般社団法人 山形県病院薬剤師会 広報委員会



|             |       |              |
|-------------|-------|--------------|
| 山形済生病院      | 板垣有紀  | 023(682)1111 |
| 日本海総合病院     | 佐藤ゆかり | 0234(26)2001 |
| 鶴岡市立荘内病院    | 佐藤拓也  | 0235(26)5111 |
| 山形大学医学部附属病院 | 佐藤一真  | 023(633)1122 |
| 山形市立病院済生館   | 有川真理  | 023(625)5555 |
| 公立置賜総合病院    | 川井美紀  | 0238(46)5000 |

令和6年2月2日発行

発行人 山口 浩明

発行所 一般社団法人 山形県病院薬剤師会  
〒990-8545 山形市沖町79-1  
社会福祉法人 恩賜財団済生会 山形済生病院薬剤部内  
電話 023(682)1111

印刷 株式会社大風印刷  
山形市蔵王松ヶ丘1-2-6  
電話 023(689)1111